

菅田遺跡 発掘調査報告書Ⅱ

経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅱ

2022

新発田市教育委員会

菅田遺跡 発掘調査報告書Ⅱ

経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅱ

2022

新発田市教育委員会

例　　言

- 1 本報告書は、新潟県新発田市東姫田字菅田 276 番地 1 ほかに所在する菅田（すがた）遺跡（2 区）の発掘調査記録である。
- 2 本発掘調査は、経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区の工事に先立ち、新潟県新発田地域振興局の委託を受けて、新発田市教育委員会が主体となって実施した。令和 2 年 6 月 25 日から 9 月 9 日まで現地調査を、現地調査終了後から令和 4 年 3 月まで整理作業を実施し、令和 3 年度に報告書の作成と印刷を行った。
- 3 現地の発掘調査から報告書刊行に至るまでの経費は、総額の 92.5% を事業者である新潟県新発田地域振興局が負担し、残りの 7.5% を文化財保護担当部局である新発田市が負担した。なお、文化財保護担当部局負担分については、その半額を国庫補助、残りを県費補助と市費で負担している。
- 4 本発掘調査にあたっては、民間発掘調査組織による業務支援委託を導入し、新発田市の実施した一般競争入札の結果、株式会社吉田建設が受託した。
- 5 調査の記録類および遺物は、新発田市教育委員会で保管している。遺物の注記は、遺跡名を「菅田 2」と略記し、必要に応じて「遺物番号・出土グリッド・遺構・層位・日付」を記した。
- 6 本報告書の作成にあたり、遺構の図化・浄書（トレース）は、津田憲司（新発田市教育委員会）の指示・監督のもと長澤展生と作業員（とともに株式会社吉田建設）が行い、遺物の実測・拓本・トレースと挿図・図版の版下作成は、津田および津田の指示のもと整理作業員（新発田市教育委員会）が行った。
- 7 本報告書掲載の写真は、遺構を津田と長澤が、遺物を津田が撮影した。
- 8 本報告書の執筆・編集は、第 V 章を除いて津田が行った。
- 9 第 V 章の自然科学分析は、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その結果を掲載した。
- 10 図書館等（著作権法第 31 条第 1 項に規定する図書館等をいう）の利用者は、その調査研究の用に供するためには、本報告書の全体について複製することができる。
- 11 発掘調査から本報告書の作成まで、下記の諸氏・機関から多くのご協力・ご支援を賜った。記して感謝の意を表す。（順不同、敬称略）

浅井勝利　近藤勇二　水澤幸一　下中江自治会　東姫田自治会　川東土地改良区
新発田建設株式会社　新潟県教育委員会文化行政課　新潟県新発田地域振興局農村整備部
新潟県立歴史博物館

本文目次

第Ⅰ章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置	1
2 歴史的環境と周辺の遺跡	2

第Ⅱ章 調査の概要

1 調査に至る経緯と調査体制	6
2 調査方法と基本土層	9

第Ⅲ章 遺構

1 概要	12
2 中世	12
3 古代	18

第Ⅳ章 遺物

1 土器	28
2 墨書き土器・黒色土器	43
3 その他の遺物	43

第Ⅴ章 自然科学分析

45

第VI章 まとめ

47

引用・参考文献	48
遺物観察表	49
報告書抄録	後付

挿図目次

第 1 図 菅田遺跡の位置	1	第 18 図 遺構出土の土器（1）	29
第 2 図 菅田遺跡周辺の地形	2	第 19 図 遺構出土の土器（2）	30
第 3 図 菅田遺跡周辺の遺跡（古代・中世）	4	第 20 図 遺構外出土の土器（1）	32
第 4 図 試掘調査のトレンチ位置	7	第 21 図 遺構外出土の土器（2）	33
第 5 図 試掘調査の出土遺物	8	第 22 図 遺構外出土の土器（3）	34
第 6 図 グリッドの設定と基本土層	10	第 23 図 遺構外出土の土器（4）	35
第 7 図 遺構の位置（中世）	13-14	第 24 図 遺構外出土の土器（5）	36
第 8 図 1・2号土坑	15	第 25 図 遺構外出土の土器（6）	37
第 9 図 3号土坑	16	第 26 図 遺構外出土の土器（7）	38
第 10 図 1～11号ピット	17	第 27 図 遺構外出土の土器（8）	39
第 11 図 遺構の位置（古代）	19-20	第 28 図 遺構外出土の土器（9）	40
第 12 図 4～8・10号土坑	21	第 29 図 遺構外出土の土器（10）	41
第 13 図 9号土坑	22	第 30 図 遺構外出土の土器（11）	42
第 14 図 1・2・4号溝	23	第 31 図 遺構外出土の土器（12）	43
第 15 図 3号溝	24	第 32 図 墨書き土器	44
第 16 図 12～27号ピット	26	第 33 図 その他の遺物	44
第 17 図 28～36号ピット	27	第 34 図 木材の顕微鏡写真	46

図版目次

図版 1 調査区遠景、調査区近景	図版 7 土器（1）
図版 2 調査区全景、基本土層	図版 8 土器（2）
図版 3 1～3号土坑	図版 9 土器（3）
図版 4 4～7号土坑	図版 10 土器（4）
図版 5 8～10号土坑、1～4号溝	図版 11 土器（5）
図版 6 1～4号溝、2・33号ピット	図版 12 土器（6）、墨書き土器、その他の遺物

凡　例

- 1 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000「新発田」（平成15年）、新発田市作成の地形図を必要に応じて拡大・縮小したものである。
- 2 地形図・遺構図の方位記号は真北を示す。高さは海拔高で表す。
- 3 グリッド杭の国家座標は、世界測地系平面直角座標第VII系である。基準の杭とその座標については第Ⅱ章2に記述した。なお、東西方向のグリッド軸線は、真北に対してN-55° 46' 19" -Wである。
- 4 掘図の縮尺は、遺構位置図1/200、遺構平面図・断面図1/20～1/40、遺物1/3を基本とし、適宜スケールと縮尺を示した。
- 5 遺構図の「K」は、攪乱を示す。
- 6 土層説明の土色と遺物の色調は、小山正忠・竹原秀雄2008『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社を参照した。
- 7 遺物は、種別に係わりなく、通し番号を付した。本文、遺物観察表、掘図および写真図版の番号は全て一致している。
- 8 掘図中のスクリーントーンは、各掘図に凡例を示した。
- 9 遺物観察表の数値は、（ ）が復元値、< >が残存値を表す。
- 10 引用・参考文献は、巻末に一括して掲載し、本文中では著者と発行年を括弧書きで示した。ただし、第V章については分析の文末に記した。

第Ⅰ章 遺跡の位置と環境

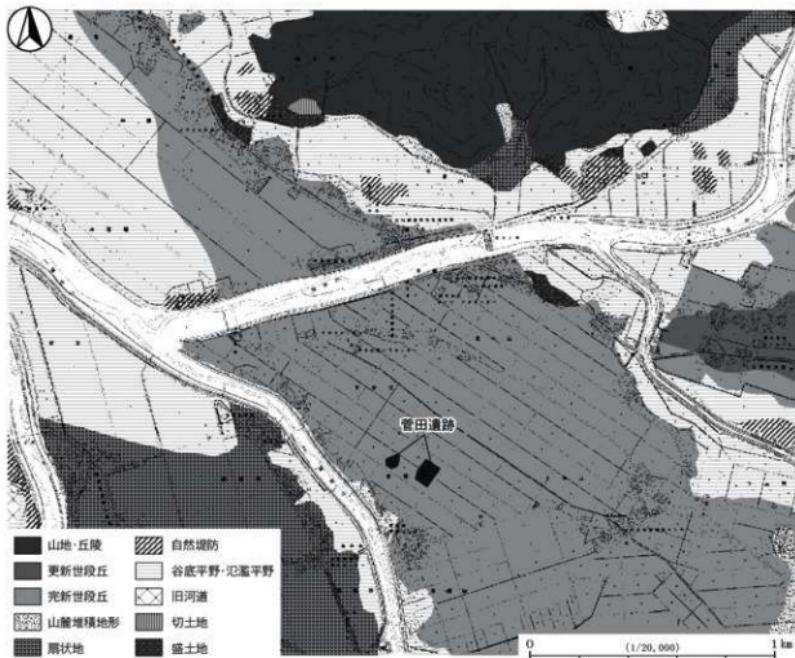
1 遺跡の位置

菅田遺跡のある新発田市は、新潟県の北部、下越地方の中でも「阿賀北地域」と呼ばれる阿賀野川以北の地域に位置する。平成15年7月に北蒲原郡豊浦町と、平成17年7月に同郡紫雲寺町・加治川村と合併したこと、北は胎内市、東は山形県西置賜郡小国町、南は阿賀野市と東蒲原郡阿賀町、西は北蒲原郡聖籠町と新潟市北区にそれぞれ接する広大な市域となった。規模は面積533.1km²、人口約9万5千人（令和3年12月末現在）で、旧新発田藩の城下町周辺を中心市街地が発達し、その周囲に農村地帯が広がっている。市域の地勢は、西半の平野部と東半の山岳部から成る。平野部は、越後（新潟）平野の一部にあたり、東の山地から流下する加治川、太田川、折居川などの河川によって形成された段丘や扇状地、自然堤防のほか、海岸線にはほぼ平行して発達した砂州や砂丘列のある海岸平野、潟湖の干拓地などによって構成されている。山岳部は、北に櫛形山脈、南に五頭山地、東に飯豊山地の山々が連なるほか、櫛形山脈と五頭山地の間には五十公野丘陵、五頭山地の西側には桜神丘陵といった独立丘陵がみられる（国土地理院 1993）。

菅田遺跡は、新発田市東姫田字菅田276番地1ほかに所在する。市街地の中心部から西へ約5.1kmに位置し、その周辺には水田が広がる。辺り一帯の地形は、南東から北西に向かって比較的緩やかに傾斜しており、北と東と西の三方向をそれぞれ坂井川、三光川、姫田川によって開まれている。遺跡付近の現標高は約15.6mである。



第1図 菅田遺跡の位置



第2図 菅田遺跡周辺の地形

本遺跡は、姫田川右岸の舌状に伸びた完新世段丘面に立地する。この段丘は、加治川支流の姫田川・坂井川などによって数千年前から形成されたもので、開析の程度が低く、広い平坦面を残している。高低による分類では、最も低い低位面に該当する。また、段丘の東と西には、坂井川や三光川、姫田川、加治川といった河川による堆積作用で作られた、谷底平野や氾濫平野などの低地および自然堤防や扇状地といった微高地が広がっている。このように、本遺跡の位置する地域は、低い平坦面が広がり、現在は水稻耕作が発達している土地であるが、複数の河川の合流地であることから、長らくその水害に悩まされてきた土地でもある。

2 歴史的環境と周辺の遺跡

菅田遺跡（1）では、令和元年度と今回の調査で、古代と中世の二つの時期に該当する遺構と遺物を検出した。本遺跡のある新発田市は、古代においては、越後国沼垂郡に位置づけられる。また、10世紀に成立した『和名類聚抄』によると、この沼垂郡には足羽・沼垂・賀地の三つの郷が存在していたといわれる。賀地郷については、その範囲が、平安時代末期に成立した加地荘と豊田荘の荘域に重なると推定される。両荘園の荘域は、新発田市北部の旧加治川村から同南部の旧豊浦町全体にわたる広大な範囲で、現在の市域の大部分に該当する。このことから、新発田市域は賀地郷に属すると考えられ（桑原 1980）、また、菅田遺跡も郷に含まれると推定される。

中世に入ると、各地で在地の有力者による荘園の開発が進み、これまでの律令制から、荘園と国領が併存する荘園公領制へと、土地の支配体制が大きく変換する。新発田市域にも荘園が成立し、旧加治川村から旧新発田

市一帯にかけては金剛院領の加地荘、旧豊浦町を中心とした市の南部には東大寺領の豊田荘が立荘するほか、旧加治川村の一部は浜間家領の奥山荘に、加治川上流域の赤谷地区は小川荘にそれぞれ含まれる。本遺跡の周辺は地理的にみて、加地荘に含まれると考えられる。加地荘については不明な点が多く、詳細な成立時期などはわかつていない。開発領主についても正確には不明であるが、城氏の一族に「加地三郎」と称した者（城長成）がいることや、近隣の荘園が城氏によって開発・領有されていることなどから、加地荘も城氏により開発・支配されていたものと推測される（阿部・木村 1980）。

本遺跡が位置する新発田市東部は、市内でも、古代から中世の遺跡が数多く分布する地域の一つである。古代は、平野部に集落が営まれたほか、窯業などの生産活動も行われている。中世になると、集落に加えて、山地とその麓に城館が多く築かれる。また、塚および石仏・石塔・石碑といった石造物も数多く作られるようになった。以下、本遺跡周辺の古代から中世の遺跡について、発掘調査を実施したものを中心に記述する。なお、第3図に示した遺跡のうち、古代は18・19・28・29・33～40・51・58～63・74～76、古代および中世は2・13～17・27・30～32・48～50・64、中世は3～12・20～26・41～47・52～57・65～73がそれぞれ該当する。

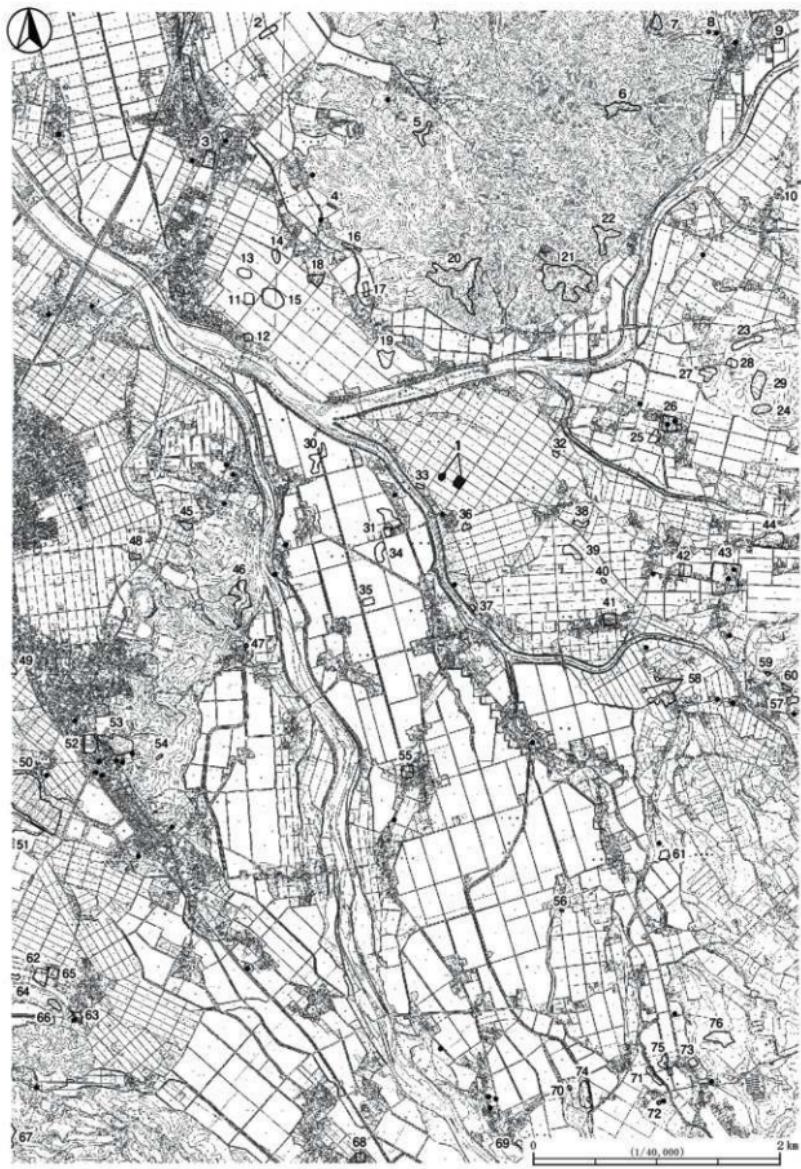
集落遺跡 坂井川右岸の自然堤防および低位面の段丘には、加治天王前遺跡（17）、太田遺跡（19）が立地する。加治天王前遺跡は、13世紀から16世紀に営まれた中世の集落跡で、掘立柱建物や井戸、土坑などを検出した。出土遺物の質と量が豊富であることから、富裕層の居住地と推定される。なお、古代については、遺物は出土しているが、遺構は検出されていない（伊藤ほか 2008）。太田遺跡は、8世紀後半から10世紀後半に営まれた古代の集落跡で、掘立柱建物や井戸などのほか、竪状小溝といった農業関連遺構を検出している（伊藤ほか 2006）。

坂井川、三光川、姫田川に囲まれた低位面の段丘には、菅田遺跡（1）のほかに、五斗遺跡（32）が立地する。五斗遺跡は、9世紀中葉の古代の集落跡で、農業関連遺構の竪状小溝などを検出した（伊藤ほか 2021）。

五斗遺跡の南東約2.5kmには、坂ノ沢D遺跡（59）が、沢を挟んでその150m南には坂ノ沢C遺跡（60）が位置する。両遺跡とも、姫田川右岸に形成された高位面の段丘に立地する古代の集落跡で、年代は9世紀中葉から10世紀と考えられる。坂ノ沢D遺跡は、土坑や溝、炭焼き施設、焼土集中箇所を検出した（渡邊・田中 1999）。坂ノ沢C遺跡は、竪穴建物や掘立柱建物、土坑、炭焼き施設を検出し、また、仏具形遺物が多く出土していることから、小規模な仏堂施設の存在が想定されている（渡邊・田中 2001）。検出した遺構・遺物の内容から、坂ノ沢C遺跡が集落の中心で、坂ノ沢D遺跡はそれに付随して形成された遺跡と推定される。

五十公野丘陵の西側に広がる段丘化した扇状地には、松橋遺跡（48）、山王遺跡（50）が立地する。松橋遺跡は、8世紀後半から9世紀前半まで営まれた古代の集落跡で、竪穴建物のほか、鍛冶炉といった鉄鍛冶関連遺構を検出している。なお、中世については、遺物は出土しているが、遺構は検出されていない。山王遺跡は、8世紀後半および13世紀後半から15世紀前半にかけて存続した古代と中世の集落跡である。古代の遺構として掘立柱建物や土坑、中世の遺構として竪穴建物などを検出した（鶴巣 1998）。

生産遺跡 菅田遺跡周辺は、手工業生産に関連する遺跡が少ない。櫛形山脈の南西約1.5km、坂井川左岸に位置する丸山（標高121.1m）の裾部には、丸山A遺跡（27）、ホーロク沢B窯跡（28）、ホーロク沢A窯跡（29）が立地するが、須恵器窯のホーロク沢A・B窯跡については調査を行っておらず、その実態は明らかではない。丸山A遺跡（27）は、8世紀後半から9世紀中葉および12世紀前葉から13世紀前半に営まれた古代と中世の集落跡である。ただし、古代については、掘立柱建物や井戸のほかに、土師器焼成坑が検出されており、生産遺跡としての性格を併せ持つ。また、土器の埋納・廃棄土坑も検出しており、生産した土器の集積・選別も行われていたと考えられる。中世については、掘立柱建物と珠洲双耳壺を埋納したピットを検出しており、近隣に所在する中世居館跡の藏光館跡（26）との関連性が推測される（渡邊ほか 2014）。



第3図 普田遺跡周辺の遺跡（古代・中世）

城館跡 檜形山脈の稜線上に、若荷谷城跡（5）、鳥屋峯城跡（6）、七曲城跡（7）、加治城跡（20）、麓城跡（21）、滝城跡（22）など、数多くの山城が築かれている。中でも、檜形山脈南端部の要害山に築かれた加治城跡は、山頂部から三方の尾根に向かって郭群が認められる、戦国時代の様相を色濃く残した山城である。佐々木加地氏の居城と伝えられ、新発田重家と上杉景勝による新発田合戦で、天正15（1587）年9月に落城したとされる。加治城跡から東へ約1.1kmに築かれた滝城跡は、山頂から延びる2本の尾根上に複数の郭が造られている。南側の尾根先端部を調査し、集石が2箇所検出された。

加治川と姫田川の合流地付近に形成された自然堤防とその周辺の微高地には、里館跡（11）、箱館跡（12）が立地する。箱館跡は、加治城跡から南西約1.5kmに位置する、一辺約70mの方形居館跡である。調査では、堀の一部や井戸、溝などを検出した。14世紀後半から15世紀に造られ、16世紀前半に館としての機能が失われたと考えられる。遺構・遺物の内容から、加地氏の庶子・被官といった小領主の居住が想定される（伊藤ほか2006）。

三光川左岸に形成された土石流段丘および扇状地には、三光館跡（42）、宝積寺館跡（43）、岡塚館跡（44）、東城館跡が立地する。これらの館跡は、佐々木加地氏の一族である竹俣氏の居館であったと考えられるが、各館がいつの時期に拠点となっていたかは定かでない。三光館跡は、東西100m、南北85mの方形居館跡で、堀の一部や堀に付随する溝、土橋などを検出している。出土遺物から16世紀まで館が存続していたと推定される。宝積寺館跡は、一辺200m以上の大規模な方形居館跡で、郭内から掘立柱建物、柵、井戸、墓坑などを多数検出した。15世紀頃は竹俣氏の居館として、16世紀以降は寺院として機能していたと考えられる（田中ほか1990）。岡塚館跡では、人為的な整地層が確認され、館の造成に関連した整地の可能性が伺える（鶴巻1998）。

五十公野丘陵の尾根上には、金谷城跡（45）、升湯山城跡（46）、五十公野城跡（53）が築かれ、また、同丘陵の西麓には五十公野館跡（52）が立地する。五十公野館跡は、佐々木加地氏の一族である五十公野氏の居館跡と考えられる。堅穴建物や井戸、土坑、溝などを検出し、青銅製鏡音立像や雁股鐵といった希少品が出土している。また、比較的多くの遺物に被熱痕が認められる。背後に位置する五十公野城跡が、新発田合戦で天正15（1587）年10月に落城しており、その関連性が推測される（戸根ほか2017）。

市域東縁の山麓部周辺も城館が多く築かれた地域である。板山川によって形成された中位面の段丘に立地する板山館跡（73）は、一辺約50mの方形居館跡で、郭内から掘立柱建物、堅穴建物、柵、井戸などを検出している。出土遺物から、14世紀後半から18世紀前半まで館や屋敷地として機能していたと考えられる。館の規模から、中世は小領主層の居館であったと推定される（本田ほか2018）。

菅田遺跡周辺の遺跡（古代・中世）

- 1 菅田遺跡 2 下野付遺跡 3 加治館跡 4 上山下遺跡 5 若荷谷城跡 6 鳥屋峯城跡 7 七曲城跡 8 伝護念上人の墓
- 9 菅谷館跡 10 下石川塚群 11 里館跡 12 箱館跡 13 岩塚遺跡 14 黒岩遺跡 15 石橋遺跡 16 加治山ノ下遺跡
- 17 加治天王前遺跡 18 批杷遺跡 19 太田遺跡 20 加治城跡 21 麓城跡 22 滝城跡 23 中川遺跡 24 香伝寺本山跡
- 25 十二林遺跡 26 薩光館跡 27 丸山A遺跡 28 ホーロク沢B窓跡 29 ホーロク沢A窓跡 30 岡田畠田遺跡 31 中道遺跡
- 32 五斗遺跡 33 川前遺跡 34 中通南遺跡 35 鶴城遺跡 36 東姫田正尺遺跡 37 道端遺跡 38 烏島遺跡 39 新川外遺跡
- 40 下楠川遺跡 41 捕川館跡 42 三光館跡 43 宝積寺館跡 44 岡塚館跡 45 金谷城跡 46 升湯山城跡 47 下新保の塚
- 48 松橋遺跡 49 南光遺跡 50 山王遺跡 51 久保住吉遺跡 52 五十公野館跡 53 五十公野城跡 54 上杉景勝陣跡
- 55 大友館跡 56 三町歩の塚群 57 山ノ下遺跡 58 吉兵衛屋敷遺跡 59 板ノ沢D遺跡 60 板ノ沢C遺跡 61 寿福寺林B遺跡
- 62 館屋敷遺跡 63 宮田遺跡 64 沢田遺跡 65 八幡館跡 66 八幡城跡 67 浦城跡 68 米倉館跡 69 宮古木塚群 70 車野原の塚
- 71 庄道田遺跡 72 ジョウ塚 73 板山館跡 74 宮古木遺跡 75 中野遺跡 76 角地山遺跡 ● 石仏・石塔・石碑

第Ⅱ章 調査の概要

1 調査に至る経緯と調査体制

分布調査と試掘調査（第4図）

姫田川右岸地区においては場整備事業の計画が持ち上がったことを受け、平成25年4月に、新潟県新発田地域振興局 農村整備部（以下、県振興局）と新発田市教育委員会（以下、市教委）は、同地区的埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて協議を行い、地区全域を対象に分布調査が必要であることを確認した。平成28年3月に、市教委は同地区的分布調査を行い、11箇所の地点について試掘・確認調査が必要である旨を県振興局と川東土地改良区に報告した。平成28年度に、経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区（総事業面積268ha）として事業が採択されると、県振興局から市教委に、同地区について試掘・確認調査の要望が提示された。それを受け、市教委では、平成28年から以下のとおり調査を実施し、現在も継続中である。

平成28年：下中江字江瀬地内（対象面積 約21,000m²） 東姫田字菅田地内（対象面積 約6,600m²）

平成29年：下三光字川原地内（対象面積 約14,900m²） 下三光字五斗地内（対象面積 約16,400m²）

東姫田字菅田地内（対象面積 約37,200m²） 下三光字金井地内（対象面積 約600m²）

令和元年：東姫田字菅田地内（対象面積 約26,100m²） 東姫田字正尺地内（対象面積 約42,500m²）

令和2年：上中江字道ワキ地内（対象面積 約3,000m²） 下三光字鳥島地内（対象面積 約32,000m²）

南盾・下三光地内（対象面積 約267,000m²） 下楠川遺跡（対象面積 約19,700m²）

調査の結果、これまで6地点で新たな遺跡を発見した。それぞれ、下三光字川原地内は閔根遺跡（遺跡番号704）、下三光字五斗地内は五斗遺跡（遺跡番号705）、東姫田字菅田地内は菅田遺跡（遺跡番号706）、東姫田字正尺地内は東姫田正尺遺跡（遺跡番号707）、下三光字鳥島地内は鳥島遺跡（遺跡番号708）、南盾・下三光地内は新川外遺跡（遺跡番号709）と砂屋敷遺跡（遺跡番号710）として周知化している。

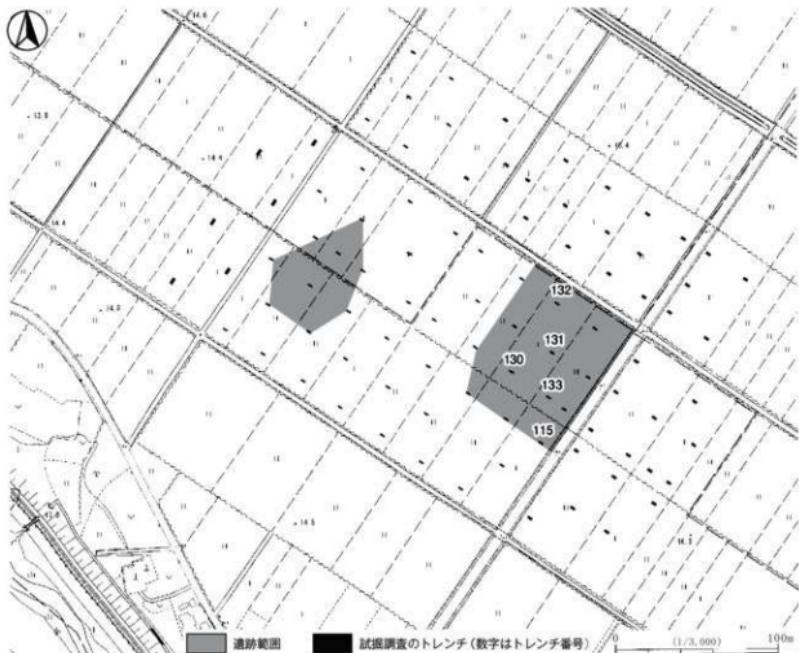
本発掘調査

平成29年の試掘調査結果を受け、平成30年4月から、県振興局と市教委は、閔根遺跡、五斗遺跡、菅田遺跡の取り扱いについて協議を開始した。協議を重ねた結果、閔根遺跡は盛土施工により現状保存することとし、五斗遺跡と菅田遺跡については、遺跡を掘削せざるを得ない用排水路部分は本発掘調査を実施し、そのほかの部分は盛土施工によって保存することで合意した。また、本発掘調査は、令和元年度に五斗遺跡と菅田遺跡の西半部（1区）を、令和2年度に菅田遺跡の東半部（2区）を行うこととし、2区の調査では、民間調査組織による業務支援委託を導入することも併せて確認した。以下、菅田遺跡（2区）の本発掘調査に係る経緯について述べる。

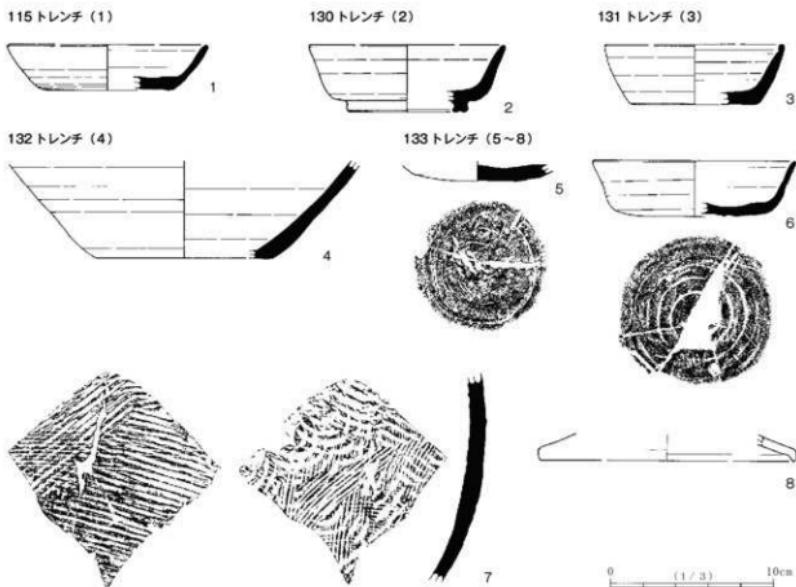
これまでの協議を踏まえ、県振興局は、文化財保護法第94条第1項に則り、令和2年2月5日付けで、新潟県教育委員会教育長宛ての芝振農整第685号「埋蔵文化財発掘の通知について」と、芝振農整第685号の2「埋蔵文化財発掘通知の進捗について（依頼）」を市教委に提出した。市教委は、令和2年2月10日付け文行第1115号-2「埋蔵文化財の発掘について（副申）」を副えて、芝振農整第685号を新潟県教育委員会（以下、県教委）に提出した。それに対して、県教委は、令和2年2月20日付け教文第1187号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」で、市教委と県振興局へ、工事の着手前に発掘調査を実施するよう通知した。県振興局は、令和2年3月11日付け芝振農整第798号「菅田遺跡に係る発掘調査について（依頼）」で、市教委に

菅田遺跡（2区）の本発掘調査実施を依頼し、市教委は同年3月24日付け文行第1243号－2「菅田遺跡に係る発掘調査について（回答）」で、その実施を受諾した。これを受け、県振興局と新発田市は、令和2年5月7日付で発掘調査費用負担の契約を締結した。費用の負担割合については、例言に記載したとおりである。業務支援委託については、新発田市が一般競争入札を実施し、令和2年5月25日付で株式会社吉田建設（以下、㈱吉田建設）と委託契約を結んだ。その後、市教委は県教委に、令和2年6月8日付け文行第296号「埋蔵文化財発掘調査の報告について」で本発掘調査の着手を報告し、同年10月16日付け文行第709号「埋蔵文化財発掘調査の報告について」で調査の終了を報告した。

調査は、工事計画の変更により調査面積が拡大したことや、遺物が当初の想定を大きく上回って多量に出土したことなどから、作業量が大幅に増加した。そのため、作業期間とその内容の見直しを行い、新発田市と㈱吉田建設は、令和2年11月30日付で業務支援委託について変更契約を締結した。また、新発田市は、令和3年1月29日付で発掘調査費用負担に係る契約の変更を県振興局へ依頼し、同年2月3日付で両者は変更契約を締結した。その後、市教委は、令和3年3月18日付け文行第1145号「経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区における埋蔵文化財包蔵地発掘調査 完了報告書」で、県振興局に令和2年度の業務が完了したことを報告した。令和3年度については、市教委が直管で本格整理作業を実施し、報告書を刊行することとなっており、令和3年5月21日付で県振興局と新発田市が発掘調査費用負担の契約を締結している。なお、菅田遺跡（2区）に係る試掘調査から報告書刊行に至るまでの調査体制は、次のとおりである。



第4図 試掘調査のトレーニング位置



第5図 試掘調査の出土遺物

調査体制

平成 29 年度（試掘調査）

調査主体 新発田市教育委員会（教育長 大山 康一）
監 理 平山 真（文化行政課長）
総 括 版井 喜行（文化行政課 課長補佐）

調査担当 本田 祐二（文化行政課 主任）
調査員 板野 岳史（文化行政課 臨時職員）
庶 務 渡邊美穂子（文化行政課 係長）

令和 2 年度（2 区：本発掘調査・整理作業）

調査主体 新発田市教育委員会（教育長 工藤ひとし）
監 理 平山 真（文化行政課長）
総 括 小林 大作（文化行政課 課長補佐）

調査担当 津田 慶司（文化行政課 主任）
調査員 長澤 展生（株式会社吉田建設）
現場代理人 林 恒（株式会社吉田建設）
庶 務 渡邊美穂子（文化行政課 係長）

令和 3 年度（2 区：整理作業・報告書刊行）

調査主体 新発田市教育委員会（教育長 工藤ひとし）
管 理 平山 真（文化行政課長）
総 括 杉山 隆（文化行政課 課長補佐）

調査担当 津田 慶司（文化行政課 主任）
庶 務 渡邊美穂子（文化行政課 係長）

2 調査方法と基本土層

調査区とグリッドの設定（第6図）

本発掘調査の対象となった調査区（2区）は、遺跡範囲のうち、ほ場整備事業によって掘削される排水路部分に該当する。その範囲は、幅6.8m、長さ70mの細長い長方形で、面積は473.7m²である。調査にあたり、遺構や遺物の位置表記に用いるために、グリッドを設定した。

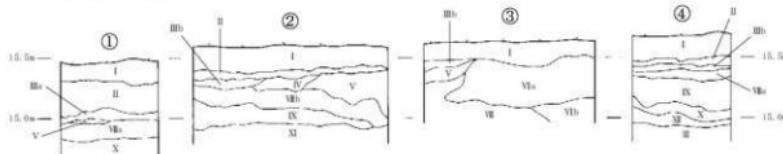
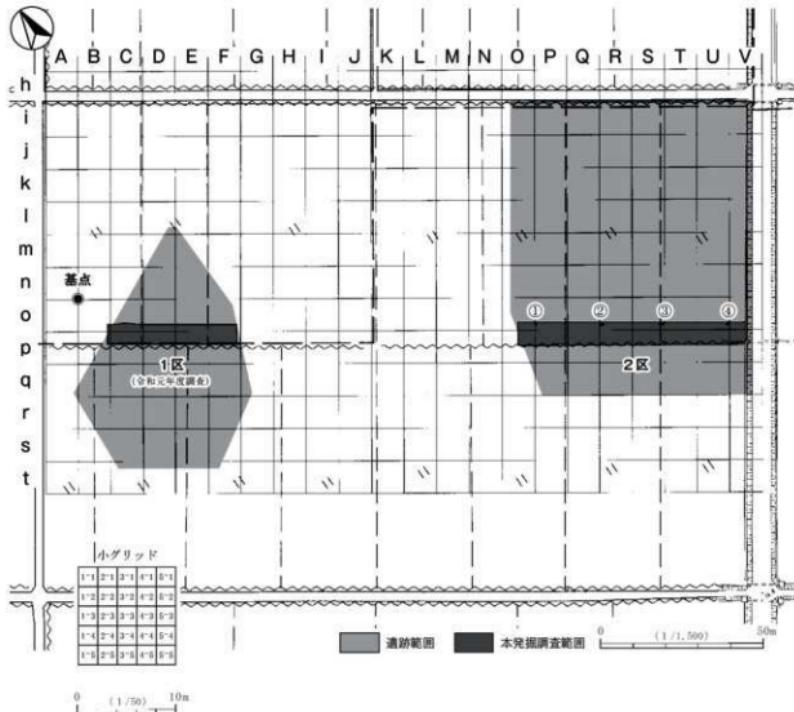
グリッドは、令和元年度の1区本発掘調査で設定したものを、遺跡全体を網羅するように延長して使用した。よって、設定の基点は1区の調査時と同じである。国家座標はX=216519.076、Y=77659.665（世界測地系平面直角座標第Ⅷ区）で、後述するグリッドの表記で示すと、「B01-1」の北西隅にあたる（伊藤ほか2021）。この基点から、1区のセンターラインに平行するように東西方向の軸線を、それに直行して南北方向の軸線を設定した。なお、東西方向の軸線は、真北に対して55°46'19"西へ傾いている。この両軸線を基準に、一辺10m四方の方眼を組み、これを大グリッドとした。また、大グリッドを東西・南北にそれぞれ5等分、計25分割した一辺2m四方の方眼を小グリッドとした。大グリッドは、西から東へ「A1・B1」…、北から南へ「a1・b1」…とそれぞれ大・小文字のアルファベットを付け、その組み合わせで「Aa1・Bb1」…と呼称し、小グリッドは、西から東、北から南へそれぞれ「1」…「5」と算用数字を付け、大グリッドと組み合わせて「Aa1-1」・「Bb5-5」…と呼称した。また、標高値については、二級水準点A-30（H=16.487m）を標準し、調査区周辺に仮杭を打設して、計測に使用した。

基本土層（第6図、図版2）

調査区（2区）現況の地表面は、標高の平均が約15.6mである。東西の比高差は約20cmで、東から西へ緩やかに傾斜した地形である。なお、この傾斜はそのまま西へと続き、2区から西へ約86mに位置する1区は、2区よりも平均で約30cm、最大で約75cm、標高が低い。

基本土層は、調査区北壁の4地点（①～④）で観察した。土層は、耕土を含めてI～XIII層に大別し、土質や包含物の違いから、アルファベットの小文字を付けてさらに細別した。I層の黒褐色土とII層の黒色混砂礫土は、水田耕作に伴う土層である。III層は古代の遺物包含層である。層厚は約2～6cmと薄いが、遺物を多量に含み、調査区のほぼ全域で確認された。土質から2層に細別でき、III層の暗灰黄色細砂は調査区西端から東へ約7mまでの範囲に、IIIb層の暗灰黄色～暗オリーブ灰色混砂礫細砂は、それよりも東側の範囲にそれぞれ堆積する。そして、IV層以下がいわゆる地山に該当する。IV層は暗灰黄色細砂である。②地点で確認されたが、その堆積範囲は限定的である。V層は黄褐色砂である。VI層は、色調からVIa層のオリーブ褐色砂とVIb層の黄褐色砂の2層に細別できる。VII層は、調査区域に比較的広く堆積している土層で、③地点を除いた3地点で確認できている。2層に細別でき、VIIa層は灰オリーブ色～暗オリーブ灰色細砂、VIIb層は黄灰色細砂である。VIII層は灰色砂、IX層は灰黄色砂、X層は灰オリーブ色粘質シルト、XI層は暗灰黄色細砂、XII層は灰白色砂、XIII層はオリーブ黒色細砂である。これらの地山は、いずれも河川に起因する堆積層と考えられる。また、VIIa層およびIX～XIII層については、未分解の植物遺体を多く含んでいることから、比較的長い時間、水の影響を受けていたことが伺える。遺構は、III層の上面で中世の遺構を、地山の上面すなわちIV～VII層の上面で古代の遺構を検出した。

地山から推定される調査区の旧地形は、調査区西端から東へ約10mのPo・Ppグリッド西半部までは、標高が約15.0mと比較的低く平坦である。そこから東へ向かって徐々に標高が高くなり、Qo・QpグリッドとRo・Rpグリッドの境目付近から調査区東端まで、若干の起伏はあるものの、標高が約15.3～15.5mのほぼ平坦な微高地状の地形が続いていく。



基本土層

- I 10YR2/2 黒褐色土上・粘性・しまりややあり。繊維を多量含む。根付。
- II 2.5Y2/1 黒色粗砂礫 上・粘性なく、しまり強い。色暗く。
- IIIa 2.5Y6/2 暗灰黄色粗砂 粘性ややあり、しまりあり。繊維を少量含む。古代の遺物包含層。
- IIIb 2.5Y6/2 暗緑黄色～2.5GY1/1 墓オーラー/灰白色粗砂礫 粘性ややあり、しまりあり。炭化物粒を微量含む。古代の遺物包含層。
- IV 2.5Y5/2 暗灰黄色 粘性ややあり、しまりあり。
- V 2.5Y5/4 黑褐色土上・粘性・しまりなし。
- VIa 2.5Y6/2 暗オーラー/灰色 粘性・しまりなし。
- VIb 2.5Y5/3 黑褐色土上・粘性・しまりなし。
- VIIa 5Y6/2 暗オーラー色～2.5GY1/1 墓オーラー/灰白色粗砂 粘性・しまりややあり。菌根状の未分解植物を多量含む。
- VIIb 1 1 1 黑褐色土上・粘性・しまりなし。根付が小さく。きめ細かい。
- IX 2.5Y7/2 暗黄褐色 粘性・しまりなし。根付が少く含む。
- X 3Y5/2 暗オーラー色粗砂シルト 粘性強く、しまりあり。菌根状の未分解植物をやや多く含む。
- XI 2.5Y6/2 暗灰黄色粗砂 粘性・しまりややあり。菌根状の未分解植物をやや多く含む。
- XII 2.5Y7/1 暗白色砂 粘性・しまりなし。根付は少く、未分解植物を多量含む。
- XIII 2.5Y7/1 暗白色砂 粘性・しまりなし。しまりややあり。部分的に灰白色砂が薄い層に堆積する。未分解植物をやや多く含む。
- XIV 3Y3/1 オーラー色粗砂 粘性あり。しまりややあり。部分的に灰白色砂が薄い層に堆積する。未分解植物をやや多く含む。

第6図 グリッドの設定と基本土層

現地調査の経過（日誌抄）

6月2日～6月24日 現地にて、調査の事前準備を開始する。現場事務所・駐車場用地において、草刈りなどの環境整備を実施した後、同地内に鉄板を敷設し、事務所や休憩所、トイレ、器材倉庫の設営と発掘資材の搬入を行う。調査区については、環境整備を行った後、調査区の北壁側に沿って、重機の稼働に必要な鉄板を敷設した。なお、22日に現作業員への説明会を現地で実施した。

6月25日～7月8日 重機による調査区の表土掘削を行い、掘削終了後に、大グリッドの杭を打設した。しかし、7月1日に急遽、県振興局から市教委へ、当初の計画を変更して工事の掘削幅を拡張したいとの要望が寄せられる。そこで、両者は協議を行い、調査区幅を6.0mから6.8mに拡張することで合意した。これを受け、6・7日に調査区北壁側の拡張部分を、再度重機によって掘削した。

7月9日～8月4日 調査区南壁側の拡張部分を人力で掘削した後、遺構の検出作業に着手する。1区の調査結果などから、当初はⅢ層の上面を遺構検出面と想定して調査を始めたが、同層中から遺物の出土がみられることなどから、調査区の壁などをを利用して、層相を詳細に検討した。その結果、Ⅲ層は古代の遺物包含層で、その下層上面が遺構検出面であることがわかった。これを受け、17日からⅢ層（遺物包含層）の掘り下げに着手した。ただし、So・Spグリッド付近については、遺物包含層の上面で遺構を確認したため、同層の掘削は直ちには行わず、上面の遺構調査

が完了した後、改めて掘り下げることとした。また、遺物の出土量が増えてきたことから、雨天時の作業として、現場事務所での遺物水洗作業を開始した。

8月5日～8月24日 遺物包含層を掘り下げた後、改めて遺構の検出作業と各遺構の調査に入る。調査は、調査区東端から順次西に向かってを行い、土坑、溝、ピットを検出した。埋土の断面図作成、遺物の取り上げ、写真撮影などを実施し、平面図作成を除く、各遺構の調査を完了した。

8月25日～8月31日 遺構の平面図作成と調査区の全景撮影を行う。平面図の作成は25・31日に実施した。全景撮影は、26・27日に調査区全体を清掃した後、28日に高所作業車とドローンを使用して撮影を行った。

9月1日～9月9日 So・Spグリッド付近について、遺物包含層の掘削とその下層の調査に入る。下層から土坑とピットを検出し、埋土の断面図と完掘平面図を作成した。その後は、遺物の水洗作業のほか、発掘資材の清掃・搬出準備や調査区に敷設した鉄板の撤去を実施した。9日にこれららの作業が完了し、現地での調査は終了した。

9月10日～9月16日 10日に遺物を㈱吉田建設の整理室へ搬出する。その後、現場事務所、休憩所、トイレなどの設備や発掘資材を搬出し、現場事務所・駐車場用地に敷設した鉄板の撤去作業を行った。15日に県振興局が現地を確認し、16日に調査区の引き渡しを行って、現地での作業が全て完了した。

整理作業

現地での調査終了後、整理作業を開始する。9月14日～12月4日までは、引き続き㈱吉田建設の業務支援を受けて、基礎的な整理を中心に行なった。遺構の図面類については、平面図と断面図の整合確認と合成を行い、清浄（トレース）した。遺物については、出土位置や日付けなどの情報を記載した後、接合と復元作業を行った。現地で撮影した写真は、記録が照合できるように、デジタル写真についてはデータを整理し、モノクロ写真についてはネガをアルバムに整理したうえで、台帳を作成した。また、出土木製品については、民間分析機関に委託して樹種同定を実施した。

12月からは、市教委の直営で、本格的な整理作業に着手した。令和2年度は、報告書に掲載する遺物の選び出しと、その実測およびトレースを行った。令和3年度も、引き続き市教委の直営で整理作業を実施する。遺構については図版の版下作成を行った。遺物については、実測とトレースのほか、拓本の採取と写真撮影を行い、図版の版下を作成した。その後、原稿の執筆と編集作業を経て、報告書を印刷・刊行した。

第三章 遺構

1 概要

今回調査を実施した2区では、中世と古代の遺構を検出している。遺構は、主にQo2-4~Qp2-3グリッドから調査区東端にかけて位置し、その範囲は、おおむね調査区内の微高地に該当する。Po3-4~Pp3-3グリッド以西の低地部分では、ピットが1基検出されただけで、ほかに遺構は確認されなかった。

中世の遺構は、古代の遺物包含層であるIII層の上面で検出した。検出した遺構は、土坑3基、ピット11基である。ピットについては、現地調査時および整理事業時に、平面の規模や配列、底面の標高などを検討したが、規則性は認められず、掘立柱建物や樅などの遺構を想定するには至らなかった。これらの遺構は、Rp1-2~So5-5グリッドに位置し、その範囲は狭く限定的である。後世の水稲耕作に伴う掘削の影響からか、遺構の上部は削平されており、その遺存状態はあまり良くない。なお、上記の遺構のほかに、溝状および土坑状のプランを三つ検出したが、埋土から近世の陶器が出土地したことなどから、擾乱とした。

古代の遺構は、地山の上面すなわちIV~VII層の上面で検出した。検出した遺構は、土坑7基、溝4条、ピット25基である。ピットについては、中世のそれと同様、規則性は認められなかった。検出した遺構は、その分布に大きく三つのまとまりがみられる。すなわち、Qp2-1~Rp3-1グリッドには4~6号土坑とP13~25が、R05-5~Sp4-3グリッドには7~8号土坑とP26~30が、T01-5~Up3-1グリッドには9号土坑と1~4号溝、P31~36がそれぞれ位置する。ただし、これらのまとまりの意味するところは明らかではない。なお、遺構は上部がかなり削平されており、その遺存状態は良くなかった。

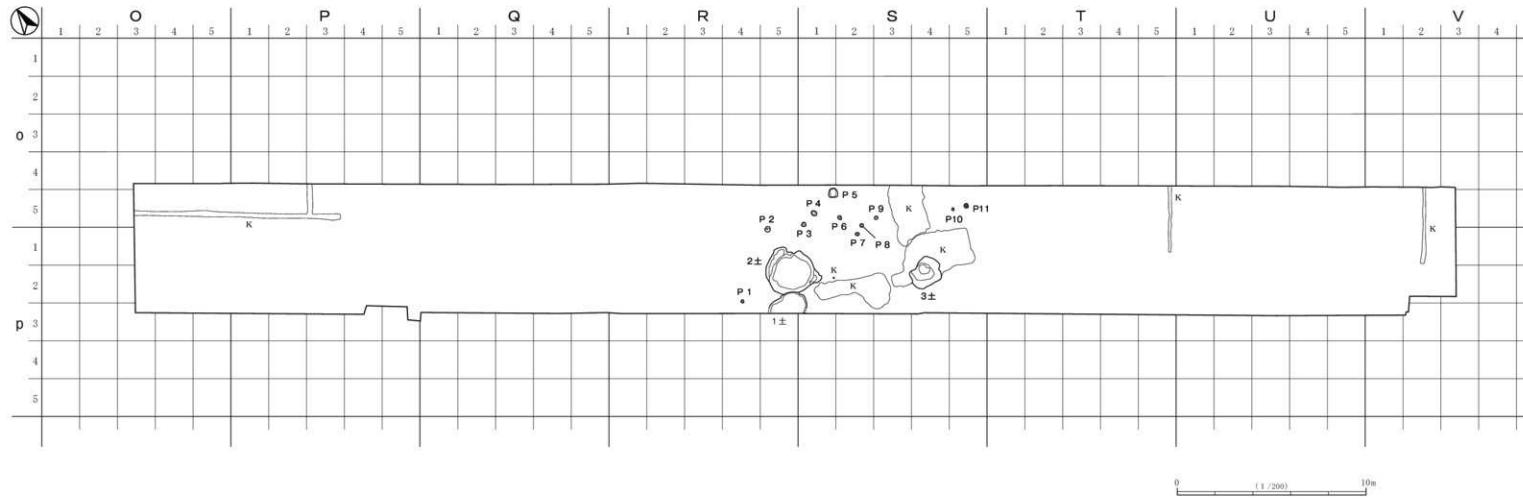
以下、中世、古代の順に遺構について記述していく。なお、遺構は、種別ごとに両時代を通じて連続した番号を付している。

2 中世

1・2号土坑（第8図、図版3）

1号土坑は、Rp5-2~Sp1-3グリッドに位置する。遺構の一部が南側の調査区外に広がるため、全体の規模は不明であるが、平面は不整な円形もしくは楕円形と推定される。確認できた規模は、東西方向に197cm、南北方向に113cm、検出面から底面までの深さは6cmである。断面は浅い皿状で、底面は平坦である。埋土は黒色混砂礫土の单層である。2号土坑と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が新しい。遺物は、土師器の小破片が1点出土しているが、遺構の時期を示すものではない。

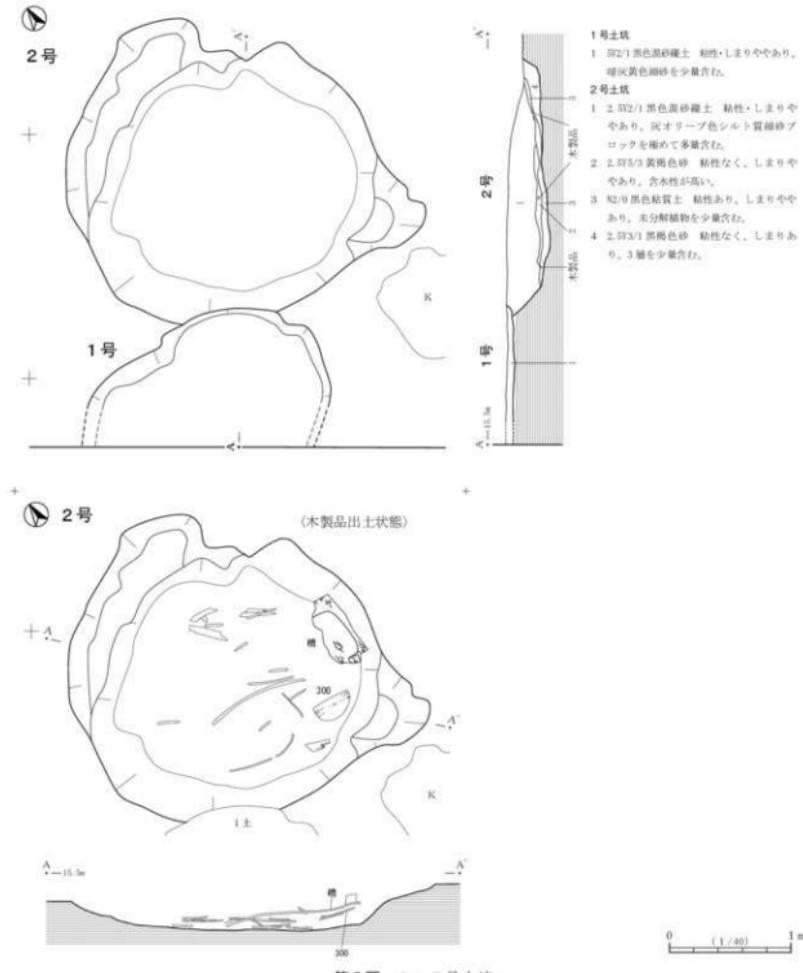
2号土坑は、Rp5-1~Sp1-2グリッドに位置する。平面は不整な円形で、東側と西側にそれぞれテラス状の段がみられる。規模は、長軸が299cm、短軸が250cm、検出面から底面までの深さは35cmである。断面は逆台形で、底面は平坦である。埋土は4層に分けられる。1号土坑と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が古い。遺物は、底面の直上から、浅い容器の槽、板状木製品、棒状木製品といった木製品が出土した。ただし、いずれも脆く、遺存状態が劣悪であったため、形を保って取り上げることができたのは、蓋板（300）を含めて、3点のみである。そのほかに、須恵器と土師器の小破片がそれぞれ2点ずつと、オニグルミ核とみられる種実が1点出土している。なお、出土した須恵器と土師器は、1号土坑と同様、遺構の時期を示すものではない。



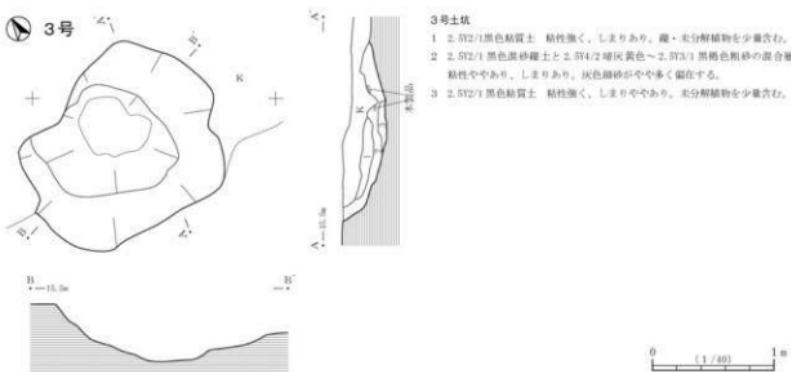
第7図 遺構の位置（中世）

3号土坑（第9図、図版3）

Sp3-2・4-1・4-2 グリッドに位置する。上部を近世の擾乱によって壊されているため、全体の詳細な規模は不明であるが、平面は不整な隅丸長方形と推定される。確認できた規模は、長軸が174 cm、短軸が146 cm、検出面から底面までの深さは35 cmである。断面は弧状で、底面は平坦だがやや丸みを帯びる。埋土は3層に分けられる。遺物は、須恵器と土師器の破片が少量と、土師質土器、木製品の小破片が出土している。土師質土器は1層から出土した。器種は小皿（9）である。出土遺物から、本遭構は13世紀代の所産と考えられる。



第8図 1・2号土坑



第9図 3号土坑

1~11号ビット (P 1~P11) (第10図、図版6)

1号ビット (P 1) は、Rp4-2 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 16 cm、短軸が 15 cm、検出面から底面までの深さは 13 cm である。断面は U 字形で、底面は丸みを持つ。遺物は出土していない。

2号ビット (P 2) は、Ro5-5, Rp5-1 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 29 cm、短軸が 28 cm、検出面から底面までの深さは 17 cm である。断面は V 字形で、底面は狭小である。埋土は 2 層に分けられる。遺物は、1 層の黒色砂質土から木製品が出土している。柱根の一部にも見えるが、判然としない。

3・4号ビット (P 3・P 4) は、So1-5 グリッドに位置する。P 3 は、平面が円形で、規模は径が 23 cm、検出面から底面までの深さは 20 cm である。断面は U 字形で、底面は平坦である。P 4 は、平面が楕円形で、規模は長軸が 31 cm、短軸が 25 cm、検出面から底面までの深さは 12 cm である。断面は逆台形で、底面は平坦である。なお、どちらのビットも、遺物は出土していない。

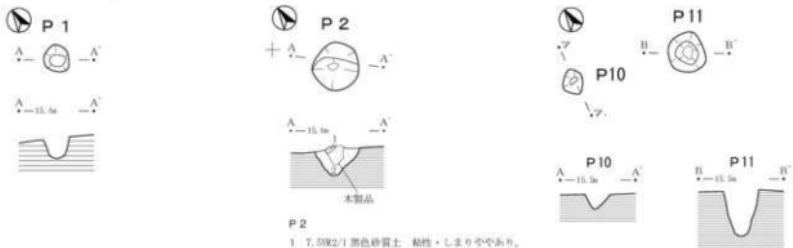
5号ビット (P 5) は So1-4・1-5・2-4・2-5 グリッドに位置する。平面は隅丸の方形で、規模は長軸が 49 cm、短軸が 48 cm、検出面から底面までの深さは 30 cm である。断面は逆台形で、底面は平坦である。埋土は黒色混砂壤土の単層である。遺物は出土していない。

6・8号ビット (P 6・P 8) は、So2-5 グリッドに位置する。P 6 は、平面が楕円形で、規模は長軸が 24 cm、短軸が 18 cm、検出面から底面までの深さは 11 cm である。断面は逆台形で、底面は丸みを持つ。P 8 は、平面が円形で、規模は径が 19 cm、検出面から底面までの深さは 14 cm である。断面は逆台形で、底面は平坦だが、やや傾斜する。どちらのビットも、遺物は出土していない。

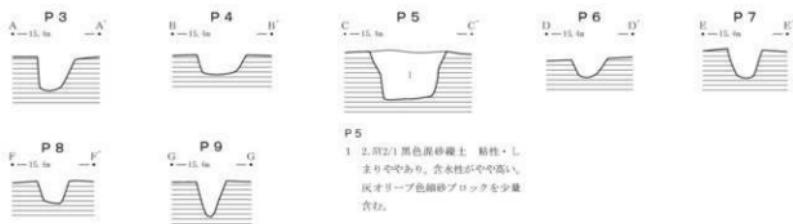
7号ビット (P 7) は、Sp2-1 グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が 22 cm、短軸が 16 cm、検出面から底面までの深さは 17 cm である。断面は U 字形で、底面は丸みを持つ。遺物は出土していない。

9号ビット (P 9) は、So3-5 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 19 cm、短軸が 18 cm、検出面から底面までの深さは 22 cm である。断面は V 字形で、底面は狭小である。遺物は出土していない。

10・11号ビット (P 10・P 11) は、So5-5 グリッドに位置する。P 10 は、平面が隅丸の方形で、規模は長軸が 19 cm、短軸が 12 cm、検出面から底面までの深さは 9 cm である。断面は V 字形で、底面は狭小である。P 11 は、平面が隅丸の方形で、規模は長軸が 24 cm、短軸が 22 cm、検出面から底面までの深さは 28 cm である。断面は U 字形で、底面は丸みを持つ。なお、どちらのビットも、遺物は出土していない。



1. 7.5M2/1 黒色質土 粘性・しまりややあり。
2. 2.5M4/2 増灰黄色細砂 粘性・しまりややあり。



1. 2.5M2/1 黒色根砂質土 粘性・しまりややあり。含水性がやや高い。
2. オリーブ色細砂ブロックを少量含む。



第10図 1～11号ピット

3 古代

4号土坑（第12図、図版4）

Qp4-2・5-1・5-2 グリッドに位置する。遺構の一部が南側の調査区外に広がるため、全体の規模は不明である。確認できた規模は、東西方向に 270 cm、南北方向に 58 cm、検出面から底面までの深さは最も深いところで 23 cm である。断面は浅い皿状である。底面は平坦だが、中央部のやや東寄りにもう一段掘り込みがある。埋土は黒褐色混砂礫土の単層である。16号ピットと一部重複し、新旧関係は本遺構の方が古い。遺物は、須恵器壺・横瓶と土師器鍋・甕が出土している。出土遺物から、本遺構は8世紀後半から9世紀初頭頃の所産と考えられる。

5号土坑（第12図、図版4）

Qo5-5、Ro1-5 グリッドに位置する。平面は長方形で、規模は長軸が 73 cm 以上、短軸が 33 cm、検出面から底面までの深さは最も深いところで 17 cm である。断面は浅い皿状である。底面は平坦だが、中央部がピット状に一段掘り込まれている。埋土は 2 層に分けられる。19号ピットと一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が古い。遺物は、1 層から須恵器壺と土師器壺・甕が出土している。本遺構の年代については、出土遺物の遺存状態が良くないため判然としないが、ここでは8世紀後半の所産と考えておきたい。

6号土坑（第12図、図版4）

Ro2-5～Rp3-1 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 102 cm、短軸が 100 cm、検出面から底面までの深さは 25 cm である。断面は箱形で、底面は平坦である。埋土は黒色混砂礫土の単層で、遺物は土師器甕の破片が 1 点のみ出土した。

7号土坑（第12図、図版4）

So2-5・3-5、Sp3-1 グリッドに位置する。平面は不整な梢円形で、規模は長軸が 158 cm 以上、短軸が 129 cm、検出面から底面までの深さは 18 cm 前後である。断面は逆台形で、埋土は黒色粘質土の単層である。底面は凹凸が著しく、また、遺構の周縁部にピット状の凹みが多くみられることから、植栽痕の可能性もある。28・29号ピットとそれぞれ一部重複しており、新旧関係は本遺構が両者よりも古い。遺物は出土していない。

8号土坑（第12図、図版5）

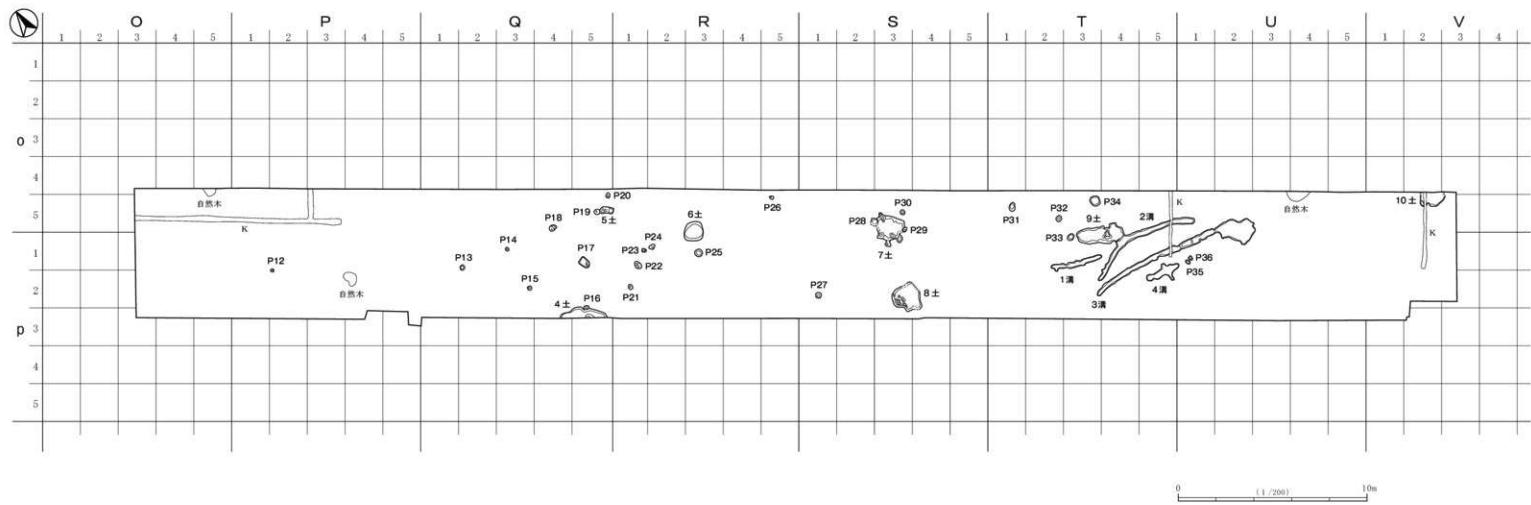
Sp3-2～4-3 グリッドに位置する。平面は不整形で、規模は長軸が 149 cm、短軸が 140 cm、検出面から底面までの深さは 14 cm 前後である。断面は逆台形である。底面は凹凸があり、西側部分にはピット状の凹みが多くみられる。埋土は暗灰黄色混砂礫土の単層で、遺物は須恵器壺の破片が 1 点のみ出土した。

9号土坑（第13図、図版5）

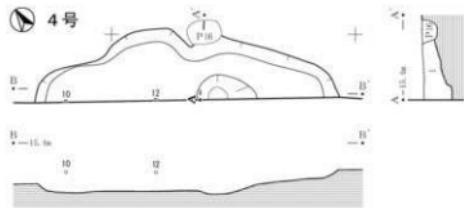
To3-5～Tp5-1 グリッドに位置する。平面は不整な梢円形で、規模は長軸が 249 cm、短軸が 91 cm である。検出面から底面までの深さは 4～13 cm とばらつく。断面は弧状だが、東側部分では浅い皿状となる。底面は凹凸が著しく、島状の凸部もみられる。埋土は 2 層に分けられる。2号溝と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が古い。遺物は、須恵器壺と土師器壺・甕が出土している。出土遺物から、本遺構は8世紀末から9世紀初頭の所産と考えられる。

10号土坑（第12図、図版5）

Vo2-4～3-5 グリッドに位置する。遺構の一部が北側の調査区外に広がるため、全体の規模は不明だが、平面は不整な円形もしくは梢円形と推定される。確認できた規模は、東西方向に 130 cm、南北方向に 75 cm、検出面から底面までの深さは 5 cm である。断面は浅い皿状で、底面は若干起伏があるが、概ね平坦である。埋土は黄灰色粘質土の単層で、遺物は須恵器壺が出土している。

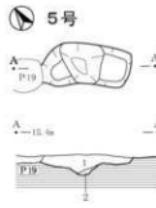


第11図 遺構の位置（古代）



4号土坑

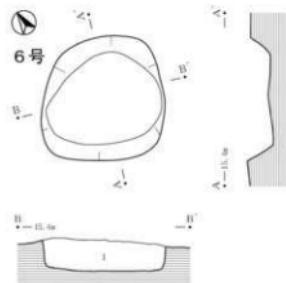
1. 2.5V3/1 黒褐色泥砂礫土 粘性・しまりややあり。炭化物粒を少量含む。



5号土坑

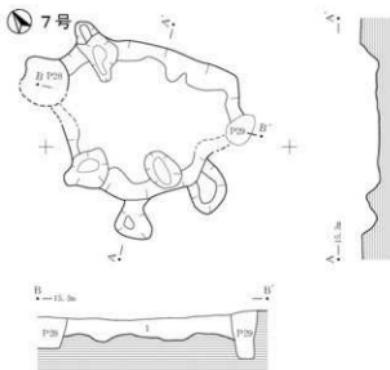
1. 2.5V4/2 塗灰黄色土 粘性・しまりややあり。炭化物粒を少量含む。

2. 2.5V2/1 黒色粘質土 粘性あり。しまりややあり。



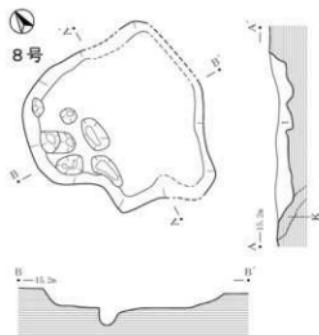
6号土坑

1. 2.5V2/1 黒色重砂礫土 粘性ややあり。しまりあり。黒褐色砂がやや多く偏在。



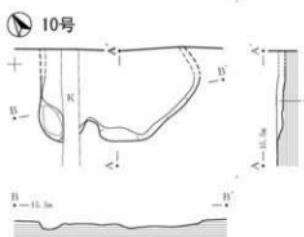
7号土坑

1. 2.5V3/1 黑色粘質土 粘性あり。しまりややあり。含水性がやや高い。繊維状の未分解植物をやや多く、炭化物粒を少量含む。



8号土坑

1. 2.5V4/2 塗灰黄色泥砂礫土 粘性・しまりややあり。含水性がやや高い。黒色土をやや多く含む。

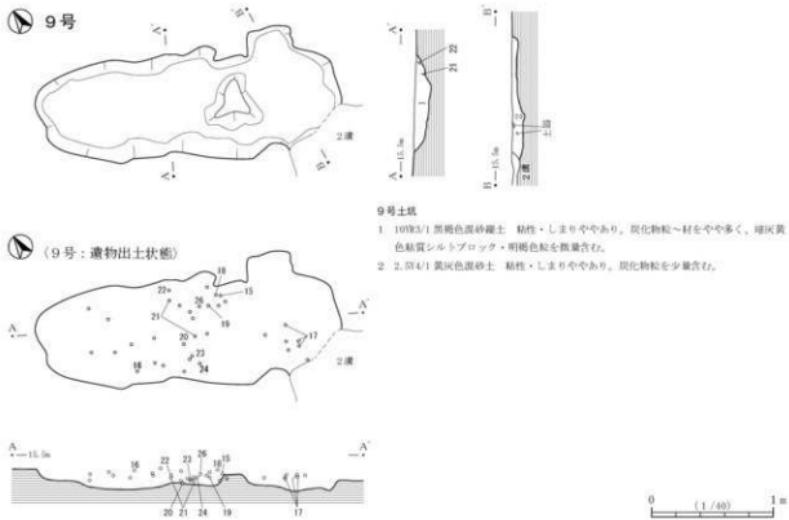


10号土坑

1. 2.5V4/1 黄褐色粘質土 粘性・しまりあり。繊維状の未分解植物を多量、炭化物粒を少量含む。

0 (1/40) 1m

第12図 4~8・10号土坑



第13図 9号土坑

1号溝（第14図、図版5・6）

Tp2-1～4-1グリッドに位置する。幅は24～37cm、検出面から底面までの深さは5～9cmで、東西方向へ直線状に延びる。断面は逆台形で、底面は平坦である。埋土は黒褐色土の単層で、遺物は須恵器坏のほか、土師器甕の破片が2点出土している。出土遺物から、本遺構は9世紀第3四半期頃の所産と考えられる。

2号溝（第14図、図版5・6）

Tp3-2～Uo1-5グリッドに位置する。幅は17～45cm、検出面から底面までの深さは2～7cmで、緩やかに湾曲しつつ東西方向へ延びる。断面は逆台形で、底面は平坦である。埋土は2層に分けられる。9号土坑と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が新しい。遺物は、2層から須恵器坏と土師器坏・甕が出土している。本遺構の詳細な時期は不明だが、9号土坑より新しいことから、9世紀以降の所産としておきたい。

3号溝（第15図、図版5・6）

Tp3-2～Uo3-5グリッドに位置する。幅は19～40cm、検出面から底面までの深さは4～9cmで、東西方向へ直線状に延び、東端部で不整形な土坑状になる。断面は逆台形である。底面は平坦だが、Up1-1グリッド付近はやや凹凸がみられる。なお、土坑状の部分は長軸が195cm、短軸が130cm、検出面からの深さは2～9cmで、底面の凹凸が著しい。埋土は2層に分けられ、遺物は1層から須恵器坏・坏蓋と土師器甕が出土している。出土遺物から、本遺構は8世紀末から9世紀初頭頃の所産と考えられる。

4号溝（第14図、図版5・6）

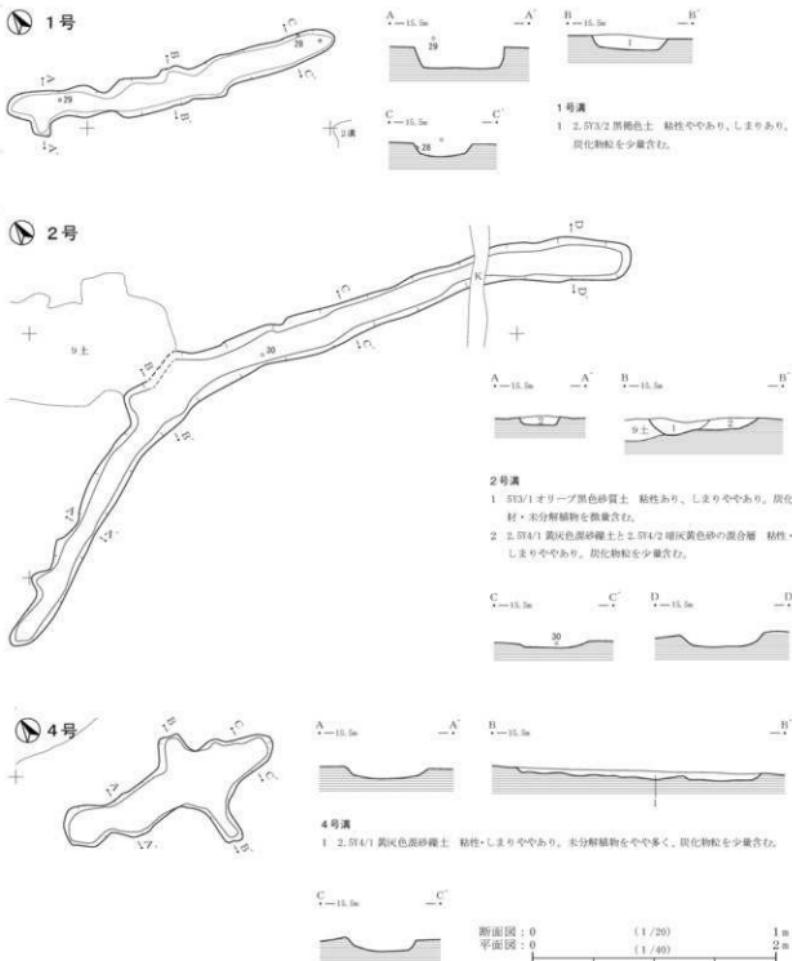
Tp5-1・5-2、Up1-1グリッドに位置する。幅は24～34cm、検出面から底面までの深さは2～5cmで、東西方向へ直線状に延びる。検出時は、別の溝が直交しているようにも見えたが、埋土を観察した結果、同一の遺構と判断した。断面は浅い皿状で、底面は平坦である。埋土は黄灰色混砂礫土の単層で、遺物は須恵器坏と土師器坏・甕が出土している。

12 ~ 36号ピット (P 12 ~ P 36) (第16 ~ 17図、図版6)

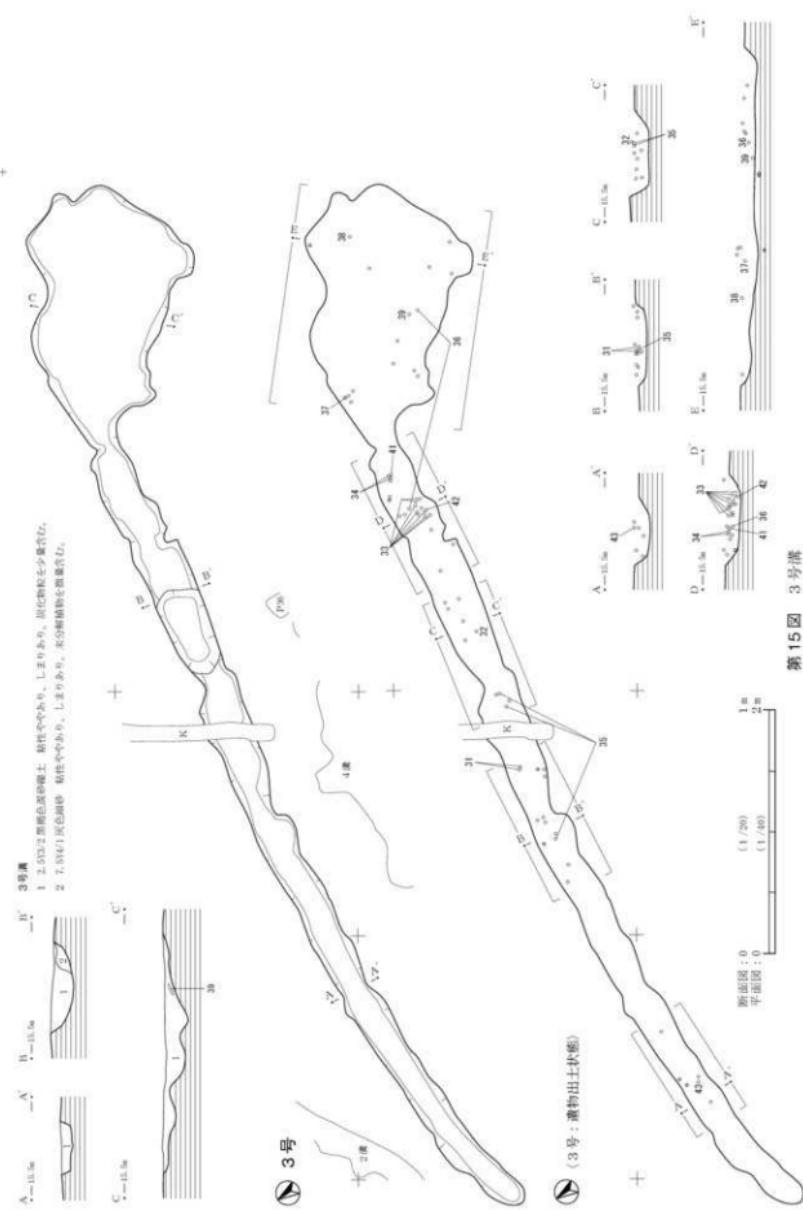
12号ピット (P 12) は、Pp2-1・2-2グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が18cm、短軸が16cm、検出面から底面までの深さは11cmである。断面は逆台形で、底面はやや丸みを持つ。遺物は出土していない。

13号ピット (P 13) は、Qp2-1グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が28cm、短軸が25cm、検出面から底面までの深さは14cmである。断面は逆台形で、底面は傾斜する。遺物は出土していない。

14号ピット (P 14) は、Qp3-1グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が20cm、短軸が17cm、



第14図 1・2・4号溝



第15圖 3号煤

検出面から底面までの深さは 13 cm である。断面は U 字形で、底面はやや丸みを持つ。遺物は出土していない。

15 号ピット (P 15) は、Qp3-2 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は径 23 cm、検出面から底面までの深さは 14 cm である。断面は逆台形で、底面はほぼ平坦である。遺物は、土師器甕の破片が 2 点出土している。

16 号ピット (P 16) は、Qp5-2・5-3 グリッドに位置する。平面は梢円形、規模は長軸が 28 cm、短軸が 20 cm、検出面から底面までの深さは 12 cm である。断面は逆台形、底面は平坦である。4 号土坑と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が新しい。遺物は出土していない。

17 号ピット (P 17) は、Qp5-1 グリッドに位置する。平面はやや不整な長方形、断面は浅い皿状であるが、南側部分が一段掘り込まれている。規模は長軸が 60 cm、短軸が 42 cm で、検出面から掘り込み部分の底面までは深さ 14 cm である。埋土は 2 層に分けられる。遺物は、須恵器壺 (45) のほか、土師器甕が出土している。

18 号ピット (P 18) は、Qo4-5 グリッドに位置する。平面は梢円形で、規模は長軸が 39 cm、短軸が 29 cm、検出面から底面までの深さは 15 cm である。断面は逆台形で、西側部分が掘り込まれている。出土遺物はない。

19・20 号ピット (P 19・P 20) は、Qo5-5 グリッドに位置する。P 19 は、平面が梢円形で、規模は長軸が 31 cm、短軸が 27 cm、検出面から底面までの深さは 19 cm である。断面は V 字形で、底面は平坦だが狭小である。5 号土坑と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が新しい。遺物は、土師器甕の破片が 2 点出土している。P 20 は、平面が梢円形で、規模は長軸が 28 cm、短軸が 22 cm、検出面から底面までの深さは 34 cm である。断面は U 字形で、底面は平坦である。遺物は出土していない。

21 号ピット (P 21) は、Rp1-2 グリッドに位置する。平面は梢円形で、規模は長軸が 28 cm、短軸が 22 cm、検出面から底面までの深さは 12 cm である。断面は弧状で、底面は丸みを持つ。遺物は出土していない。

22・23 号ピット (P 22・P 23) は、Rp1-1 グリッドに位置する。P 22 は、平面が梢円形、規模は長軸が 45 cm、短軸が 32 cm で、検出面から底面までの深さは 30 cm である。断面は箱形で、底面は凹凸がある。遺物は、土師器甕の破片が 2 点出土している。P 23 は、平面が不整な隅丸長方形で、東側にテラス状の段がある。規模は長軸が 24 cm、短軸が 19 cm、検出面から底面までの深さは 24 cm で、断面は V 字形である。遺物は出土していない。

24 号ピット (P 24) は、Rp2-1 グリッドに位置する。平面は不整な隅丸の方形で、規模は長軸が 28 cm、短軸が 27 cm、検出面から底面までの深さは 12 cm である。断面は逆台形で、底面は平坦である。遺物は出土していない。

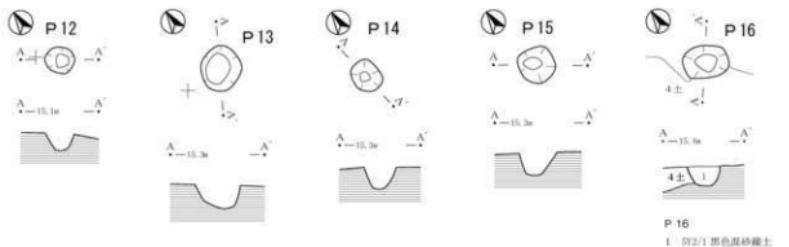
25 号ピット (P 25) は、Rp3-1 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 42 cm、短軸が 20 cm、検出面から底面までの深さは 8 cm である。断面は緩やかな弧状で、底面は丸みを持つ。遺物は出土していない。

26 号ピット (P 26) は、Ro5-5 グリッドに位置する。平面は梢円形で、規模は長軸が 23 cm、短軸が 17 cm、検出面から底面までの深さは 13 cm である。断面は U 字形で、底面はやや傾斜する。遺物は出土していない。

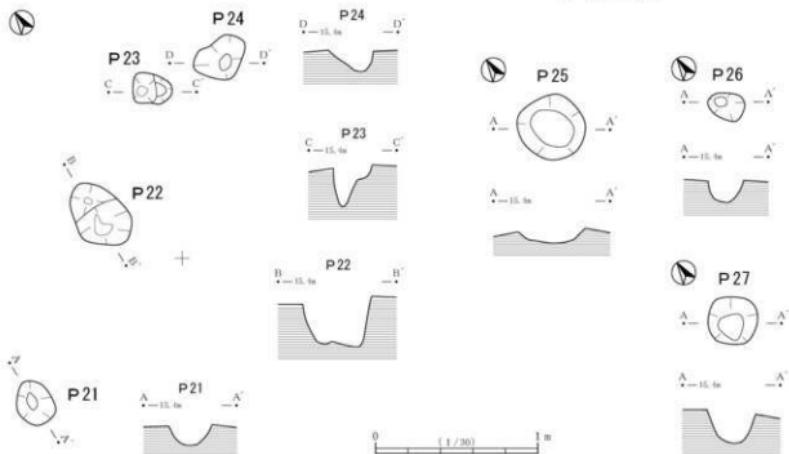
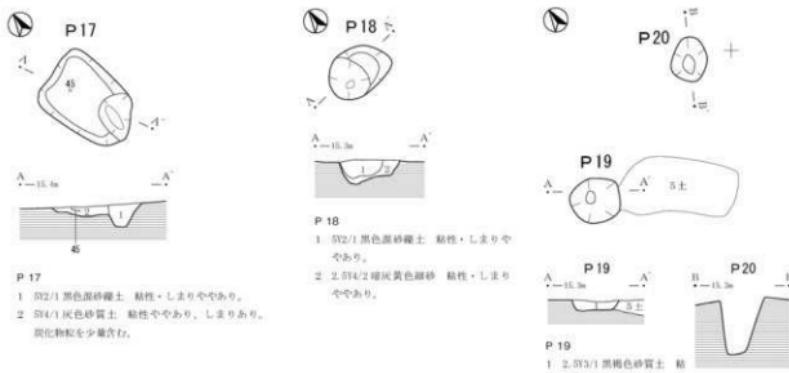
27 号ピット (P 27) は、Sp1-2 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 30 cm、短軸が 29 cm、検出面から底面までの深さは 19 cm である。断面は U 字形で、底面は丸みを持つ。遺物は出土していない。

28～30 号ピット (P 28～P 30) は、So2-5・3-5 グリッドに位置する。P 28 は、平面が不整な円形と推定される。規模は径が 39 cm で、検出面から底面までの深さは 25 cm である。断面は逆台形で、底面は平坦である。P 29 は、平面が梢円形で、規模は長軸が 27 cm、短軸が 20 cm、検出面から底面までの深さは 39 cm である。断面は U 字形で、底面は平坦である。P 28・29 は、7 号土坑と一部重複しており、新旧関係は両者とも同土坑より新しい。P 30 は、平面が円形で、長軸が 26 cm、短軸が 25 cm、検出面から底面までの深さは 15 cm である。断面は逆台形で、底面は平坦である。なお、P 28～30 はいずれも遺物が出土していない。

31 号ピット (P 31) は、To5-5 グリッドに位置する。平面は梢円形で、規模は長軸が 48 cm、短軸が 31 cm、検出面から底面までの深さは 15 cm である。断面は逆台形で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。



P 16
1. 072/1 黒色泥砂岩土
粘性・しまりややあり。



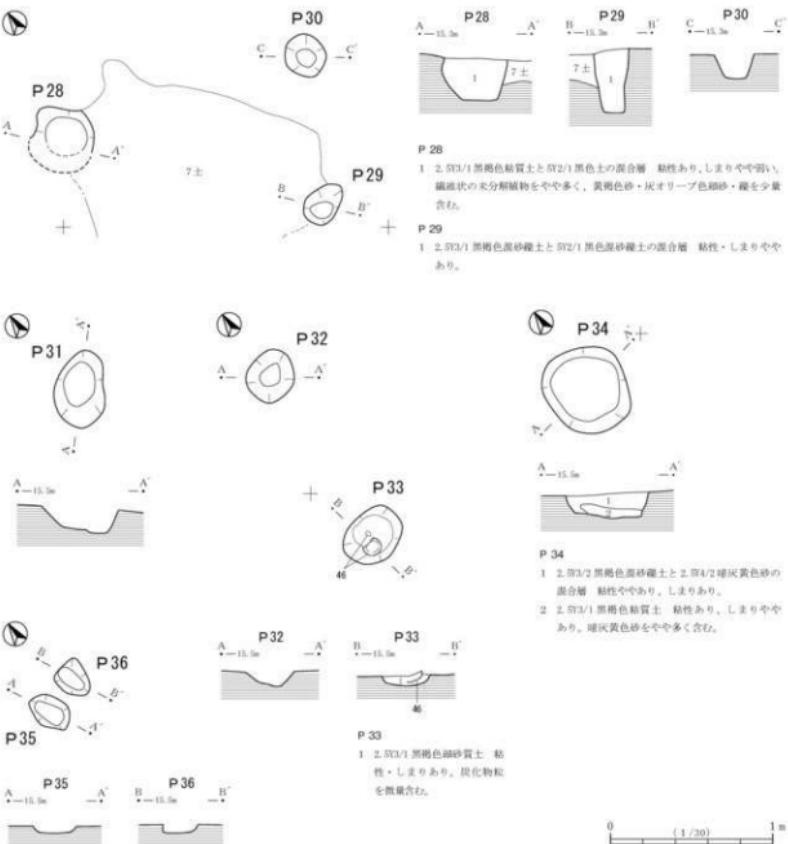
第16図 12～27号ビット

32号ピット(P 32)は、To2-5グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が32cm、短軸が28cm、検出面から底面までの深さは9cmである。断面は逆台形で、底面は傾斜する。遺物は出土していない。

33号ピット(P 33)は、Tp3-1グリッドに位置する。平面は楕円形で、長軸は39cm、短軸は30cm、検出面から底面までの深さは6cmである。断面は緩やかな弧状で、底面は丸みを持つ。埋土は単層で、須恵器壺(46)が正位の状態で出土した。出土遺物から、本遺構は8世紀第4四半期頃の所産と考えられる。

34号ピット(P 34)は、To3-5グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が55cm、短軸が50cm、検出面から底面までの深さは15cmである。断面は箱形で、底面は平坦である。遺物は出土していない。

35・36号ピット(P 35・P 36)は、Up1-1グリッドに位置する。両者とも平面はやや不整な楕円形である。P 35は、長軸27cm、短軸19cm、検出面から底面までの深さが4cmで、断面は浅い皿状である。P 36は、長軸23cm、短軸19cm、検出面から底面までの深さが5cmで、断面は箱形である。どちらも遺物は出土していない。



第17図 28～36号ピット

第IV章 遺物

出土した遺物は、古代の須恵器と土師器が大半を占める。須恵器には墨書きされたものも少量みられ、土師器では内面を黒色処理した、いわゆる黒色土器も確認された。古代の遺物としては、その他に土製品、金属製品、石製品が出土している。中世については、土師質土器と珠洲が出土している。ただし、その出土量は極めて少なく、遺構外から出土したものも含めて、わずか5点である。また、木製品も出土したが、出土量は少量であった。

1 土 器

中世の土師質土器と珠洲、および古代の須恵器と土師器について述べる。墨書きのある須恵器と黒色土器については、「2 墨書き土器・黒色土器」で記述するので、ここでは触れない。また、器種の名称に関して、いわゆる胸は「壺」に、小形壺は「甕」にそれぞれ含めて使用している。なお、遺物の時期の判断にあたっては、珠洲は吉岡康暢氏の編年（吉岡 1994）、古代の土器は笹澤正史氏の編年（笹澤 2019）を参考とした。

土坑（第18・19図、図版7）

3号土坑からは、土師質土器の小皿（9）が1点出土している。手づくね成形で、底部と体部の境がなく、身が浅い。口縁端部を面取りしている。形状から13世紀代の所産と考えられる。

4号土坑からは、須恵器壺・横瓶と土師器鍋・甕が出土している。3点（10～12）を図示した。10は体部に沈線が巡る金属器模倣の須恵器有台壺で、笹澤編年V 1期もしくはV 2期に該当すると考えられる。11は土師器甕の胴部である。12は土師器鍋で、胴部外面の下半にスス、内面にはコゲが付着する。

5号土坑からは、須恵器壺と土師器壺・甕が出土している。2点（13・14）を図示した。13・14とも須恵器無台壺である。13は箱形の器形と推定され、笹澤編年IV期もしくはV 1期に該当すると考えられる。

9号土坑からは、須恵器壺と土師器壺・甕が多く出土している。12点（15～26）を図示した。15～18は須恵器無台壺、19は須恵器有台壺である。これらの壺は法量がやや小さく、笹澤編年V 2期に比定できる。20～26は土師器甕で、そのうちの20・21は小形品である。21は口縁部内面にコゲが付着している。

10号土坑からは、須恵器無台壺（27）が1点出土している。口縁部から体部上半が欠損し、全体の器形が不明なため、詳細な帰属時期は明らかではない。

溝（第19図、図版7・8）

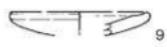
1号溝からは、須恵器壺と土師器甕が出土している。2点（28・29）を図示した。28・29は須恵器無台壺で、29は小泊產と推定される。器高も含め法量が小さく、笹澤編年V 1期新段階に比定できる。

2号溝からは、須恵器壺と土師器壺・甕が出土している。1点（30）を図示した。30は土師器甕の小形品で、胴部下端が回転ヘラケズリのため面取り状になっている。

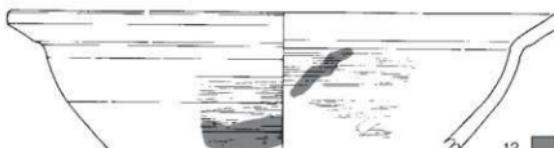
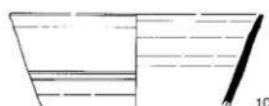
3号溝からは、須恵器壺・壺蓋と土師器甕が多く出土している。13点（31～43）を図示した。31～40は須恵器である。31～35は無台壺、36は身の深いコップ形の有台壺、37・38は体部外面中央に沈線が巡る金属器模倣の有台壺、39は折縁壺、40は壺蓋である。これら壺類の法量はやや小さく、笹澤編年V 2期に比定できる。41～43は土師器甕で、そのうちの41・42は小形品である。

4号溝からは、須恵器壺と土師器壺・甕が僅かに出土している。図示した須恵器無台壺（44）は、底部のみの遺存で、全体の器形は不明である。

3号土坑 (9)



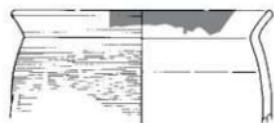
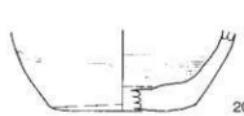
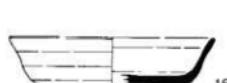
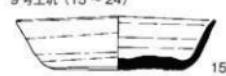
4号土坑 (10 ~ 12)



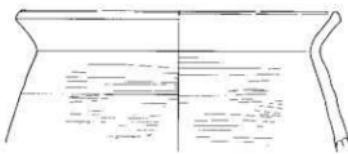
5号土坑 (13・14)



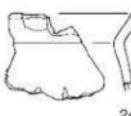
9号土坑 (15 ~ 24)



コゲ



22

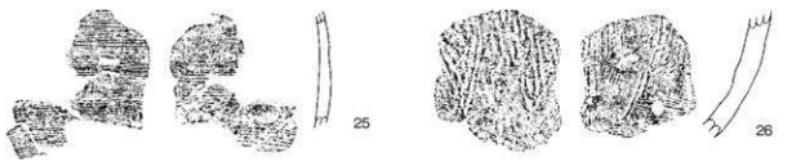


24

0 (1 / 3) 10cm

第18図 遺構出土の土器 (1)

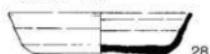
9号土坑 (25・26)



10号土坑 (27)



1号溝 (28・29)

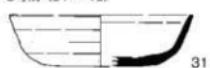


29

2号溝 (30)



3号溝 (31～43)



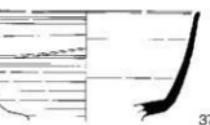
32



34



35



37



41



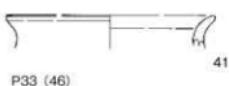
42

4号溝 (44)



43

P17 (45)



44



45



0 (1 / 3) 10cm

第19図 遺構出土の土器 (2)

ピット（第19図、図版8）

17号ピット（P17）からは、須恵器壺と土師器甕が出土している。図示した須恵器無台壺（45）は、口縁部から体部上半が欠損し、全体の器形が不明である。

33号ピット（P33）からは、須恵器無台壺（46）が1点出土している。底部はやや丸みを持ち、法量はやや小さい。笠澤編年V1期に比定できる。

遺構外（第20～31図、図版8～12）

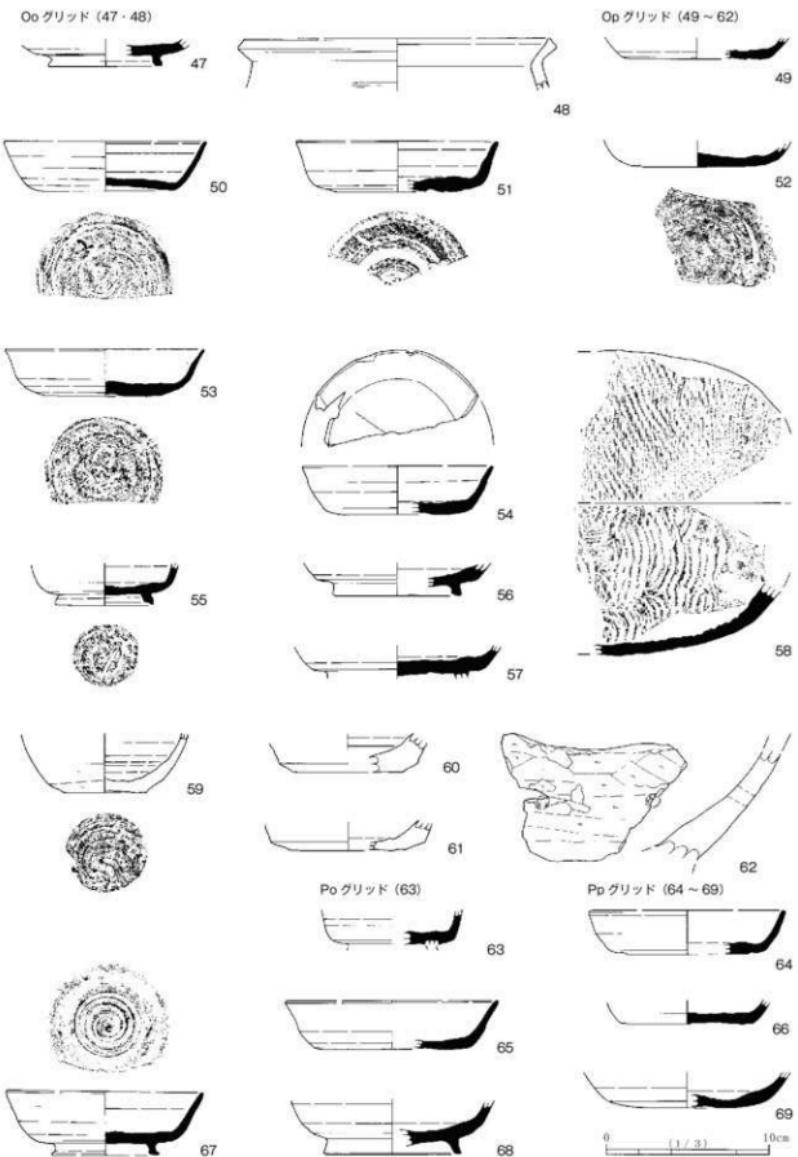
大部分が遺物包含層のⅢ層から出土している。ただし、細別した2層のうち、Ⅲa層からの出土は少なく、大半はⅢb層からの出土である。出土した器種については、須恵器は壺が主体で、横瓶や甕といった貯蔵具の出土量は少ない。土師器は甕が主体だが、壺も一定量出土している。以下、グリッドごとに様相を概観する。

0oグリッドからは須恵器壺・壺蓋と土師器甕が少量出土している。0pグリッドからは、須恵器壺・壺蓋・横瓶・甕・甕と土師器壺・甕が出土している。出土量は、須恵器壺がやや多く、土師器甕は多量である。その他の器種は僅かであった。Poグリッドからは、須恵器壺と土師器壺・甕が少量出土している。また、II層から珠洲片口鉢の破片が1点出土している。Ppグリッドからは、須恵器壺・壺蓋・把手付長頸瓶（72）・横瓶・甕と土師器壺・甕・甕が出土している。出土量は、須恵器壺がやや多く、土師器甕は多量である。その他の器種は少量であった。Qoグリッドからは、須恵器壺・壺蓋・甕と土師器壺・甕が出土している。出土量は、須恵器壺と土師器甕がやや多く、その他の器種は僅かである。なお、珠洲片口鉢も2点（78・79）出土している。Qpグリッドからは、須恵器壺・壺蓋・短頸蓋・横瓶・甕と土師器壺・甕が出土している。出土量は、須恵器壺が多量、土師器甕が極めて多量で、その他の器種は少量である。Roグリッドからは、須恵器壺・壺蓋・甕と土師器壺・甕が少量出土している。Rpグリッドからは、須恵器壺・壺蓋・甕・甕と土師器壺・甕が出土している。出土量は、須恵器壺がやや多く、土師器甕は多量である。その他の器種は少量であった。Soグリッドからは、土師器甕がやや多く、須恵器壺・壺蓋・甕と土師器壺が少量出土している。Spグリッドからは、須恵器壺・壺蓋・長頸瓶・甕と土師器壺・甕が出土している。出土量は、須恵器壺と土師器甕がやや多く、その他の器種は少量である。Toグリッドからは、土師器甕が多量に、須恵器壺・壺蓋・短頸蓋と土師器壺が少量出土している。Tpグリッドからは、須恵器壺・壺蓋と土師器壺・甕・甕が出土している。出土量は、須恵器壺が多量、土師器甕が極めて多量で、その他の器種は少量である。Uoグリッドからは、須恵器壺・壺蓋・横瓶・甕と土師器壺・甕が出土した。出土量は、須恵器壺と土師器甕がやや多く、その他の器種は少量である。Upグリッドからは、須恵器壺・壺蓋・甕と土師器壺・甕・甕が出土した。出土量は、須恵器壺と土師器甕がやや多く、その他の器種は少量である。また、土師質土器小皿（271）も出土している。Vo・Vpグリッドからは、須恵器壺と土師器甕が僅かに出土した。

次に、特徴的な遺物について触れておく。54・89・183・247は線刻のある土器である。54は須恵器無台壺である。底部内面に「一カ」と、焼成前に線刻されている。89は土師器甕で、胴部外面に線が描かれている。描かれたのが焼成前か後かは判然としない。183は土師器甕の小形品である。胴部外面に複数の線が、焼成前に描かれている。247は須恵器無台壺である。底部外面に「一カ」と、焼成前に線刻されている。

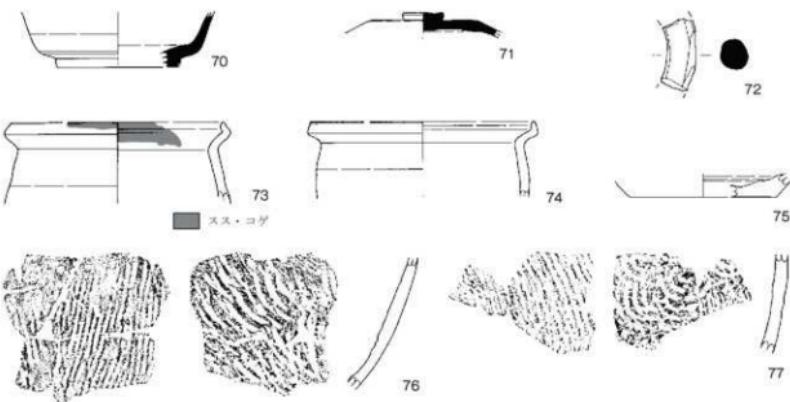
62・157は穿孔のある土器である。62は足高の高台が付く土師器有台鉢と考えられる。体部下位に穿孔が二つ確認できる。二つの孔は位置がほぼ水平で、焼成前に開けられている。なお、上面の割れ口にも穿孔のような痕跡がみられるが、判然としない。157は土師器甕の小形品で、胴部上位に穿孔が二つ確認できる。二つの孔は位置がほぼ水平で、焼成前に開けられている。

78・79は珠洲片口鉢である。78は1面、79は2面の割れ口にそれぞれ漆が付着しており、補修の痕と考えられる。なお、両者は同一個体の可能性がある。ともに吉岡編年V期に比定され、年代は15世紀代と推定される。

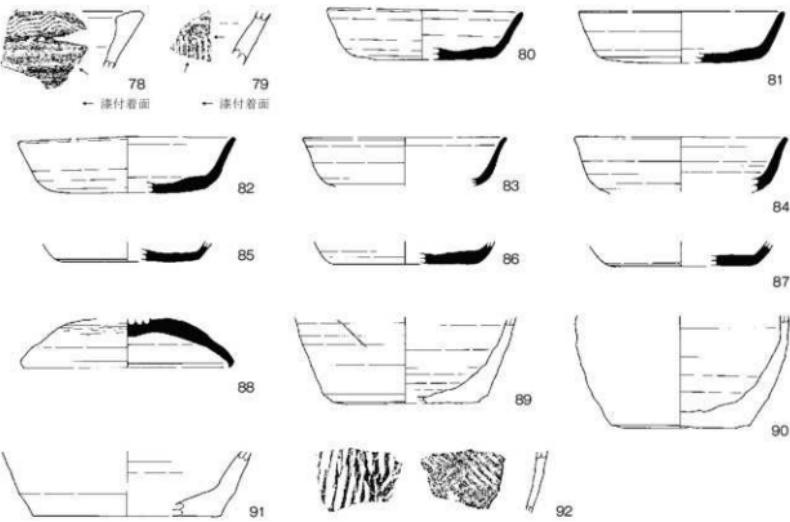


第20図 遺構外出土の土器 (1)

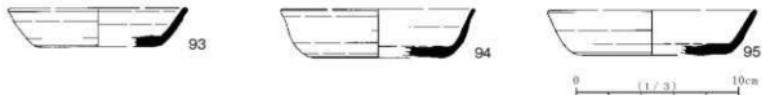
Pp グリッド (70 ~ 77)



Qo グリッド (78 ~ 92)

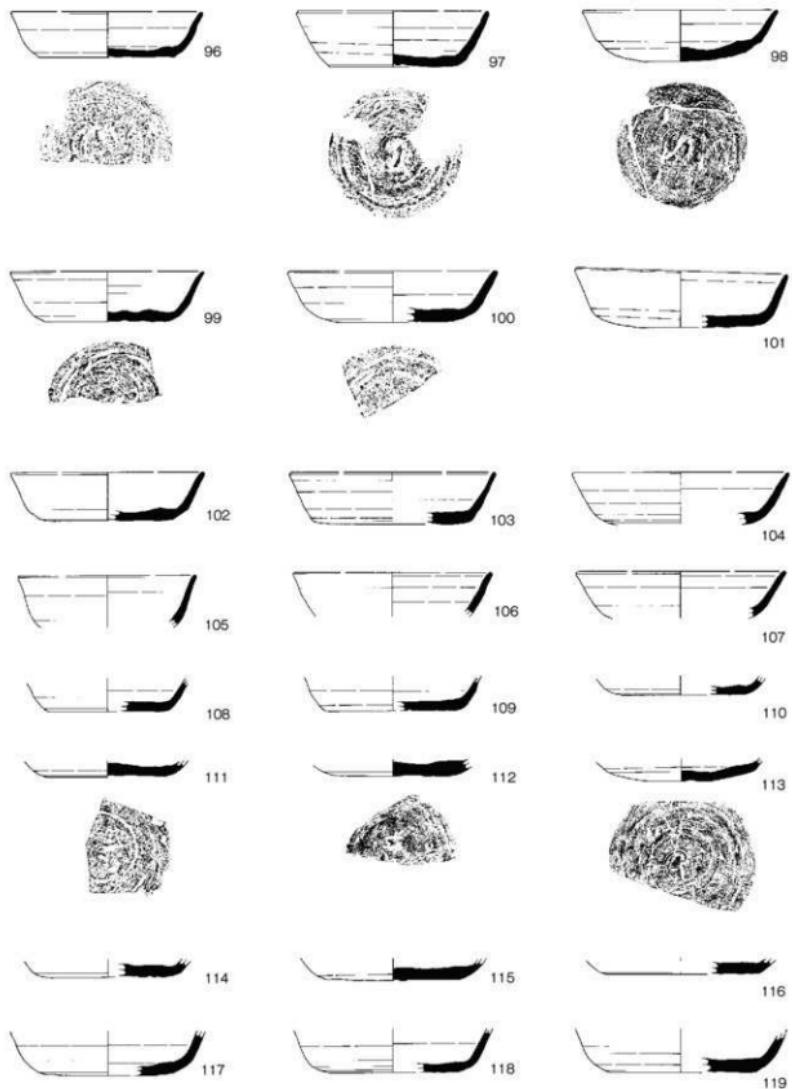


Qp グリッド (93 ~ 95)



第21図 遺構外出土の土器 (2)

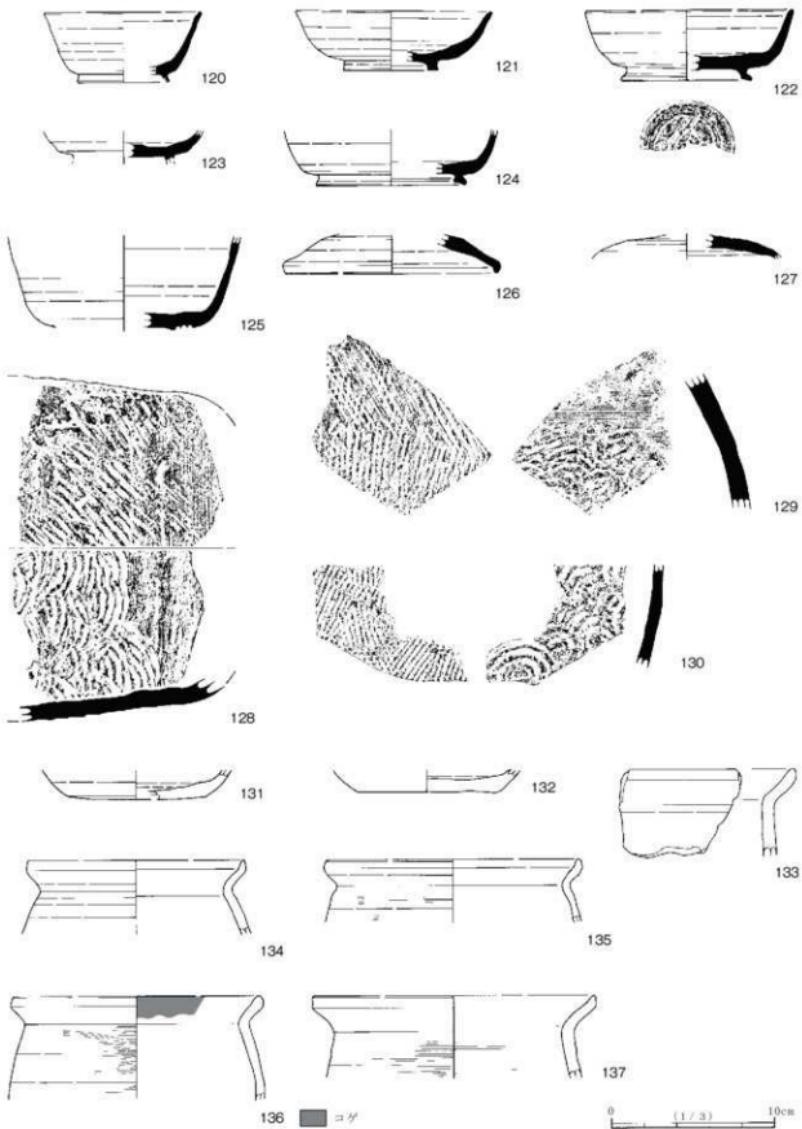
Qp グリッド (96 ~ 119)



第22図 遺構外出土の土器 (3)

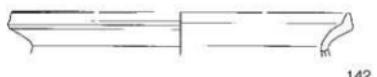
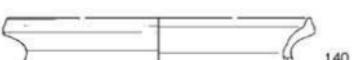
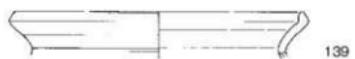
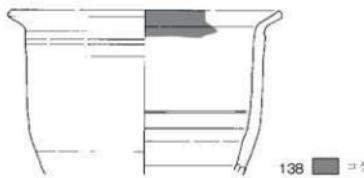
0 (1/3) 10cm

Qp グリッド (120 ~ 137)

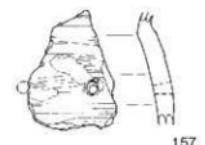
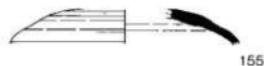
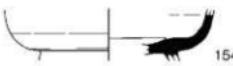


第23図 遺構外出土の土器 (4)

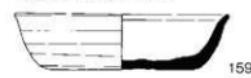
Qp グリッド (138 ~ 147)



Ro グリッド (148 ~ 158)

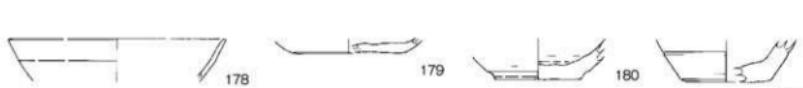
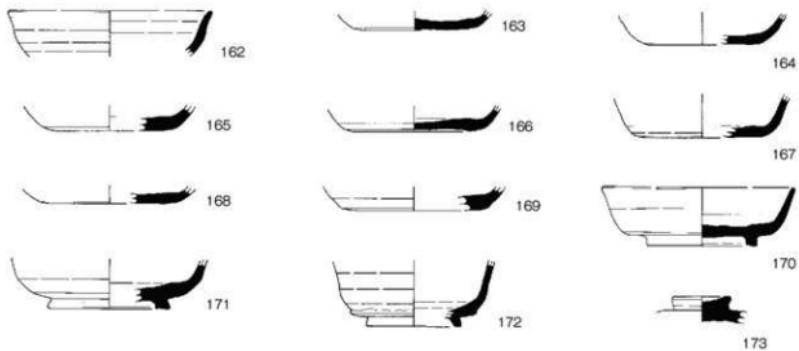


Rp グリッド (159 ~ 161)

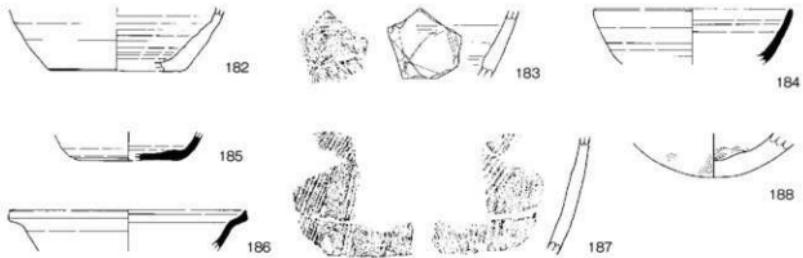


第24図 遺構外出土の土器 (5)

Rp グリッド (162 ~ 183)



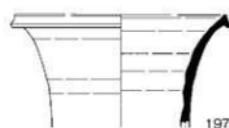
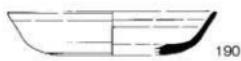
So グリッド (184 ~ 188)



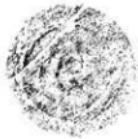
0 (1/3) 10cm

第25図 遺構外出土の土器 (6)

Sp グリッド (189 ~ 198)



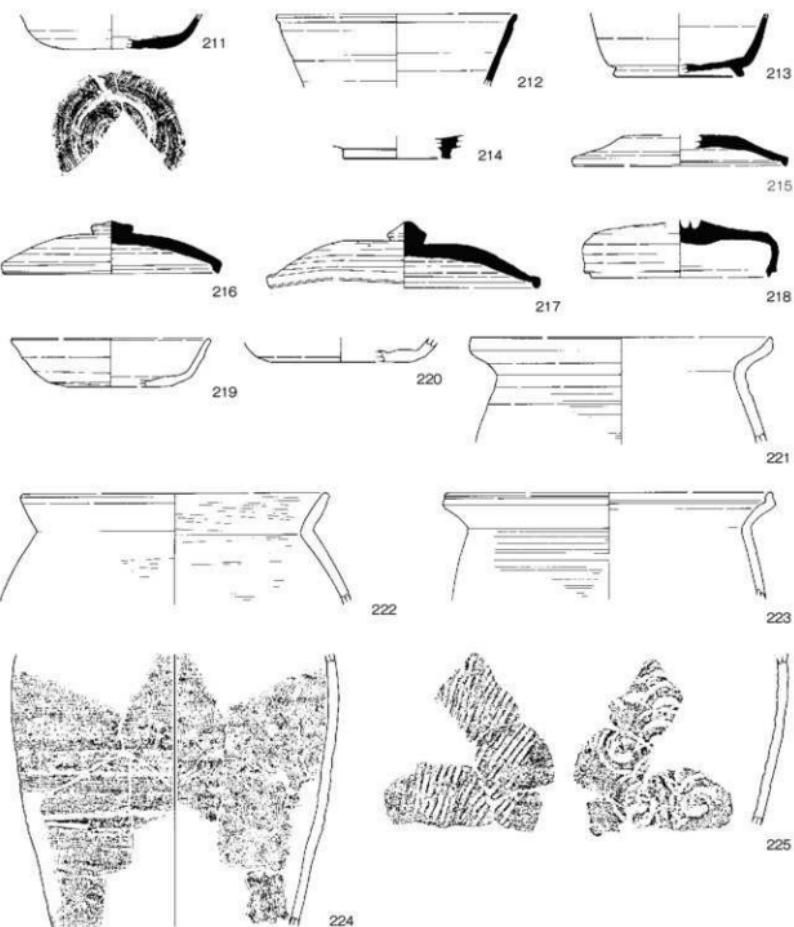
To グリッド (199 ~ 210)



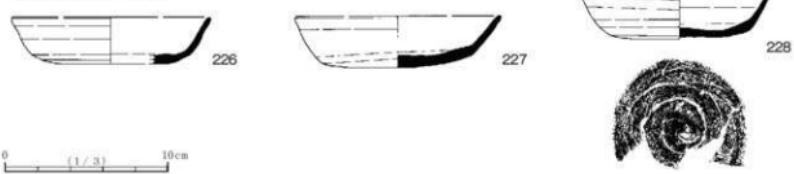
0 (1 / 3) 10cm

第26図 遺構外出土の土器 (7)

To グリッド (211 ~ 225)



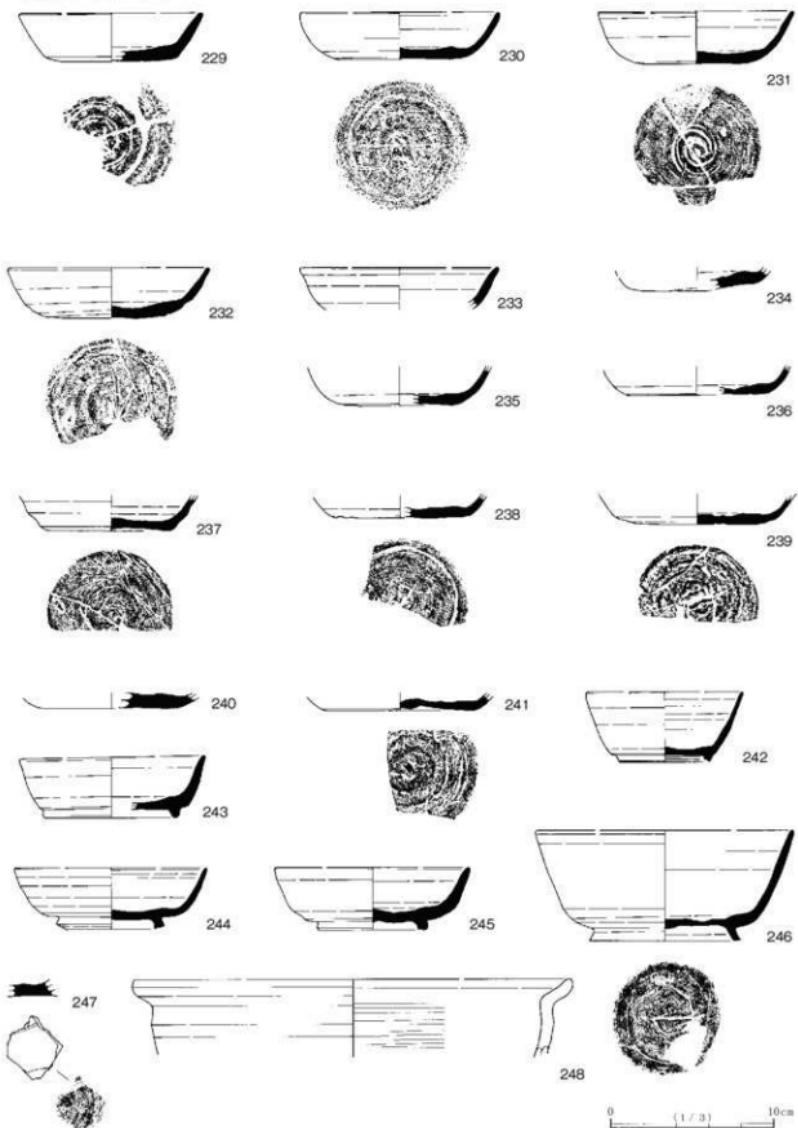
Tp グリッド (226 ~ 228)



0 (1 / 3) 10cm

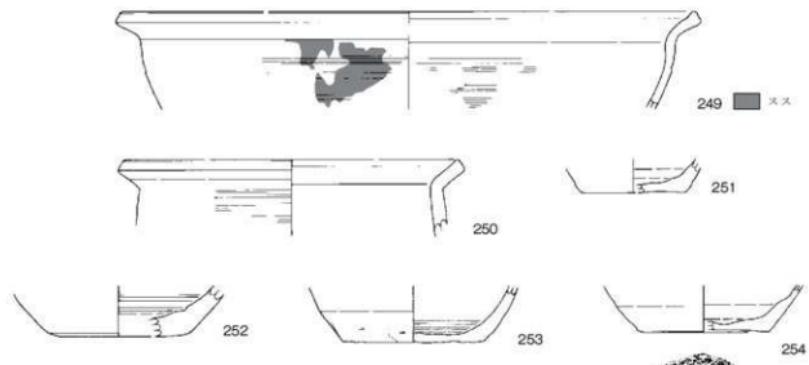
第27図 遺構外出土の土器 (8)

Tp グリッド (229 ~ 248)

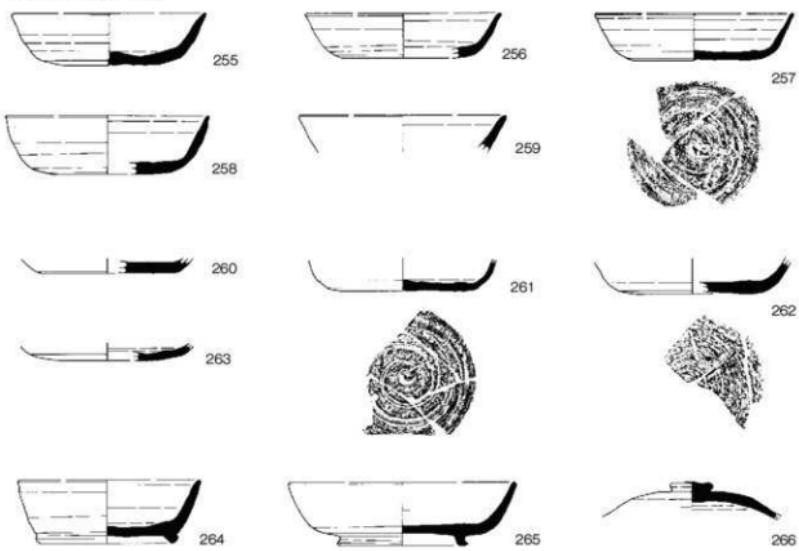


第28図 遺構外出土の土器 (9)

Tp グリッド (249 ~ 254)



Uo グリッド (255 ~ 266)



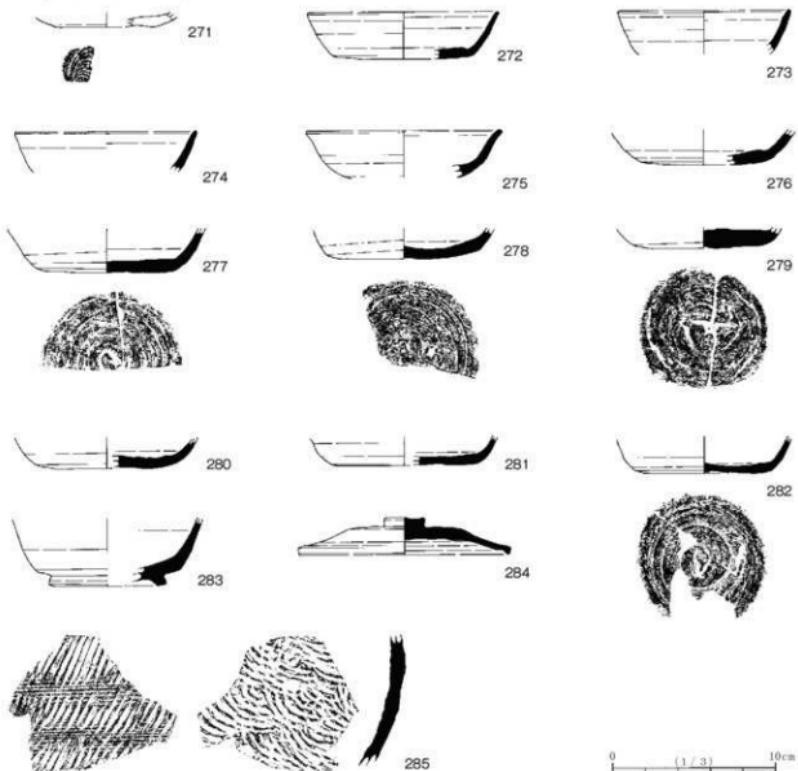
0 (1 / 3) 10cm

第29図 遺構外出土の土器 (10)

Uo グリッド (267 ~ 270)



Up グリッド (271 ~ 285)

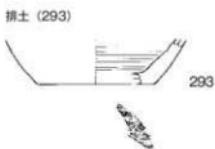
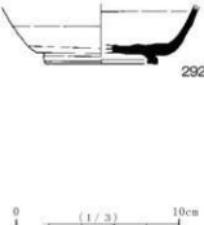
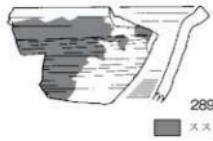
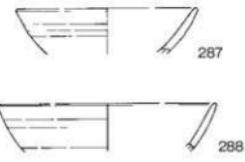


第30図 遺構外出土の土器 (11)

Up グリッド (286 ~ 289)



Vp グリッド (290 ~ 292)



第31図 遺構外出土の土器 (12)

0 (1/3) 10cm

2 墨書き土器・黒色土器

出土した墨書き土器は、全部で5点である。そのほかに、墨書き関連の遺物として、転用硯が1点出土した。いずれも須恵器で、遺構外からの出土である。ここでは、6点(294~299)すべてを図示した。なお、文字の判読については、浅井勝利氏(新潟県立歴史博物館)からご教示をいただいた。

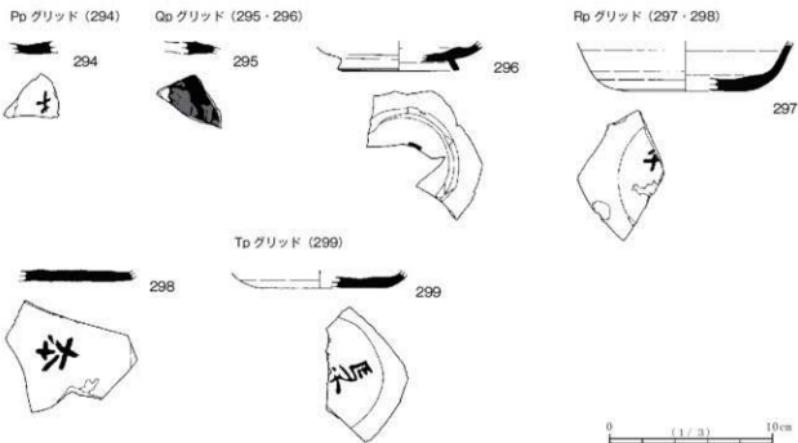
294は無台坪の底部で、外面に「千」と書かれている。295は坪蓋を硯に転用したもので、天井部内面に墨痕が認められる。296は有台坪である。底部外面に墨書きがみられるが、欠損によりその内容は不明である。297は無台坪で、底部外面に「千」と書かれている。298は皿の底部で、外面に「本」と書かれている。なお、今回の調査で、明確に皿と判断できた遺物は、本資料だけであった。299は無台坪で、底部外面に「馬口」と書かれている。「馬」の下に記された文字は、欠損により不明である。

黒色土器については、小破片のため図示していない。いずれも器種は坪で、内面を黒色処理している。出土した破片数は、Pp グリッドから2点(1.4g)、Qo グリッドから1点(1.8g)、Qp グリッドから2点(4.2g)、Rp グリッドから2点(3.8g)、Sp グリッドから5点(12.1g)、Tp グリッドから1点(2.4g)である。Sp グリッドから若干多く出土しているが、その出土位置に特別な意味は見いだせない。

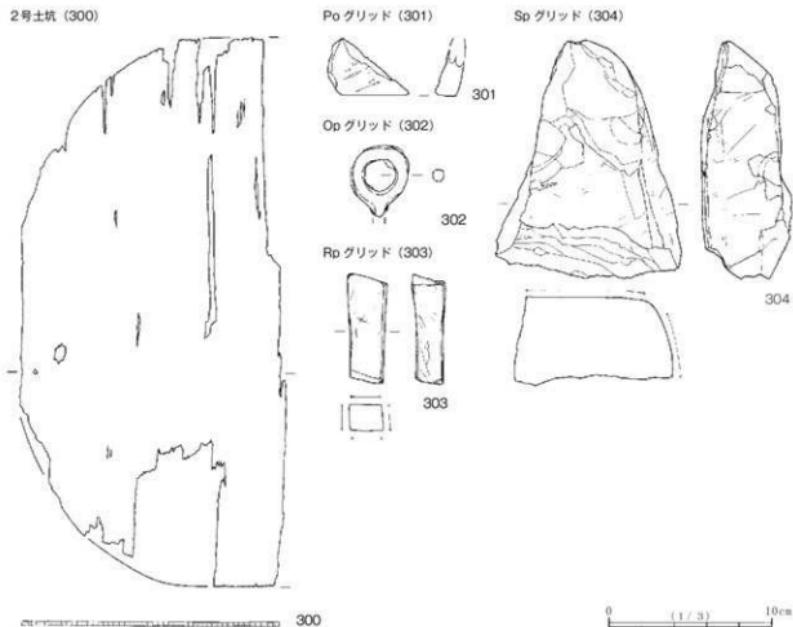
3 その他の遺物

木製品、土製品、金属製品、石製品が出土している。木製品は出土量が少ない。遺存状態も悪く、形を保って取り上げられたものは数点である。ここでは1点(300)を図示した。300は蓋板である。2号土坑からの出土で遺存状態は悪い。厚さは2.5mmと薄く、外縁部付近に穿孔が1箇所確認できる。

土製品と金属製品は1点ずつ、石製品は2点、いずれも遺構外から出土した。ここでは4点(301~304)を全て図示した。301は円筒形土製品で、住居のカマド構築部材と推定される。302は環状鉄製品で、その性格は不明である。303・304は砾石で、その材質からどちらも中砥と考えられる。



第32図 墨書き土器



第33図 その他の遺物

第V章 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

新潟県新発田市に所在する菅田遺跡（2区）は姫田川右岸に位置する。発掘調査では平安時代の土師器・須恵器、中世の陶器などが出土している。

本分析調査では2号土坑から出土した木製品2点について樹種同定を行い、木材利用について検討する。

1 試料

試料は、2号土坑から出土した、蓋板（300）および槽の木製品2点である。

2 分析方法

生材は、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の切片を作成する。ガムクロラールで封入、光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

3 結果

結果を以下に示し、検出された試料の解剖学的所見を述べる。

・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや緩やかで、垂直樹脂道が晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道と、樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2個が多い。放射組織は単列、1～10細胞高。

樹種同定結果

試料名		器種	樹種
2号土坑	300	蓋板	スギ
2号土坑	—	槽	マツ属複維管束亜属

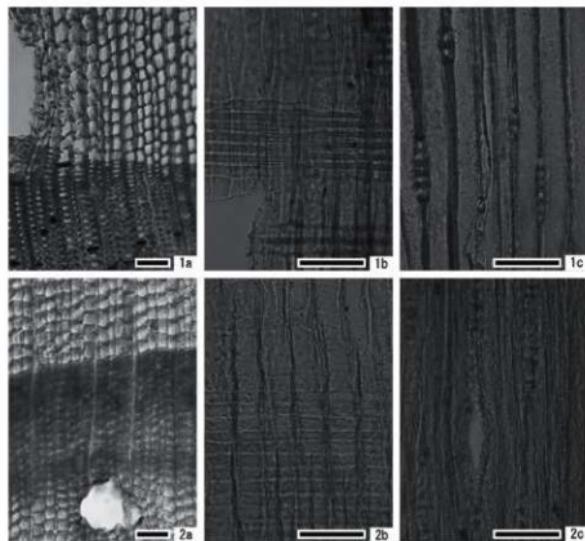
4 考察

2号土坑から出土した蓋板（300）の樹種はスギである。スギは水に強く、割裂性が良くて曲げに強い良材であることから、建築材や器具材などさまざまな用途に使われる。加工しやすく曲げに強いことから、曲物の側板、底板、蓋板にはヒノキとともに多用される。伊東隆夫・山田昌久編（2012）の出土木製品用材データベースをみても、全国的に曲物にスギ材を用いる例が多い。

2号土坑から出土した槽の樹種はマツ属複維管束亜属である。マツは典型的な陽樹で瘦せ地でも育ち、成長も早いため、人家の近くに多く、入手しやすい木材である。材質は中庸で、加工しやすく、特に水湿に強く耐久性に富む。このことから、土木材や建築材として利用されるほか、器具材としても利用される。先述した出土木製品用材データベースをみても、県内では、各時代において、様々な用途で多用された樹種であることがいえる。

引用文献

- 林 昭三, 1991. 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編), 2012. 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz L. and Gasson P.E. (編), 2006. 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.
- 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz L. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982. 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998. 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修). 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



1. スギ(2号土坑 300)
2. マツ属複維管束亜属(2号土坑 槽)

a:木口 b:径目 c:板目
スケールは100μm

第34図 木材の顕微鏡写真

第VI章 まとめ

今回調査を実施した2区では、中世および古代の土坑、溝、ピットを検出した。遺構は、主に調査区内の微高地部分で検出している。調査区西部の低地部分は、ピットを1基検出しただけで、遺構はほぼ分布していない。1区（令和元年調査）の調査結果と照らし合わせると、同区の東部では湿地を検出しておらず、2区の低地がそのままその湿地へ続いている可能性がある。その場合、低地および湿地は、東西約133mの幅で広がっていると推定される。また、1区はその他に、西部で流路を確認し、その流路と東の湿地に挟まれた平坦地では、土坑とピットを検出している。ただし、遺構の数は少なく、その分布も2区に比べて希薄であった。1・2区ともに調査範囲が狭いことから、確定的ではないが、上記の遺構分布状況や地形的要因などから判断して、菅田遺跡は、2区の位置する遺跡東半部を中心とされた集落跡と推定される。

ここで、2区の調査結果について改めてまとめてみたい。中世に該当する遺構は、1～3号土坑および1～11号ピットで、その数は多くない。また、調査区中央部のやや東寄りで検出したが、その範囲は狭く限定的である。遺構の時期は、出土した土師質土器小皿の年代から、3号土坑が13世紀代と推定されるものの、そのほかの遺構については不明であった。このように、中世の菅田遺跡は、時期の分かれる遺構や出土遺物が極めて限られている。そのため、集落の存続時期を明確にすることは難しいが、ここでは3号土坑の年代から、その時期を13世紀代、すなわち中世前半と考えておきたい。なお、中世の遺物としては、遺構外から珠洲片口鉢も出土している。ただし、15世紀代の所産と推定され、集落の時期とは年代差がみられる。

古代に該当する遺構は、4～10号土坑および1～4号溝、12～36号ピットである。出土遺物から推定される遺構の時期は、4号土坑が8世紀第4四半期から9世紀初頭頃、5号土坑が8世紀後半、9号土坑が8世紀末から9世紀初頭頃、1号溝が9世紀第3四半期、3号溝が8世紀末から9世紀初頭頃、P33が8世紀第4四半期である。以上のことから、古代の菅田遺跡は、8世紀後半から9世紀第3四半期にかけて集落が営まれていたと考えられる。遺物包含層から出土した土器の年代も、概ねこの時期に該当しており、整合する。また、1区の調査結果で示された遺跡の年代とも矛盾していない。

今回検出した遺構は、中世と古代とともに遺存状態は良くない。また、建物跡などの居住に関連する遺構や、鍛冶炉・鍬状小溝といった手工業や農業などの生産に関連する遺構は検出されていない。そのため、集落の詳細な内容やその性格を明らかにすることはできなかった。ただし、古代については、遺構外からの出土遺物が多く、穿孔のある土器類（62・157）など、特徴ある遺物も出土している。以下、少し触れておく。

62は、体部に穿孔のある土器器有台鉢である。同器種は有台盤とも呼称され、阿賀北地域では、新発田市桑ノロ遺跡（鶴巻ほか2003）、新発田市地蔵潟A遺跡（本田ほか2012）、胎内市藏ノ坪遺跡（飯坂ほか2002）、胎内市船戸川岸遺跡（水澤・四柳2002）、村上市鴨侍遺跡（吉井2002）などから出土している。ただし、穿孔のあるものではなく、器面の調整技法も62と類似するものはない。157は、胴部に穿孔のある土器器蓋の小形品である。穿孔のある蓋は、新発田市坂ノ沢C遺跡（渡邊・田中2001）でも出土しているが、穿孔が焼成後であることや、その位置が頭部であることなど、157とは様相が大きく異なる。これらのことから、62と157は、周辺地域では類例のない特徴的な土器と考えられ、その用途は特別なものであったと想定される。なお、特徴的な土器は1区からも出土している。外面を赤彩した土器器無台盤で、県内の出土事例は少ない。このように、一般的ではない遺物が複数出土していることは、本遺跡の性格を考えるうえで注目すべき点といえるだろう。

引用・参考文献

- 阿部洋輔・木村宗文 1980 「第二編 中世の新発田 第一章 荘園の成立 第二節 新発田市域の莊園」『新発田市史』上巻
新発田市
- 坂坂盛泰ほか 2002『蘿ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・財新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊藤喜代子ほか 2006『太田遺跡・箱館遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 伊藤喜代子ほか 2008『加治天王前遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 伊藤正志ほか 2021『五斗・菅田遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 加藤 学ほか 2014『小船波遺跡』新潟県教育委員会・財新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 桑原正史 1980 「第一編 原始・古代の新発田 第二章 古代の新発田 第二節 律令時代の阿賀北地方」『新発田市史』上巻
新発田市
- 国土地理院 1993『1:25,000 土地条件図 新発田』
- 坂井秀弥ほか 1989『山三賀II遺跡』新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 後澤正史 2012「第Ⅳ章まとめ 2 遺物の時期的位置付けと特徴」『地蔵湯A遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 後澤正史 2014「Vまとめ 1 丸山A遺跡出土土器の特徴と時期的位置付け」『丸山A遺跡 発掘調査報告書』
新発田市教育委員会
- 後澤正史 2019「第5章 古代 第2節 土器・木製容器 第2項 阿賀北」『新潟県の考古学III』新潟県考古学会
- 菅原四郎 1961『菅谷 川東郷土史料』上巻・下巻 川東郷土史料刊行委員会
- 鈴木 晚ほか 2006『家ノ内遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 鈴木 晚・後澤正史 2012『空毛遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 高橋礼弥・松田時次 1988『加治川治水・利水誌』加治川水防事務組合
- 田中耕作ほか 1990『三光駒跡・宝積寺駒跡』新発田市教育委員会
- 鶴巻康志 1998『市道関係遺跡発掘調査報告書I』新発田市教育委員会
- 鶴巻康志ほか 2003『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 戸根与八郎ほか 2017『五十公野駒跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 新潟古代土器研究会 2004『越後阿賀北地域の古代土器様相』
- 野尻瀬火山灰グループ 1989『火山灰分析の手びき』地学団体研究会
- 本田祐二ほか 2012『地蔵湯A遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 本田祐二ほか 2018『板山駒跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 水澤幸一・四柳嘉章 2001『下町・坊城遺跡V』中条町教育委員会
- 水澤幸一・四柳嘉章 2002『船戸川崎遺跡4次調査』中条町教育委員会
- 水澤幸一 2007「中世越後の土器と陶磁器-11~14c.前半-」『中世前期北陸のカワラケと輸入陶磁器・施釉陶器・瀬戸美濃製品』
北陸中世考古学研究会
- 吉井雅勇 2002『鴨侍遺跡』荒川町教育委員会
- 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 渡邊美穂子・田中耕作 1999『山ノ下遺跡・坂ノ沢D遺跡・岩ノ沢遺跡』新発田市教育委員会
- 渡邊美穂子・田中耕作 2001『坂ノ沢C遺跡 II (平安時代編)』新発田市教育委員会
- 渡邊美穂子ほか 2014『丸山A遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

遺物観察表

・計測値の()は復元値。< / >は保存値を示す。

・調整の回数へラウンドで示す。回数方向を示す。

土器

序番	出範 番号	遺構	アリット	層位	種別	器種	計測値 (cm)			造作度	色調	焼成	胎土	調整回数	備考		
							口径	基面	底径								
3	1	115 トレンチ	廻	廻	廻	廻	10.88/3 西側直角	良好	石高を多量、長石・赤色 粒子を微量含む。	内外面削除ナダ。体部外 面下端削除ローラー性、底 部削除ヘラ切り。							
	2	130 トレンチ	廻	廻	廻	廻	11.20/4.1 東	17.40	1/9	2.5V7/1 灰白色	良好	石高・長石を今や多く含 む。	内外面削除ナダ。高台削 り付け。				
	3	131 トレンチ	廻	廻	廻	廻	11.0/3.7 東	16.40	1/8	2.5V6/1 灰色	聖職	細小な長石を多量、微小 な長石を微量含む。	内外面削除ナダ。口縁部 内面次端部に凹む。底部削 除ヘラ振り。				
	4	132 トレンチ	廻	廻	廻	廻	10.88/2 灰黄色	良好	長石・石英を少量含む。	内外面削除ナダ。体部外 面下端削除ヘラ振り。							
	5	133 トレンチ	廻	廻	廻	廻	10.87/3 東側直角	良好	石高・長石を少量含む。	内外面削除ナダ。底端削 除ヘラ振り(左)。							
	6	133 トレンチ	廻	廻	廻	廻	10.87/2 東側直角	良好	石高・長石を少量、褐色 粒子・黒色粒子を微量含 む。	内外面削除ナダ。追加削 除ヘラ振り(左)。							
	7	133 トレンチ	廻	廻	廻	廻	10.86/0 灰白色	聖職	50.00/1灰白色・擦痕、長 石を微量含む。	外底平行きタキ、内面は 同心円凸で其底の後、縮 径・横筋・ケム。							
	8	133 トレンチ	廻	廻	廻	廻	10.87/4 東側直角	良好	石高を少量、細小な長 石・黒色粒子を微量含 む。	内外面削除ナダ。							
13	9	3号土坑 Tp4-2	1層	土師質 土器	小皿	(8.6)	1.45 丸平底	1/6	10.88/2 灰白色	良好	石高を少量、長石・赤色 粒子・褐色を微量含む。	手づくれ式、内外面削 除ナダ。	13Cの所産。				
	10	4号土坑 Tp5-3 Tp5-4	1層 壁面	廻	廻	廻	11.5/6 丸平底	—	10.88/1 青灰色	聖職	5.3V6/1 東側直角	体部外 面下端に2条の浅溝が嵌 む。					
	11	4号土坑 Tp5-5	1層	土師器	甕	—	—	—	10.88/4 西側直角	良好	石高多量で、太粒が少 なく、長石をや多く含 む。黒色・黒色粒子を 少量含む。	内面平行タキ、内面圓 心凸円具鉢。					
	12	4号土坑 Tp5-5	1層	土師器	甕	(33.8)	0.75	—	10.88/3 西側直角	良好	石高・長石・赤色粒子を 多量、金星目・白色斜状 物・黑色粒子・小礫を微量 含む。	内外面削除ナダ。体部外 面下端に2条の浅溝が嵌 む。					
	13	5号土坑 Tp5-5 Tp5-6 Tp5-7 Tp5-8 Tp5-9 Tp5-10	1層 壁面	廻	廻	廻	—	0.32	9.9	2.5V7/2 灰白色	良好	石高を多量、長石を少 量、黑色粒子を微量含 む。	内外面削除ナダ。底端削 除ヘラ切り(左)。				
	14	5号土坑 Tp5-5 Tp5-6 Tp5-7 Tp5-8 Tp5-9 Tp5-10	1層 壁面	廻	廻	廻	—	0.30	9.9	2.5V8/2 灰白色	良好	石高やや多く、大粒が少 なく含む。長石を少量含 む。	内外面削除ナダ。追加削 除ヘラ切り(左)。				
	15	9号土坑 Tp4-5 Tp4-6	1層 壁面	廻	廻	廻	12.2	3.3	8.4	1.5H1直角	聖職	石高・長石多量で、とも に大粒が目立つ。小礫を 少量化。	内外面削除ナダ。追加削 除ヘラ切り(左)。				
	16	9号土坑 Tp5-1	1層	土師器	甕	—	—	—	10.88/1 西側直角	聖職	石高・長石をや多く、 白色斜状物を微量含 む。	内外面削除ナダ。追加削 除ヘラ切り。	体部内外に スル・ヨリ。				
18	17	9号土坑 Tp4-1 2層 壁面	廻	廻	廻	廻	12.0	3.65	9.6	3/7	10.88/2 灰白色	良好	石高・長石・赤色 粒子を微量含む。	内外面削除ナダ。追加削 除ヘラ切り(左)。			
	18	9号土坑 Tp4-1	1層	廻	廻	廻	—	0.10	9.6	2.5V7/1 灰白色	聖職	石高を多量、石英をや 多く、白色斜状物・褐色 粒子を微量含む。	内外面削除ナダ。追加削 除ヘラ切り。				
	19	9号土坑 Tp4-1 Tp4-1 Tp4-2 Tp4-3	1層 壁面	廻	廻	廻	11.7	3.7	6.8	3/5	2.5V7/1 灰白色	聖職	石高・長石をや多く、 黑色粒子を多量含む。	内外面削除ナダ。追加削 除ヘラ切り(左)。			
	20	9号土坑 Tp5-1	1層	土師器	甕	—	—	0.30	9.8	2.5V8/4 西側直角	良好	石高をや多く、長石・ 黑色粒子を少量、赤色 粒子・褐色粒子を微量含 む。	内外面削除ナダ。				
	21	9号土坑 Tp5-5 Tp5-6 Tp5-7 Tp5-8	1層 壁面	廻	廻	廻	—	0.10	9.75	10.88/6 西側直角	良好	石高・長石をや多く、 黑色粒子を少量、赤色 粒子・褐色粒子を微量含 む。	内外面とも口縁部削 除ナダ。				
	22	9号土坑 Tp5-5	1層	土師器	甕	(9.6)	0.73	—	10.88/4 西側直角	良好	石高をや多く、長石・ 赤色粒子を微量含む。	内外面とも口縁部削 除ナダ。					
	23	9号土坑 Tp5-1	1層	土師器	甕	(9.2)	0.65	—	10.88/4 西側直角	良好	石高をや多く、長石を 少量化、褐色を微量含む。	内外面とも口縁部削 除ナダ。					
	24	9号土坑 Tp4-1	1層	土師器	甕	—	—	—	10.88/6 西側直角	良好	石高多量、長石やや多 く。と共に大粒が目立つ。 赤色・黑色粒子・褐色粒子 を微量含む。	内外面削除ナダ。	胴部内面に ヨグ。				

標図	測量番号	地質	グリッド	方位	種別	器種	計測値(cm)			堆積度	色調	地成	助土	調整は?	備考
							口径	認高	底高						
	25	9号土坑*	Tp1-1 Tp1-2 Tp1-3	1層 ■ ■b層	土師器	甕	-	-	-	鋼部下	3.0M/4 に高い 緑色	良好	石英を多量、長石を少 量、金雲母・金昌片・細 織を微量含む。	外面部凹メ、内面部カキ メの現。一部縫合部ナラ ズ。	外面にスス 。
	26	9号土坑	To4-5	1層	土師器	甕	-	-	-	鋼部下	10YR2/1 墨色	良好	石英を少量、長石・赤 色粘土子・褐色粘土子を微量 含む。	外面部平行タタク、内面部 凹・横凹ハケア。	
	27	10号土坑	Vo2-5	1層	粗造器	無台坪	-	(2.0)	(10.0)	体部下半~ 底部1/4	10YR8/3 浅黄緑色	良好	石英を少量、長石・白 色粘土子・褐色粘土子を微量 含む。	外面部凹凸ナダ。底部切 り不規。	
	28	1号構	Tp3-1 Tp3-2	1層 ■ ■b層	粗造器	無台坪	(11.2)	2.6	0.23	1/3	2.5Y6/1 灰色	堅軟	長石を多量、石英を少 量含む。	外面部凹凸ナダ。底部同 じへ切り。	
	29	1号構	Tp2-1 Tp2-2	1層 ■ ■b層	粗造器	無台坪	(12.0)	2.8	8.2	1/2	2.5Y6/1 灰色	堅軟	黒色・褐色点在立つ。微 小な長石を多量、褐色・青 色粘土子・褐色粘土子を微量 含む。	外面部凹凸ナダ。底部同 じへ切り(左)。	小泊産。
	30	2号構	Tp4-1	2層	土師器	甕	-	(3.2)	(5.6)	鋼部下位~ 底部1/6	7.5YR8/4 浅黄緑色	良好	石英をやや多く、長石を 少く、金雲母・金昌片・細 織を微量含む。	外面部凹凸ナダ。鋼部下 位凹・横凹ハケア、内面 部凹凸ナダで底に凹凸。	
	31	3号構	Tp5-1	1層	粗造器	無台坪	(11.2)	3.2	(7.7)	1/8	2.5Y7/2 灰黄色	良好	石英をやや多く、微小な 長石を多量、褐色・青 色粘土子・褐色粘土子を微量 含む。	外面部凹凸ナダ。底部同 じへ切り。	
	32	3号構*	Tp1-1 Tp1-2 Tp1-3	1層 ■ ■b層 *	粗造器	無台坪	(11.9)	3.4	6.0	2/5	2.5Y6/1 灰色	堅軟	褐色は薄らか。微小な長 石を多量、微小な石英・ 黑色粘土子を微量含む。	外面部凹凸ナダ。底部同 じへ切り(右)。	小泊産。
	33	3号構	Tp1-1 Tp1-2 Tp1-3 Tp2-1 Tp2-2	1層 ■ ■b層 *	粗造器	無台坪	12.0	3.3	9.2	4/5	10YR8/3 浅黄緑色	良好	褐色は薄らか。石英を少 量、長石・小織を微量含む。	外面部凹凸ナダ。底部同 じへ切り(左)。	
	34	3号構	To1-5	1層	粗造器	無台坪	(13.2)	3.2	0.6	1/8	10YR7/3 に高い 黄緑色	良好	微小な長石をやや多く、 石英・細織を微量含む。	外面部凹凸ナダ。底部同 じへ切り。	
	35	3号構	Tp5-1	1層	粗造器	無台坪	(13.1)	3.5	(7.6)	1/6	10YR6/3 に高い 黄緑色	良好	石英・長石を少量、白色 粘土物・細織を微量含む。	外面部凹凸ナダ。底部同 じへ切り。	
19	36	3号構*	Tp1-5 Tp1-6 Tp1-7 Tp2-1 Tp2-2 Tp2-3 Tp2-4 Tp2-5 Tp2-6 Tp2-7	1層 ■ ■b層 *	粗造器	有台坪	(10.5)	6.9	6.4	2/3	3.5/0 暗灰色	堅軟	3.5Y6/1 暗灰色。長石が極 めて多量で立つ。石英 を微量含む。	外面部凹凸ナダ。底部同 じへ切り(左)。高台付 け付け。	
	37	3号構*	Tp2-5 Tp2-6 Tp2-7 Tp3-2 Tp3-3 Tp3-4 Tp3-5 Tp3-6 Tp3-7	1層 ■ ■b層 *	粗造器	有台坪	(14.0)	(6.7)	-	口縫部~体 部1/3	2.5YR5/2 灰褐色 (内面: 2.5Y6/1 暗灰色)	堅軟	2.5YR7/4 に高い 緑色。石 英・長石を多量含む。	外面部凹凸ナダ。口縫部 部が突出してござれる。 体部外表面中央に2条の沈 溝がある。	
	38	3号構	Tp2-5 Tp2-6 Tp2-7	1層 ■ ■b層 *	粗造器	有台坪	(14.1)	(6.2)	-	口縫部~体 部1/6	10YR7/2 に高い 黄緑色	良好	褐色粘土子をやや多く、石 英・長石を微量含む。	外面部凹凸ナダ。口縫部 部が突出してござれる。 体部外表面中央に2条の沈 溝がある。	
	39	3号構	Tp2-1 Tp2-2 Tp2-3 Tp2-4 Tp2-5 Tp2-6 Tp2-7	1層 ■ ■b層 *	粗造器	折縫坪	13.9	4.5	6.3	3/4	2.5Y7/1 灰褐色	良好	石英・長石を多量、褐色 粘土子・小織を微量含む。	外面部凹凸ナダ。口縫部 部に1条の沈溝がある。 高台付け付け。	
	40	3号構	Tp5-1	1層	粗造器	甕	-	(2.0)	-0.8小径 -	1/7	3.5/0 灰色	堅軟	3.5Y7/1 明鵝灰色。長石を やや多く、石英を少 量含む。	外面部凹凸ナダ。	
	41	3号構*	Tp1-5 Tp1-6 Tp1-7	1層 ■ ■b層 *	土師器	甕	(12.8)	(2.0)	-	口縫部1/8	10YR7/3 に高い 黄緑色	良好	石英をやや多く、微小な 長石を少く、白色粘土物 を微量含む。	外面部ナダ。	
	42	3号構	Tp1-1 Tp1-2 Tp1-3	1層 ■ ■b層 *	土師器	甕	-	(3.2)	(0.6)	鋼部下位~ 底部1/3	10YR7/2 に高い 黄緑色	良好	石英多量で、大粒自立 づ。微小な長石・褐色粘 土子を微量含む。	外面部凹凸ナダ。内面部 カキメ。	
	43	3号構	Tp4-2	1層	土師器	甕	-	-	-	鋼部下	10YR7/3 に高い 黄緑色	良好	石英・長石を少量含む。	外面部平行タタク。内面 部凹凸ナダ。	
	44	4号構	Tp5-2 Tp1-1	1層 ■ ■b層	粗造器	無台坪	-	(1.4)	(8.0)	底部1/4	2.5Y7/2 灰褐色	良好	石英・長石を少量、黒色 粘土子を微量含む。	外面部凹凸ナダ。底部同 じへ切り。	
	45	P-17	Qn5-1	2層	粗造器	無台坪	-	(2.1)	(0.6)	体部下半~ 底部1/3	2.5Y7/1 灰白色	堅軟	長石多量、石英や少 く、ともに大粒が自立 づ。白色粘土物を微量含 む。	外面部凹凸ナダ。底部同 じへ切り。	

群別	地質番号	地質	グリッド	層位	種別	層理	鉛錠値 (cm)			透達度	色調	施成	粘土	調整ほか	備考
							一口径	温高	底深						
19	66	P23	Tg2-1	1層	礁岩層	無台坪	12.5	3.5	9.6	ほぼ完形	10W7/3 にひい黄褐色	良好	石英多量、長石やや多く、ときに大粒が目立つ。白色粘子・黑色粘子・小穂を微含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ。	
	47	0s5-5	IIIa層	礁岩層	有台坪	—	(1.3)	(7.0)	底部1/3	10W7/3 灰褐色	聖潔	石英多量で、太粒がやや目立つ。石英を少量、黑色粘子を微含む。	内外面削平ナシ。高台點り付け。		
	48	0s5-5	IIIa層	土師層	變	(0.8)	(3.0)	—	口縫部～顎部1/9	10W4/4 淡黃褐色	良好	石英・長石・黑色粘子を多く、小穂を微量含む。	内外面削平ナシ。側面カキメ。内面削平ナシ。		
	49	0p4-2	IIIa層	礁岩層	無台坪	—	(1.3)	(8.5)	底部1/4	2.3W7/1 灰褐色	聖潔	長石やや多く、石英少量で、ときに大粒がやや目立つ。白色粘子・小穂を微含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ。		
	50	0p4-2	IIIa層	礁岩層	無台坪	(2.4)	3.1	8.5	1/2	2.3W6/1 灰褐色	聖潔	表面は滑らか。微小な長石をや多く含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ(1.1)。	小面削。	
	51	0p5-1	IIIa層	礁岩層	無台坪	(2.4)	3.2	(9.0)	1/4	2.3W6/2 灰褐色	聖潔	表面はざらつき。長石を極めて微量、石英を多量含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ。		
	52	0p5-2	IIIa層	礁岩層	無台坪	—	(1.6)	(9.0)	底部1/3	3W7/1 灰白色	聖潔	長石をや多く。石英を少量化。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ(2.4)。		
	53	Op Pp1-1	IIIa層 + 礁岩層	礁岩層	無台坪	(2.2)	2.9	7.2	2/5	5W/0 灰褐色	聖潔	表面は滑らか。長石を著しく、大粒が目立つ。石英を少量、白色粘子物を微量含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ(2.4)の後、ハタキナシ。		
	54	0p5-2 0p5-2	IIIa層 +	礁岩層	無台坪	(1.7)	3.0	(9.2)	2/7	3W7/1 灰白色	聖潔	長石をや多く。長石を少量化。黑色粘子・白色粘子物を微量含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ(2.4)の後、一部ハタキナシ。	堆積間に通路開削ヘアリ(2.4)。	
	55	Op	IIIa層	礁岩層	有台坪	—	(2.5)	6.0	底部7/8	3W6/1 灰白色	聖潔	長石をや多く。石英を少量化。黑色粘子を微量含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ(2.4)の後、高台點り付け。		
	56	Op	IIIa層	礁岩層	有台坪	—	(2.0)	(7.9)	底部1/6	2.3W7/2 灰白色	良好	長石を多量、石英・黑色粘子を微量含む。	内外面削平ナシ。高台點り付け。		
	57	0p5-2 0p4-2	IIIa層 +	礁岩層	有台坪	—	(1.9)	—	体部下端～ 底部1/4	10W7/3 にひい黄褐色	聖潔	長石や多く。石英を著しく。ときに大粒が目立つ。白色粘子物・繊維を微量含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ(2.4)の後、高台點り付け。		
20	58	0p4-3	IIIa層	礁岩層	横幅	—	(18.8)	—	顎部片	NZ/0 灰白色	聖潔	長石をや多く。微小な長石を微量含む。	外延カキメの後、平行ダイタキ。内面同心円凹地具現。		
	59	0p4-3	IIIa層	土師層	變	—	(3.6)	5.1	側下部～底 部2/3	10W7/3 にひい黄褐色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。黑色粘子をや多く。白色粘子・小穂を微量含む。	内外面削平ナシの後、側面削平ナシ。底面回転ヘアリ(2.4)。		
	60	0p5-2	IIIa層	土師層	變	—	(1.8)	(6.8)	底部1/6	10W8/2 灰褐色	良好	石英を多量、黑色粘子を微量含む。	内外面削平下端面取り扱いナシ。		
	61	Op	IIIa層	土師層	變	—	(1.6)	(9.5)	底部1/4	7.3W7/4 にGJ-標	良好	石英を少量化。白色粘子・小穂を微量含む。	内外面削平下端面取り扱いナシ。		
	62	0p5-2 0p4-2	IIIa層 +	土師層	有台林	—	—	—	体部片	10W6/2 灰黃褐色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。黑色粘子を微量含む。金雲母・白色粘子物を微量含む。	内面削平ナシ。内面横壁2面用(2面削る)。	後成間に体形剥離・斜面あり。	
	63	Pai-5	IIIa層	礁岩層	有台坪	—	(2.1)	—	体部下平～ 底部1/5	2.3W7/2 灰黃褐色	聖潔	長石をや多く。石英を少量化。小穂を微量含む。	内外面削平ナシ。高台點り付け(火炎)。		
	64	Pp4-1	IIIb層	礁岩層	無台坪	(12.0)	2.7	(9.6)	1/8	7.3W7/3 にGJ-標	聖潔	表面はざらつき。長石を微量含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ。		
	65	Pp4-1	IIIb層	礁岩層	無台坪	(11.0)	3.6	(9.6)	1/4	2.3W7/3 灰褐色	良好	長石や多く。大粒が目立つ。白色粘子を少量化。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ。		
	66	Pp4-2	IIIb層	礁岩層	無台坪	—	(1.3)	(8.0)	底部1/4	7.3W7/1 灰褐色	聖潔	微小な長石を多量、微小な石英を微量含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ。		
	67	Pp4-1 Qp1-5	IIIb層 +	礁岩層	有台坪	(12.5)	3.9	(6.6)	2/5	10W6/2 にひい黄褐色	良好	石英をや多く。長石を少量化。小穂を微量含む。	内外面削平ナシ。底面内面に強いクロロ。底面回転ヘアリ(2.4)。		
	68	Pp4-2	IIIb層	礁岩層	有台坪	—	(3.3)	(8.0)	1/4	5W/0 灰褐色	聖潔	10W7/1明瞭灰色。表面は滑らか。微小な長石を少量化含む。	内外面削平ナシ。高台點り付け。		
	69	Pp1-2	IIIa層	礁岩層	無台坪	—	(2.3)	(9.6)	体部下平～ 底部1/6	2.3W8/2 灰白色	良好	石英を少量、微小な長石を微量含む。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ。		
	70	Pp2-1 Pp3-3	IIIb層 +	礁岩層	有台坪	—	(3.4)	—	体部下平～ 底部1/3	5W/0 灰褐色	聖潔	2.3W7/3明瞭黄色で脈状。長石を少量化。	内外面削平ナシ。底面回転ヘアリ。		
21	71	Pp3-1	IIIb層	礁岩層	河床	—	(1.2)	—	2.3W6/2 2.5 天井部2/5	5W/1 灰褐色	聖潔	長石を多量。石英を少量化。細繩を微量含む。	内外面削平ナシ。つまみ上平面が砂中に沈み、中央がやや高い。		

番号	測定番号	地構	グリッド	層位	種別	基準	計測値(cm)			堆積度	色調	地成	胎土	調整±Δ	備考
							口徑	高さ	底径						
	72	Pg1-2	IIIa層	粗粘岩	肥沃付 長根粗	-	-	-	-	把手部分	2.5V6/1 黄灰色	聖潔	聖潔、長石を少許含む。	面取り。	外縁の一部 3V6/3時オ リーブ色の自 然軸。
	73	Pg4-1	IIIb層	土師器	甕	(13.1) (5.0)	-	-	-	口縁部～側 部付近1/3	10V6/3/2 に近い黄 褐色	良好	石英・長石をやや多く、 黒鐵貝を少許含む。	内縫面削輪ナダ。	口付部内面 にスカ・ヨ ギ。
	74	Pg4-1	IIIb層	土師器	甕	(13.0) (4.7)	-	-	-	口縁部～側 部付近1/3	5V6/4 に近い暗 褐色	良好	石英多量で、大粒が付立 つ。長石・黒鐵貝をやや 多く、小織子を微量含む。	内縫面削輪ナダ。	内縫面削輪ナダ。
	75	Pg5-2	IIIb層	土師器	甕	-	(1.0)	(0.36)	底部1/9	10V7/3 に近い黄 褐色	良好	石英多量、長石をやや 多く、黒鐵貝・金雲母を 微量含む、赤色粒子を微量含 む。	鋼鋸外周下端へラケタジ カ。内縫面削輪ナダ。		
	76	Pg2-1 Pg2-2	IIIb層 +	土師器	甕	-	-	-	-	側面部	10V7/3 に近い黄 褐色	良好	石英多量で、大粒が付立 つ。赤色粒子を多量、長 石をやや多く、金雲母・ 小織子微量、黒色粒子を 微量含む。	背面平行タタキ。内縫面 心円凹凸直角。	
	77	Pg4-1	IIIb層	土師器	甕	-	-	-	-	側面部	7.5V6/2 に近い暗 褐色	良好	石英・長石七多量、黒鐵 貝・赤色粒子・小織子を 微量含む。	背面平行タタキ。内縫面 心円凹凸直角。	
	78	Qs	IIIb層	陶器	瓦口鉢	-	-	-	-	口縁部分	7.5V6/1 灰白色	良好	やや焼、長石を少量、白 色斜方軽石・細織子を微量含 む。	内縫面削輪ナダ。ロング ボンド上面に耐候性鉄酸化 物。	削れ口1面に 漆付墨(緑漆 90)。 15Cの所定。
	79	Qs	IIIb層	陶器	瓦口鉢	-	-	-	-	側面部	7.5V6/1 灰白色	良好	やや焼、白色斜方軽石を やや多く、長石を微量含 む。	内縫面削輪ナダ。	削れ口2面に 漆付墨(緑漆 90)。 15Cの所定。
	80	Qd-5 Qd-1	IIIb層 +	粗粘岩	断台坪	(12.0)	3.1	0.60	3/7	5V6/1 灰白色	聖潔	聖潔、表面は滑らか、細 小な長石を含む。石英・ 白色斜方軽石を微量含む。	内縫面削輪ナダ。追削回 軸へタ切り。		
	81	Qd-1 Qd-1 Rc-5	IIIb層 +	粗粘岩	断台坪	(12.0)	3.2	(10.0)	1/3	2.5V6/2 灰白色	良好	石英をやや多く、長石を 少量、小織子を微量含む。	内縫面削輪ナダ。追削回 軸へタ切り。		
	82	Qd-5 Qd-1 Qd-1	IIIb層 +	粗粘岩	断台坪	(13.0)	3.45	9.9	3/7	2.5V6/2 灰白色	良好	石英多量、長石・褐色 粒子を少量、黒色粒子を 微量含む。	内縫面削輪ナダ。追削回 軸へタ切り。		
	83	Qd-2	IIIb層	粗粘岩	断台坪	(12.5)	(3.0)	(9.4)	-	口縁部～側 部1/3	5V6/0 灰白色	聖潔	長石多量で、大粒が付立 つ。石英を微量含む。	内縫面削輪ナダ。	
	84	Qd-5	IIIb層	粗粘岩	甕	(13.0)	(3.5)	(10.0)	1/7	10V6/2 灰白色	良好	石英・微小な長石を微量 含む。	内縫面削輪ナダ。		
	85	Qd-4	IIIb層	粗粘岩	断台坪	-	(1.1)	0.60	底部1/4	2.5V6/2 灰白色	良好	石英少量、微小な長石 を微量含む。	内縫面削輪ナダ。追削回 軸へタ切りの後、ハラカ ツ。		
	86	Qd-3	IIIb層	粗粘岩	断台坪	-	(1.4)	0.60	底部1/7	2.5V6/2 灰白色	聖潔	聖潔、表面は滑らか、石 英を少量含む。	内縫面削輪ナダ。追削回 軸へタ切り。		
	87	Qd-5	IIIb層	粗粘岩	断台坪	-	(1.2)	0.60	底部1/7	10V6/2 に近い暗 褐色	良好	微小な長石・微小な長石 を少量、褐色粒子を微量 含む。	内縫面削輪ナダ。追削回 軸へタ切り。		
	88	Qd-2	IIIb層	粗粘岩	甕	(12.6)	(3.0)	-3.60	1/4	5V6/1 灰白色	聖潔	聖潔、長石をやや多く、 石英を微量含む。	内縫面削輪ナダ。追削回 軸へタ切りの後、ハラカ ツ。		
	89	Qd-5	IIIb層	土師器	甕	-	(5.3)	(9.0)	側面部下端～ 底部1/5	10V6/3 に近い黄 褐色	良好	石英・長石を多量、黒鐵 貝を含む。赤色粒子・ 黑色粒子を微量含 む。	内縫面削輪ナダ。網下部 側面部削輪と長石1/2ゲー ジ削輪ナダで強めタコ ド。	網外外面に網 丸。	
	90	Qd-5	IIIb層	土師器	甕	-	(6.9)	6.5	鋼鋸下平～ 底部1/8	10V7/3 に近い黄 褐色	良好	長石が特に多量。石英多 量で、金雲母を含む。黒鐵 貝をやや多く、大粒が付立 つ。赤色粒子・黑色粒子を微量含 む。	内縫面削輪が著しく、調整 不順。内縫面アラ ブ。		
	91	Qd-4	IIIb層	土師器	甕	-	(3.9)	(11.0)	側面部下位～ 底部1/7	7.5V6/7 に近い暗 褐色	良好	石英・長石を多量、黒鐵 貝を少量、金雲母・黒鐵貝・ 赤色粒子・黑色粒子を微量含 む。	内縫面削輪ナダ。内縫 力カム。		
	92	Qd-5	IIIb層	土師器	甕	-	-	-	-	NL 5.0 厚さ (内縫 底部) 10V6/3 に近い黄 褐色	良好	石英をやや多く、長石を 少量、金雲母・黒鐵貝・ 赤色粒子・黑色粒子を微量含 む。	内縫面削輪タタキ。内縫面 心円凹凸直角。	外縫面スス。	
	93	Qd-4	IIIb層	粗粘岩	断台坪	(11.0)	2.4	(7.0)	1/9	7.5V6/1 灰白色	聖潔	長石をやや多く、石英を 少量含む。	内縫面削輪ナダ。追削回 軸へタ切り。		
	94	Qd-5	IIIb層	粗粘岩	断台坪	(11.0)	3.0	(8.4)	1/4	10V6/1 灰白色	聖潔	聖潔、表面は滑らか、長 石をやや多く、大粒が付立 つ。石英を微量含む。	内縫面削輪ナダ。追削回 軸へタ切り。		

群別	母種番号	遺傳	アリッド	部位	種別	基盤	計測値(cm)			進育度	色調	種	地土	調整ほか	備考
							口径	周長	通長						
21	95		Qp0-2	IIIb	無花器	無台环	(12.0)	2.8	(9.0)	1/6	±57/2 灰黄色	聖潔	黒墨、石青やく多く、大 粒け立つ。最石を少 量。小穂を微露含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	96		Qp0-2 Qp0-3 Qp0-4-3	IIIb	無花器	無台环	(11.0)	2.8	8.4	2/7	10W/1 灰色	聖潔	四方7/1黒墨灰で被毛。 茎表面滑らか。長石や 多く、石青少額。とも に大粒け立つ。黑色粒子 を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	97		Qp0-3 Qp0-2 Qp0-2 Qp0-3 Qp0-2	IIIb	無花器	無台环	(11.0)	3.45	8.6	1/2	96/0 灰色	聖潔	茎面は滑らか。黑色小 穂が目立つ。微小な石 を多量。石青・白色粒 物を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	98		Qp0-1 Qp0-2 Qp0-3	IIIb	無花器	無台环	(12.0)	3.2	7.9	3/4	103W/3 浅褐色	良好	石青・長石やく多く、と くに大粒がやく目立つ。微 小穂を少額。黑色粒子を 微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	99		Qp0-2	IIIb	無花器	無台环	(11.0)	3.1	(7.6)	1/4	2.5W/1 灰灰色	聖潔	石青・長石やく多く、と くに大粒が目立つ。細繩 を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	100		Qp0-2	IIIb	無花器	無台环	(12.0)	3.15	(8.6)	1/6	2.5W/2 灰白色	良好	石青やく多く、甚石を 少量。褐色粒子・黑色粒 子を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り後、ヘラナ ギ。	
	101		Pp3-2 Qp1-3	IIIb	無花器	無台环	(13.0)	3.5	10.4	4/7	1.0W/2 灰白色	やや敏感	和南多額で、大粒け立 れ立つ。長石を少量含 む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	102		Qp4-1	IIIb	無花器	無台环	(11.0)	3.0	(8.0)	1/4	10W/2 やや敏感	聖潔	石青を微量、長石・小穂 を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。摩耗が著 しい。	
	103		Qp5-1	IIIb	無花器	無台环	(12.0)	3.2	(9.6)	1/8	7.5W/1 灰	聖潔	長石やく多く。石青を 微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	104		Qp1-1	IIIb	無花器	环	(13.0)	(3.2)	(6.7)	1/6	10W/2 にじみ黄 褐色	良好	聖潔。石青を微量。長 石・褐色粒子・黑色粒子 を微量含む。	内外面凹輪ナダ。	
	105		Qp4-2	IIIb	無花器	环	(10.0)	(3.2)	-	口縁部~体 部1/6	37/0 白色	聖潔	長石多額。石青少額。 ともに大粒がやく目立 つ。	内外面凹輪ナダ。	
	106		Qp4-2 Qp4-3	IIIb	無花器	环	(12.0)	(2.7)	-	口縁部~体 部1/6	2.5W/2 灰黄色	聖潔	和南・長石やく多く。 大粒け立つ。	内外面凹輪ナダ。	
	107		Qp3-2	IIIb	無花器	环	(12.0)	(2.9)	-	口縁部~体 部1/8	1.0W/1 灰黄色	聖潔	やや敏感。黑色小点が目 立つ。長石や多く。 和南を微量含む。	内外面凹輪ナダ。	
	108		Qp5-3	IIIb	無花器	無台环	-	(1.15D)	(7.0)	体部下~平 底部1/5	16/0 灰白色	聖潔	10W/1黒墨灰。長石多 量で目立つ。石 青を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	109		Qp1-1 Qp2-1	IIIb	無花器	無台环	-	(2.1)	(8.2)	直部1/5	5W/1 灰	聖潔	長石を多額。石青を微量 含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	110		Qp4-3	IIIb	無花器	無台环	-	(1.0)	(8.2)	直部1/6	2.5W/1 灰	聖潔	長石を多額。石青を微量 含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	111		Qp4-2	IIIb	無花器	無台环	-	(1.0)	(8.0)	直部3/7	2.5W/1 灰白色	聖潔	石青・長石やく多く。と くに大粒がやく目立つ。 細繩を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り(左)。	
	112		Qp5-1	IIIb	無花器	無台环	-	(0.6)	(8.5)	底部1/3	56/0 灰色	聖潔	10W/1黒墨灰で微張。 長石や多く。石青を 微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り(左)。	
	113		Qp3-2 Qp3-3 Qp4-2 Qp4-3 母土	IIIb	無花器	無台环	-	(1.2)	9.0	底部4/7	10W/3/1 灰褐色	聖潔	石青・長石をやく多く含 む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り(左)。	
	114		Qp2-2	IIIb	無花器	無台环	-	(1.0)	(9.0)	直部1/5	2.5W/2 灰白色	聖潔	やや敏感。石青・長石・ 褐色を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	115		Qp4-3	IIIb	無花器	無台环	-	(1.4)	(9.0)	通部2/5	10W/2 灰白色	良好	石青を多額。長石をや 多く。褐色粒子を微量含 む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	116		Qp5-2	IIIb	無花器	無台环	-	(0.85)	(9.0)	底部1/6	2.5W/2 灰白色	良好	石青・微小な長石・基 色粒子を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	117		Qp5-2	IIIb	無花器	無台环	-	(2.7)	(8.2)	体部~通部 1/6	2.5W/2 灰白色	良好	石青を少額。微小な長石 を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	118		Qp4-1 Qp5-2	IIIb	無花器	無台环	-	(2.65)	(9.0)	体部~通部 1/5	10W/1 灰	聖潔	長石や多く。石青を 微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切り。	
	119		Qp3-3	IIIb	無花器	無台环	-	(2.7)	(9.0)	体部~通部 1/5	10W/3/2 灰褐色	良好	石青・微小な長石・基 色粒子を微量含む。	内外面凹輪ナダ。追加開 軸へラ切りの後、ヘラナ ギ。	
23	120		Qp4-2 Qp4-3	IIIb	無花器	有台环	(9.6)	4.3	(5.6)	1/6	56/0 灰	聖潔	2.5W/1灰褐色。基部は ざらつ。黑色小点が やく目立つ。長石を少 量。石青を少額含む。	内外面凹輪ナダ。高台點 付け。	
	121		Qp4-2 Qp5-2	IIIb	無花器	有台环	(12.0)	3.65	(5.6)	1/3	56/0 灰	聖潔	石青・長石を多額。 ともに大粒が目立つ。小穂を 少額含む。	内外面凹輪ナダ。高台點 付け。	

番号	測定番号	地質	グリッド	層化	種別	岩種	計測値(cm)			薄厚度	色調	構成	粒土	調整±△%	備考	
							上界	下界	差							
	122	Qo3-2	IIIb層	粗粒岩	有台仰	(12.7)	4.35	(8.0)	-1/2	304/1 灰褐色	聖潔	石英・長石やや多く、ともに大粒が立ちつ。白色斜状を微細含む。	外表面凹凸ナメ。底面凹へタリ。黄白粒付り。			
	123	Qo5-2	IIIb層	粗粒岩	有台仰	-	(2.0)	-	体部下端～ 底部1/4	2.55/6 灰褐色	聖潔	鈍角・小長石を少々。石英を微細含む。	外表面凹凸ナメ。底面凹へタリ。黄白粒付り。			
	124	Qo4-2	IIIb層	粗粒岩	有台仰	-	(3.0)	(9.0)	体部～底部 1/4	2.55/2 灰褐色	聖潔	T.3586/2に5.5cm褐色で擦斑。石英・長石やや多く、ともに大粒がやや立つ。	外表面凹凸ナメ。底面付け。			
	125	Qo3-5 Qo3-2	IIIb層 e	粗粒岩	有台仰	-	(3.5)	-	体部～底部 1/7	2.55/2 灰褐色	聖潔	石英・長石をやや多く含む。	外表面凹凸ナメ。高台點付け(欠損)。	体部外面に火打さき痕。		
	126	Qo3-2	IIIb層	粗粒岩	断面	(13.1)	(2.4)	-	3.55/6 灰褐色	1/10	32/0灰褐色	聖潔	32/0灰褐色で擦斑。石英・長石を少々含む。	外表面凹凸ナメ。		
	127	Qo3-2	IIIb層	粗粒岩	断面	-	(1.45)	-	3.55/6 灰褐色	1/6	36/0 灰褐色	聖潔	鈍角・長石をやや多く。鈍角小石英を微量含む。	外表面凹凸ナメ。外面部凹へタリ。底面凹凸ナメ。		
	128	Qo5-2 Qo5-3 Qo5-4 Ro1-2 Ro2-2 Ro3-1 Ro3-2 Sp	IIIb層 e	粗粒岩	横粗	-	-	(21.2)	断面片	2.55/2 灰褐色 (内面: 30788/1 灰白色)	聖潔	やや塊。黒石を小個点が目立つ。長石を多量。石英を少々含む。	外表面ナメの後、平行タキ。内面カキメの後、ハサナギ。同心円当て具無。	外表面は自然 地。		
23	129	Qo4-1	IIIb層	粗粒岩	塊	-	-	-	側面部	NA/0 灰褐色	聖潔	石英・長石をやや多く。ともに大粒が立ちつ。	外表面凹へタリの後、平行タキ。内面カキメの後、ハサナギ。同心円当て具無。			
	130	Qo4-2 Ro1-5	IIIb層 e	粗粒岩	塊	-	-	-	側面部	NA/0 灰褐色	聖潔	長石をやや多く。石英を少々含む。	内面平行タキ。内面凹凸ナメの後、同心円当て具無。			
	131	Qo3-2	IIIb層	土師器	無台仰	-	(1.80)	(8.5)	底部1/4	30187/4 灰褐色	良好	石英・長石をやや多く。赤色斑子を少々。赤鐵を微量含む。	外表面凹凸ナメ。底面切削なし。			
	132	Qo	IIIb層	土師器	無台仰	-	(1.20)	(8.5)	底部1/4	30788/4 灰褐色	やや軟質	長石を多量。大粒が目立つ。長石をやや多く。小細孔を微量含む。	外表面凹へタリ。調整不規。内面凹凸ナメの後、底面切り離し不規。			
	133	Qo3-2 Qo4-1	IIIb層 e	土師器	塊	-	-	-	口縁部～解 剖部	30188/4 灰褐色	やや軟質	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。赤色斑子を少量。全盤部・小細孔を微量含む。	外表面凹へタリ。調整不規。内面凹凸ナメの後、底面切り離し不規。			
	134	Qo5-1	IIIb層	土師器	塊	(13.2)	(4.5)	-	口縫部～解 剖部上1/3	2.55/6 灰褐色	良好	石英多量。長石をやや多く。	外表面凹凸ナメ。			
	135	Qo3-3 Qo5-2	IIIb層 e	土師器	塊	(15.4)	(3.8)	-	口縫部～解 剖部上1/3	2.55/7 灰褐色	良好	石英多量。長石・黒石・黒雲母を少々。全盤部・縫隙を微量含む。	外表面は口縫部凹凸ナメ。縫隙カキメ。内面凹凸ナメ。			
	136	Qo5-3	IIIb層	土師器	塊	(15.2)	(6.3)	-	口縫部～解 剖部上1/3	2.55/7 灰褐色	良好	石英をやや多く。長石を少々。黒石・黒雲母・縫隙を微量含む。	外表面は口縫部凹凸ナメ。縫隙カキメ。内面凹凸ナメ。	口縫部内面に コガ。		
	137	Qo5-3	IIIb層	土師器	塊	(17.3)	(5.0)	-	口縫部～解 剖部上1/3	30788/4 灰褐色	良好	石英多量。長石・小細孔を少々。赤色斑子を微量含む。	外表面も口縫部凹凸ナメ。解剖カキメ。			
	138	Qo5-2 Qo5-1	IIIb層 e	土師器	塊	(16.4)	(10.1)	-	口縫部～解 剖部1/7	2.55/7 灰褐色	やや軟質	石英多量。長石やや多く。ともに大粒が目立つ。赤色斑子を微量。全盤部・縫隙を微量含む。	外表面凹凸ナメ。縫隙内・底面凹に2条の沈没。	口縫部内面に コガ。		
	139	Qo4-2	IIIb層	土師器	塊	(17.3)	(2.7)	-	口縫部1/7	2.55/8 灰褐色	やや軟質	石英多量。長石をやや多く。全盤部・縫隙を少々。赤色斑子を少々。赤色斑子を微量含む。	外表面は口縫部凹凸ナメ。縫隙カキメ。内面凹凸ナメ。			
	140	Qo4-3	IIIb層	土師器	塊	(18.7)	(2.7)	-	口縫部1/10	2.55/8 灰褐色	良好	石英多量。長石をやや多く。全盤部を少々。赤色斑子を微量含む。	外表面凹凸ナメ。			
24	141	Qo3-3 Qo4-3 Qo5-3 Qo5-5	IIIb層 e	土師器	塊	(21.1)	(9.4)	-	口縫部～解 剖部上1/8	2.55/7 灰褐色	良好	石英多量。長石をやや多く。全盤部・黒雲母を少々。白色彩物質・赤色斑子・小細孔を微量含む。	外表面は口縫部凹凸ナメ。縫隙カキメ。内面凹凸ナメ。			
	142	Qo3-3	IIIb層	土師器	塊	(20.9)	(2.6)	-	口縫部1/8	2.55/7 灰褐色	良好	石英を多量。長石・黒石・黒雲母を少々。赤色斑子を微量含む。	外表面凹凸ナメ。			
	143	Qo4-1	IIIb層	土師器	塊	-	(3.1)	(5.6)	側面部下端～ 底部1/4	2.55/6 灰褐色	良好	石英多量。大粒が目立つ。長石をやや多く。全盤部・黒雲母を少々。赤色斑子を微量含む。	外表面下端面凹へタリ。底面へラナダ。			
	144	Qo3-3	IIIb層	土師器	塊	-	(3.0)	(6.4)	側面部下端～ 底部1/4	30788/3 灰褐色	良好	石英多量。長石・黒石・黒雲母を微量含む。	外表面摩耗により調整不明。内面凹凸ナメ。			

頁面	規範番号	造構	アリッド	層位	種別	基盤	計測値(cm)			進度	色調	地成	拍土	調整ほか	備考
							凸様	溝様	通様						
145	Qp2-3	■b層	土師器	變	-	(2, 6)	(7, 8)	側剖下端～ 底剖1/5	7.5YR7/6 に5V褐色	良好	石英・長石をや多く、 赤色粘土を少量。含鐵 鉱・黒鉛子・黑色粘土・ 小礫を微量含む。	外面部細化ナゲム。内面ナ ゴ。			
146	Qp	■b層	土師器	變	-	(1, 10)	(7, 9)	底剖1/7	7.5YR5/3 に5V褐色	良好	石英・長石各々多く、 に大粒が目立つ。黒鉛子 を少許含む。	外面部細化不明。内面ナ ゴ。			
147	Qp2-1	■b層	土師器	變	-	-	-	側剖左	7.5YR0/3 に5V褐色	良好	石英・長石各々多く、 に大粒が目立つ。黒鉛子 を少許含む。	外面部平行タガ。内面同 じナゲムの後、同心円当て 具施。			
148	Rn5-5	■b層	粗遮器	無台坪	-	(1, 2)	(0, 6)	底剖1/6	7.5YR0/0 灰褐色	聖潔	微小な長石を多量、微 小な石英を微量含む。	外面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
149	Rn1-5	■b層	粗遮器	無台坪	-	(2, 12)	(0, 0)	体剖下端～ 底剖1/7	10YR8/3 淡黄色	良好	石英・長石をや多く、 白色粘土・黑色粘土を 微量含む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
150	Rn5-5	■b層	粗遮器	無台坪	-	(1, 6)	(0, 2)	体剖下端～ 底剖1/5	2.5YR7/2 淡黄色	良好	石英・長石をや多く、 白色粘土・黑色粘土を 微量含む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
151	Rn1-5	■b層	粗遮器	無台坪	-	(2, 0)	(0, 7)	体剖下部 1/8	2.5YR7/2 淡黄色	良好	聖潔。石英・長石を微量 含む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
152	Rn1-5	■b層	粗遮器	無台坪	-	(1, 5)	(0, 8)	底剖1/3	10YR8/3 淡黄色	良好	聖潔。不灰を微量含む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
153	Rn5-5	■b層	粗遮器	有台坪	-	(1, 9)	(5, 2)	体剖下端～ 底剖1/5	2.5YR7/2 淡黄色	良好	石英・長石をや多く、 黑色粘子・細繊を微量含 む。	内面部細化ナゴ。高台剗 付付。			
154	Rn1-5	■b層	粗遮器	有台坪	-	(3, 1)	-	体剖下端～ 底剖1/7	2.5YR7/2 淡黄色	良好	石英をや多く、長石を 少量、細繊を微量含む。	内面部細化ナゴ。高台剗 付付。			
155	Rn1-5	■b層	粗遮器	坪蓋	(14, 0)	(2, 1)	ツヨル付	-	2.5YR7/1 灰白色	聖潔	長石を微量、石英をや 多く含む。	外面部上口部細化ナゴ、 尖井部付近ヘラケツリ。 内面部細化ナゴ。			
156	Rn1-5	■b層	土師器	無台坪	-	(1, 1)	(7, 8)	体剖下端～ 底剖1/5	10YR7/4 灰褐色	良好	石英をや多く、黒鉛子 ・白色粘土・黑色粘土を 微量含む。	内面部細化ナゴ。底剖削 除ツーワイ。			
157	Rn4-5	■b層	土師器	變	-	-	-	側剖～鋼部 片	7.5YR7/4 灰褐色	良好	石英・長石を微量、 に大粒が目立つ。黑色 粘子・細繊を微量含む。	外面部細化ナゴ。底剖削 除ツーワイ。	後に成形に鋼部 穿孔2箇所。		
158	Rn5-5	■b層 Rp2-2	土師器	變	(16, 0)	(10, 5)	-	口縁部～鋼 部上半1/5	10YR7/3 灰褐色	良好	石英・長石多量で、 に大粒が目立つ。黑色 粘子・細繊を微量含 む。	内面部細化ナゴ。	口縁部内面 にコガ。		
159	Rp2-2	■b層	粗遮器	無台坪	(13, 0)	3, 4	(0, 8)	1/3	2.5YR7/2 灰褐色	聖潔	聖潔。表面はららか。長 石・石英を少許含む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ(左)。			
160	Rp3-2	■b層 +	粗遮器	無台坪	(12, 4)	3, 4	(9, 2)	1/6	2.5YR7/3 灰褐色	良好	石英・長石・黑色粘子・ 細繊を微量含む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
161	Rp3-2	■b層	粗遮器	無台坪	(12, 0)	3, 2	(9, 8)	1/10	2.5YR9/2 灰白色	聖潔	表面はららか。石英をや 多く、長石を少許含 む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
162	Rp3-2	■b層	粗遮器	坪	(12, 0)	(2, 6)	-	口縁部～体 部1/8	7.5YR7/6 灰褐色	聖潔	表面は滑らか。石英をや 多く、黒鉛子・黑色粘子・ 白色粘子を微量含 む。	内面部細化ナゴ。			
163	Rp	■b層	粗遮器	無台坪	-	(1, 0)	(7, 6)	底剖1/6	7.5YR7/6 灰褐色	聖潔	長石を多量、石英を微量 含む。	内面部細化ナゴ。底剖削 除ツーワイ。			
164	Rp4-2	■b層	粗遮器	無台坪	-	(1, 0)	(7, 0)	体剖下端～ 底剖1/4	10YR8/2 灰褐色	良好	石英を少量、長石・黑色 粘子・細繊を微量含む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
165	Rp1-1	■b層	粗遮器	無台坪	-	(1, 5)	(0, 4)	底剖1/6	2.5YR8/2 灰褐色	良好	石英を少量、黒鉛子・ 黑色粘子を微量含 む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
166	Rp1-3	■b層	粗遮器	無台坪	-	(1, 4)	(0, 5)	体剖下端～ 底剖1/4	10YR7/3 灰褐色	良好	石英を少量、長石を微量 含む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイの後、ヘラカ ダ。			
167	Rp1-2	■b層	粗遮器	無台坪	-	(2, 4)	(0, 6)	体剖下端～ 底剖1/7	2.5YR7/1 灰白色	聖潔	表面はざらつこ。石英をや 多く、長石を少許含 む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
168	Rp1-1	■b層	粗遮器	無台坪	-	(0, 9)	(0, 4)	底剖1/5	10YR8/3 淡黄色	良好	石英をや多く、長石を 少量、細繊を微量含 む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
169	Rp1-1	■b層	粗遮器	無台坪	-	(1, 5)	(0, 9)	底剖1/10	2.5YR7/2 灰褐色	良好	石英をや多く、大粒が目 立つ。長石を少許含む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。			
170	Rp2-2	■b層	粗遮器	有台坪	(11, 0)	3, 1	6, 7	3/7	3YR6/6 褐色	聖潔	DK/灰褐色で混在。長石を 多量、石英をや多く、 小礫を微量含む。	内面部細化ナゴ。追加削 除ツーワイ。高台剗 付付。			
171	Rp1-1	■b層	粗遮器	有台坪	-	(3, 1)	(7, 5)	体剖下端～ 底剖1/5	2.5YR7/1 灰白色	良好	石英・長石をや多く、 細繊を微量含む。	内面部細化ナゴ。高台剗 付付。			
172	Rp3-2	■b層	粗遮器	有台坪	-	(4, 0)	(5, 8)	体剖～底 部1/8	2.5YR7/2 灰白色	聖潔	やや塊。黑色・深灰色が主 で、白色が目立つ。黑色 粘子・白色粘子を少 量、微小な石英・小礫 を微量含む。	内面部細化ナゴ。底剖 削除調整。			
173	Rp3-2	■b層	粗遮器	坪蓋	-	(1, 0)	2.6	つまり坪 蓋	10YR8/1 灰白色	聖潔	やや塊。黑色・深灰色が主 で、白色が目立つ。黑色 粘子・白色粘子を少 量、微小な石英・小礫 を微量含む。	内面部細化ナゴ。つまり 蓋上面が凹出。			

特徴	同種 番号	遺傳	グリッド	部位	種別	基準	計測値 (cm)			達成度	色調	地成	胎土	調査記述	備考	
							口径	基高	通高							
	174		Rp2-2	■■■	直芯部	直	-	-	-	胴片面	N7/0 灰白色	堅韌	黑色小窓がやや目立つ。長石をやや多く、推小石と石英を少量含む。	外面カキメの痕。一部斜位ハラツナ。内面凹凸ナズ。		
	175		Rp1-2	■■■	直芯部	直	-	-	-	胴片面	2.256/1 灰灰色	堅韌	長石を多量、石英を少量化、黑色粒子を微量含む。	外面平行タキナの痕。一部斜位ハケタメ。内面同心円凸凹具致。		
	176		Rp4-3	■■■	直芯部	直	-	-	-	胴片面	7.051/1 灰白色	堅韌	石灰・長石を多量含む。	外面部行タタキ。内面横位、斜位ハケタメ。		
	177		Rp2-1	■■■	直芯部	直	-	-	-	胴片面	N6/0 灰白色	堅韌	5W7/1明快灰化。長石をやや多く、微小な不規則を少量化。	外面部行タタキ。内面同心円凸凹具致。		
	178		Rp3-2	■■■	土斜部	坪	(13.33)	(2.65)	-	口縁部～全体上半	1.0196/6 褐色	やや軟質質	黒い石英・長石が微量含む。	外面部行ナズ。		
	179		Rp2-2	■■■	土斜部	直台形	-	(0.75)	(7.6)	胴片面1/3	7.5398/4 浅黃褐色	やや軟質質	石灰多量で、大粒が目立つ。長石を少量化、赤色粒子・黑色粒子・小窓を微量含む。	外面部行凹ナズ。底脚間和ヘラ切り。		
	180		Rp4-2	■■■	土斜部	直	-	(1.4)	5.2	胴片面下段1/2	10W6/2 灰黄色	良好	石灰・長石多量で、ともに大粒が目立つ。黒雲母をやや多く、金雲母・小窓を微量含む。	外面部行ハラツナ。側腹が美しい。内面凹凸ナズ。底脚間和ヘラ切り(左)。		
	181		Rp1-1	■■■	土斜部	直	-	(2.6)	(5.6)	胴片面1/2	7.5392/4 灰黄色	良好	石灰・長石をやや多く、黒雲母・微細粒子を少量含む。	脚部外下面に1条の沈凹がある。内面凹凸ナズ。底部ヘラツナ。		
	182		Rp4-1	■■■	土斜部	直	-	(3.7)	(8.4)	胴片面下段1/2	10W6/4 浅黃褐色	良好	石灰・長石をやや多く、黑雲母・微細粒子を少量含む。	外面部行ナズ。底部ヘラツナ。		
	183		Rp5-2	■■■	土斜部	直	-	-	-	胴片面	7.5197/4 灰白色	良好	石灰・長石をやや多く、黑雲母・白針状鉱物・黑色粒子・細縫を微量含む。	外面部行カキメ。一部斜位ハケタメ。内面カキメ、外面部鋸削。		
	184	So1-5 So3-5	■■■	直芯部	直	(12.1)	(3.4)	-	口縁部～全体	10Z2/7	N6/0 灰白色	堅韌	長石を多量、微小な石英を微量含む。	外面部行ナズ。		
	185	So5-5	■■■	直芯部	直台形	-	(1.6)	(6.6)	体側下平～1/5	10W6/1 灰白色	堅韌	微小な長石を多量、微小な石英・白色針状物を微量含む。	外面部行ナズ。底脚間和ヘラ切り。			
	186	So5-5	■■■	直芯部	折斜井	(14.3)	(2.5)	-	口縁部1/10	2.057/1 灰白色	良好	長石を多量、石英を微量含む。	外面部行ナズ。			
	187	So5-5	■■■	土斜部	直	-	-	-	胴片面	10W6/2 灰白色	良好	石灰・長石をやや多く、黑雲母・赤色粒子・黑色粒子・小窓を微量含む。	外面部行ハケタメ。内面一部模様化(マノの後)、底脚間和ヘラツナ。			
	188	So2-5	■■■	土斜部	直	-	(2.1)	丸底	直底1/3	10W7/4 灰白色	良好	石灰・長石をやや多く、黑雲母・黑雲母・赤色粒子・黑色粒子を微量含む。	外面部行ハケタメ。内面底脚間和ヘラツナ。			
	189		Sg2-1	■■■	直芯部	直台形	(12.6)	3.0	0.87	1/6	7.5396/1 灰白色	堅韌	長石を多量、石灰を少量化、黑雲母を微量含む。	外面部行凹ナズ。底脚間和ヘラ切り。		
	190		Sg4-1	■■■	直芯部	直台形	(12.6)	2.7	0.11	1/10	2.256/2 灰白色	良好	石灰・長石をやや多く、黑雲母を微量含む。	外面部行凹ナズ。底脚間和ヘラツナ。		
	191		Sg5-2	■■■	直芯部	直台形	-	(1.6)	(7.6)	直底1/5	2.937/1 灰白色	堅韌	微小な石英・微小な長石を少量含む。	外面部行ナズ。底脚間和ヘラ切り。		
	192		Sg3-2	■■■	直芯部	直台形	-	(3.0)	(6.0)	体側下部～1/7	2.936/1 灰白色	良好	石灰を少量、長石・細縫を微量含む。	外面部行凹ナズ。底脚間和ヘラツナ。		
	193		Sg5-1	■■■	直芯部	直台形	-	(2.6)	(4.9)	体側下部～1/5	N6/0 灰白色	堅韌	長石を少量化、微小な石英を微量含む。	外面部行凹ナズ。直台脚付。		
	194		Sg3-1	■■■	直芯部	直台形	-	(1.5)	(8.69)	直底1/5	2.5198/3 灰黄色	良好	石灰・長石を少量、小窓を微量含む。	外面部行ナズ。内面凹凸ナズ。直台脚付。		
	195		Sg2-3	■■■	直芯部	直台形	-	(3.1)	(8.7)	体側下平～直底1/8	N5/0 灰白色	堅韌	表面はざらつく。石灰・長石を多量含む。	外面部行凹ナズ。直台脚付。		
	196		Sg5-1	■■■	直芯部	直台形	-	(1.7)	2.824H	-	1/6	N6/0 灰白色	堅韌	石灰を微量含む。	外面部行カキメ。平行タタキ。内面ナズの後、同心円凸凹具致。	
	197		Sg2-3	■■■	直芯部	長崩頸	(13.6)	(2.6)	-	口縁部	N4/0 灰白色	堅韌	石灰・長石をやや多く、黑雲母を微量含む。	外面部行凹ナズ。		
	198		Sg4-1	■■■	土斜部	直	-	-	-	胴片面	10W6/4 浅黃褐色	良好	石灰を多量、長石をやや多く、黑雲母を微量含む。	外面部行カキメ。平行タタキ。内面ナズの後、同心円凸凹具致。		
	199		To3-5	■■■	直芯部	直台形	(11.7)	2.85	(8.1)	1/9	2.517/1 灰白色	堅韌	微小な長石を少量、石灰を微量含む。	外面部行凹ナズ。底脚間和ヘラツナ。		
	200	Td4-5 Td1-2	■■■	直芯部	直台形	(12.3)	3.3	8.8	5/4	10W6/2 灰白色	良好	石灰多量で、大粒が目立つ。長石を少量化、細縫を微量含む。	外面部行凹ナズ。底脚間和ヘラツナ。			

種別	接觸 番号	直標	アリット	層化	種別	器種	計測値(cm)			遺傳度	色調	後成	埴土	調整ほか	備考
							口径	高さ	底径						
201	To4-5	III層	直標器	無台坪	(1.1) 10	3.25	(7.4)	1/3	2.5W/2 灰黄色	聖潔	細小な石を含む。細小な石を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り。			
202	To4-5 Tp1-1	III層 +	直標器	無台坪	(1.1, 7)	3.2	9.0	2/3	2.5W/1 灰黄色	聖潔	2027/1 壊壊死化。底小塊点が目立つ。石英・長石をやや多く含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り(左)。			
203	To4-5 Tp4-1 Tp6-1 Eo3-5	III層 + + +	直標器	無台坪	(13.0)	3.1	7.8	1/2	30YR7/3 にひい、黄 褐色	良好	良好で、硬質	石英・長石を少量。白色鉄状物・小礫を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り(左)。		
204	To4-5	III層	直標器	無台坪	(12.9)	3.35	9.40	1/2	2.5W/2 灰白色	良好	石英やや多く。大粒が少く目立つ。長石を少量。黑色粒子・小礫を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り(左)。			
205	To4-5	III層	直標器	無台坪	(12.6)	3.2	(9.1)	1/4	2.5T/2 灰黄色	聖潔	石英・長石をやや多く。細胞・鐵質含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り(左)。			
206	To4-5	III層	直標器	無台坪	(12.9)	3.1	(9.4)	1/6	2.5T/1 灰白色	聖潔	石英・長石を多量。細胞を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り。			
207	To4-5	III層	直標器	坪	(13.1)	2.85	-	1/6	10YR8/2 灰白色	良好	石英を少量。長石を微量含む。	内外面凹凸ナダ。			
208	To4-5	III層	直標器	無台坪	-	(2.1)	(8.4)	1/2	体部下平～ 底部1/3	2.5T/1 灰白色	聖潔	石英の層で。太粒が目立つ。長石を少量。黑色粒子・小礫を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り。		
209	To5-5	III層	直標器	無台坪	-	(1.7)	(9.2)	1/2	体部下平～ 底部1/3	2.5T/1 灰白色	聖潔	長石をやや多く。石英・小礫を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り。		
210	To4-5	III層	直標器	無台坪	-	(1.3)	(10.6)	1/2	30YR7/2 灰白色	やや軟質	石英やや多く。微小な石英・長石を微量含む。	内部摩擦により彌散不規則。内部凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り。			
211	To5-5	III層 +	直標器	無台坪	-	(2.1)	(7.4)	1/2	体部下平～ 底部1/3	2.5W/1 灰白色	聖潔	長石をやや多く。石英を微量含む。白色鉄状物・小礫を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り。		
212	To5-5	III層	直標器	有台坪	(14.0)	0.5	-	1/6	10YR7/1 灰白色	聖潔	長石を少量。石英を微量含む。	内外面凹凸ナダ。口縁部外にくぼみ。			
213	To5-1	III層	直標器	有台坪	-	(2.9)	(8.0)	1/4	30YR7/3 浅青褐色	やや軟質	石英・長石を少額。橙色粒子を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り。高台貼り付け。			
214	To4-5	III層	直標器	有台坪	-	(0.7D)	(6.6)	底部1/5	N5-9 灰白色	聖潔	20W/1 壊壊死化。長石を少量。石英を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底面貼り付け。			
215	To4-4	III層	直標器	坪蓋	(13.0)	0.90	1/2	1/2	10YR6/1 灰白色	聖潔	長石を少量。石英を微量含む。	内外面凹凸ナダ。			
216	To5-5 Eo2-5 Tp2-2	III層 + + +	直標器	坪蓋	13.3	3.2	1.85±0.2 2.55	1/2	35-0 灰白色	聖潔	端面は滑らか。長石をやや多く。石英・白色鉄状物を微量含む。	外側は口縁部凹凸ナダ。天井部が擦痕・ラブリ。内側は凹凸ナダ。底面は墨色で、墨色珠形で。貼り付け。			
217	To4-5	III層	直標器	坪蓋	(16.0)	4.1	12.5±0.9 2.35	5/9	7.5W/1 灰白色	聖潔	黑色・深灰色が目立つ。長石を多量。微小な石英・白色鉄状物を微量含む。	外側は口縁部凹凸ナダ。天井部が擦痕・ラブリ。内側は凹凸ナダ。底面は墨色珠形で。貼り付け。			
218	To3-1 To4-5 Tp1-1	II層 + + +	直標器	把頭蓋 蓋	(11.0)	0.5	1.85±0.8 —	5/8	30YR4/1 灰白色	聖潔	黑色小孔点が目立つ。長石をやや多く。微小な石英を微量含む。	内外面凹凸ナダ。			
219	To4-5	III層	土師器	無台坪	(12.2)	5.0	7.6	1/2	30YR7/4 にひい、黄 褐色	良好	石英多量で、大粒が目立つ。長石をやや多く。小礫を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り。			
220	To4-4	III層	土師器	無台坪	-	(1.2)	(8.8)	底部1/9	30YR6/3 浅青褐色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。金雲母・白雲母鉄状物・赤色粒子・黑色粒子・小礫を微量含む。	内外面凹凸ナダ。底部切り離し不規則。			
221	To4-5 To5-5	III層 + +	土師器	裏	(18.0)	6.40	-	口縁部～腹 部上位1/6	30YR6/3 にひい、黄 褐色	良好	石英・長石多量で。ともに大粒が目立つ。金雲母・白雲母鉄状物・赤色粒子・小礫を微量含む。	外側は口縁部凹凸ナダ。摩耗カキメ。内面凹凸ナダ。			
222	To4-5	III層	土師器	裏	(18.9)	6.65	-	口縁部～腹 部上位1/6	2.5W6/6 灰白色	良好	石英・長石多量。石英・黑雲母をやや多く。白色鉄状物・細胞を微量含む。	外側は口縁部凹凸ナダ。摩耗カキメ。内面凹凸ナダ。			
223	To4-5	III層	土師器	裏	(20.0)	6.65	-	口縁部～腹 部上位1/6	2.5W6/3 にひい、黄 褐色	良好	石英を微量。長石・黑雲母をやや多く。白色鉄状物・細胞を微量含む。	外側カキメ。一部崩壊ハタキ。内面凹凸ナダ。摩耗カキメ・崩壊ハタキ。			
224	To4-5	III層	土師器	裏	-	(16.3)	-	側面部1/5	2.5W6/4 にひい、褐 褐色	良好	石英・長石を多量。黑雲母をやや多く。赤褐色粒子を微量含む。	外側カキメ。一部崩壊ハタキ。内面凹凸ナダ。摩耗カキメ・崩壊ハタキ。			
225	To3-5	III層	土師器	裏	-	-	-	側面部	2.5W6/2 にひい、褐 褐色	良好	長石多量で。大粒が目立つ。石英・黑色粒子・細胞を微量含む。	外側面凹凸ナダ。底部凹凸ハーフ切り。			
226	Tp5-2	III層	直標器	無台坪	(12.2)	2.9	(6.4)	1/10	2.5W8/1 灰白色	良好					

序号	固有番号	地質	グリッド	層位	種別	岩種	計測値(cm)			堆存度	色調	塊成	粒度	調整ほか	備考
							口径	周高	芯長						
27	Tp1-3	IIIb層	粗粘岩	無台坪	(12.6)	3.2	9.2	1/3	10TB8/2 灰白色	大小鉄質 粒含む。	石英を少量。長石・白色 鉄質物。黑色粒子を微量 含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)。			
28	Tp2-1 Tp2-2 Tp2-3	IIIb層 " " "	粗粘岩	無台坪	(11.6)	3.1	8.5	1/2	10TB8/1 灰白色	塑性	石英・長石多量で、とも に大粒が目立つ。白色鉄 質物を微量含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)。			
29	Tp2-3 Tp2-2 Tp2-1	IIIb層 " " "	粗粘岩	無台坪	(11.3)	3.0	(8.0)	2/7	10TB8/2 灰白色	大小鉄質 粒含む。	石英をやや多く。長石を 微量含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)。摩耗が 著しい。			
30	Tp4-1 Tp4-2	IIIb層 " " "	粗粘岩	無台坪	(12.2)	2.9	8.3	2/3	2.0T7/1 灰白色	良好で 硬質	長石石英多量で、微小な 長石・白色鉄質物を微量 含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)の後。ヘ ナダ。			
31	Tp5-1 Tp5-2 Tp5-3	IIIb層 " " "	粗粘岩	無台坪	(12.6)	3.25	7.4	4/7	2.0T7/2 灰黄色	良好で 硬質	長石石英多量で、微小な長 石・白色鉄質物を微量含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)。			
32	Tp5-1 Tp5-2 Tp5-3	IIIb層 " " "	粗粘岩	無台坪	(12.4)	3.1	7.8	4/9	2.0T7/1 灰白色	良好で 硬質	長石石英多量で、微小な長 石・白色鉄質物を微量含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)の後。ヘ ナダ。			
33	Tp6-2	IIIb層	粗粘岩	無台坪	(12.2)	<2.6	—	口縫部～体 部/6	2.0T6/1 灰白色	良好で 硬質	長石石英多量で、微小な長 石・白色鉄質物を微量含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)。			
34	Tp7-1 Tp7-2 Tp7-3	IIIb層 " " "	粗粘岩	無台坪	—	(1.3)	7.7	波浪1/2	10TB7/2 に似る 黄褐色	良好	長石石英多量で、大粒が目立 つ。石英をやや多く。黑 色鉄質物を微量含む。	外表面剥離不明。内外面輪 郭軸へフタ切り(左)。			
35	Tp8-1	IIIb層	粗粘岩	無台坪	—	(2.4)	(7.4)	体部下平～ 上傾/1	2.0T7/1 灰白色	良好で 硬質	長石石英多量で、微小な長 石・白色鉄質物を微量含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)。			
36	Tp8-3	IIIb層	粗粘岩	無台坪	—	(1.6)	(8.0)	波浪1/9	2.0T7/1 灰白色	良好で 硬質	長石石英多量で、石英を少 量。小範囲で微細含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)。			
37	Tp9-1 Tp9-2	IIIb層 " " "	粗粘岩	無台坪	<2.1	7.7	体部下平～ 上傾/3	10TB6/1 に似る 灰褐色	塑性	石英を少 量。長石をや 多く。と ても大粒が目立 つ。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)。		小崩壊。		
38	Tp9-1	IIIb層	粗粘岩	無台坪	—	(1.3)	(8.6)	体部下平～ 上傾/3	2.0T7/0 灰褐色	塑性	石英多量。石英をや 多く含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)。			
39	Tp10-1	IIIb層	粗粘岩	無台坪	—	(0.6)	(8.8)	波浪1/3	10TB8/3 浅黃褐色	良好	石英。長石・鉄質物を微量 含む。	外表面剥離不明。内外面輪 郭軸へフタ切り(左)。			
40	Tp10-2	IIIb層	粗粘岩	無台坪	—	(0.6)	(8.8)	波浪1/3	10TB8/3 浅黃褐色	良好	石英。長石・鉄質物を微量 含む。	外表面剥離不明。内外面輪 郭軸へフタ切り(左)。			
41	Tp11-1	IIIb層	粗粘岩	無台坪	—	(0.55)	(9.6)	波浪1/3	N4/0 灰色	塑性	石英。微小な長石を多 量。微小な石英をやや多 く含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(左)。			
42	Tp12-1 Tp12-2	IIIb層 " " "	粗粘岩	有台坪	(0.6)	4.3	5.6	1/2	N6/0 灰色	塑性	微小な長石をやや多く。 微小な石英を微量含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(右)。高圧軸 付ける。			
43	Tp13-1 Tp13-2	IIIb層 " " "	粗粘岩	有台坪	11.4	3.7	8.4	3/7	10TB6/3 に似る 黃褐色	良好	長石石英多量で、大粒が目立 つ。鉄質物を微量含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(右)。高圧軸 付ける。			
44	Tp15-1 Tp15-2	IIIb層 " " "	粗粘岩	布台坪	(11.0)	3.75	6.6	1/2	N5/0 灰色	塑性	石英多量。長石を多 く。と ても大粒が目立 つ。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(右)。高圧軸 付ける。			
45	Tp16-1	IIIb層	粗粘岩	有台坪	(12.0)	(3.85)	(6.8)	2/9	10TB7/1 灰白色	塑性	基盤面さらさら。長石・石英 を多量。長石を少 量。と ても大粒が目立 つ。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(右)。高白軸 付ける。			
46	Tp16-2 Tp16-3	IIIb層 " " "	粗粘岩	有台坪	(15.8)	6.85	9.3	4/7	N5/0 灰色	塑性	石英多量。長石をや 多く。と ても大粒が目立 つ。鉄質物を微量 含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(右)。高白軸 付ける。			
47	Tp16-2	IIIb層	粗粘岩	無台坪	—	(1.15)	—	底板片	N6/0 灰色	塑性	石英多量。長石を 多く。と ても大粒が目立 つ。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(右)。	後成前に低照 度輪廓(=一 ₂)。		
48	Tp16-3	IIIb層	土師器	鍋	(36.6)	(4.6)	—	口縫部～体 部/上位1/11	N6/0 灰色	良好	石英多量。長石を 多く。と ても大粒が目立 つ。鉄質物を微量 含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(右)。			
49	Tp17-1 Tp17-2	IIIb層 " " "	土師器	鍋	(35.4)	(6.0)	—	口縫部～体 部/上位1/11	N6/0 灰色	良好	石英多量。長石を 多く。と ても大粒が目立 つ。鉄質物を微量 含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(右)。	体外外観にス ズ。		
50	Tp17-1	IIIb層	土師器	鍋	(39.6)	(4.0)	—	口縫部～解 部/上位1/9	N6/0 灰色	良好	石英多量。長石を 多く。と ても大粒が目立 つ。鉄質物を微量 含む。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(右)。			
51	Tp18-1	IIIb層	土師器	鍋	—	(1.5)	(6.4)	底板片1/5	N7/0 灰色	良好	石英多量で、長石を少 量。黒色粒子を少 量。白色粒子を少 量。	内外面輪郭ナダ。底面同 軸へフタ切り(右)。			
52	Tp19-1	IIIb層	土師器	鍋	—										

種別	接觸 部番号	直標	アリット	層位	種別	器種	計測値(cm)			遺傳度	色調	構成	地土	調整ほか	備考
							口径	最高	底深						
	253	Tp3-1 Tp4-1	■■■■■ e	土頭器	甕	-	(3.35)	8.7	銅部下端～ 底深1/3	7.5W6/4 に5G5・褐色	良好	石英・長石多量で、大粒 が目立つ。黒鉛を少 量。赤色脱字・小織を微 観察。	銅部外端面下端～ケズ リ。内面山字型部下端カキ メの他。追加ナフ。		
	254	Tp5-1	■■■■■	土頭器	甕	-	(2.8D)	(8.0)	銅部下端～ 底深1/2	9W5/4 に5G5・褐色	良好	石英をや多く、長石を少 量。白色脱字が目立つ。	内外面面面ナフ。追加軽 井ヘア切り。		
	255	To4-4 To4-5	■■■■■ e	粗底器	無台坪	(11.9)	3.2	(8.2)	1/4	10W5/2 灰白色	良好	石英やや多く、大粒が目立 つ。長石を少量。小織を微 観察。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	256	To2-5	■■■■■	粗底器	無台坪	(12.0)	2.75	(8.6)	1/7	5W6/1 灰黑色	聖潔	長石をや多く、石英を少 量。白色脱字物・細織を 微量含む。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	257	To3-5 Tp1-1	■■■■■ e	粗底器	無台坪	(12.2)	2.9	8.3	1/2	10W7/3 に5G5・褐色	良好	石英を少、微小な 織と細織を微観察。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	258	To4-5	■■■■■	粗底器	無台坪	(12.5)	3.6	(7.6)	1/4	7.5W6/1 灰黑色	聖潔	画面は白らか。長石をや 多く、微小な石英・白 色脱字物・黑色脱字を微 観察。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
29	259	To2-5	■■■■■	粗底器	甕	(12.7)	(2.3)	-	口縁部2/3	10W8/2 灰白色 やや乾燥	良好	画面やや多く、大粒が目 立つ。微小な石英を少 量。小織を微観察。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	260	To2-5	■■■■■	粗底器	無台坪	-	(8.9)	(8.9)	底部1/3	2.5W7/1 灰白色	聖潔	石英・長石やや多く、大 粒が目立つ。織を微量 含む。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	261	To1-5 Tp1-2	■■■■■ e	粗底器	無台坪	-	(1.9)	(9.2)	体部下端～ 底深1/2	2.5W7/2 灰黑色	良好	石英・織を少、微小な 長石を微観察。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	262	To1-5	■■■■■	粗底器	無台坪	-	(1.9G)	(9.2)	体部下端～ 底深1/4	10W7/2 に5G5・褐色	良好	石英をや多く、長石を少 量。織を微量含む。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	263	To4-5	■■■■■	粗底器	無台坪	-	(8.9)	(9.6)	底部1/4	7.5W6/2 に5G5・褐色	良好	石英・長石をや多く含 む。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	264	To2-5 Tp1-1 Tp1-2	■■■■■ e	粗底器	有台坪	11.2	3.9	8.75	2/4	2.5W2/6 灰黄色	良好	石英・長石や多く、と ても大粒が目立つ。小織 を微量含む。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。高台付付		
	265	To1-5 Tp1-1	■■■■■ e	粗底器	有台坪	(12.0)	3.9	(8.6)	1/4	5W6/1 灰黑色	聖潔	長石多量で、大粒が目立 つ。長石を少、石英を微 観察。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。高台付付		
	266	To5-5	■■■■■	粗底器	有台坪	-	(2.1)	(2.6)	1/4	5W6/1 灰黑色	聖潔	画面は白らか。長石を少 量。石英・小織を微量 含む。	内外面面面ナフ。つま り正面に僅かに凹み、中 央がやや高い。		
	267	To2-5 Tp1-2	■■■■■ e	粗底器	礪瓶	-	(8.5D)	-	銅部2/3	3W7/1 灰青灰色	聖潔	長石多量で、大粒が目立 つ。長石をや多く、小織 を微量含む。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	268	To4-4	■■■■■	粗底器	甕	-	-	-	銅部2/3	2.5W5/1 灰黑色	聖潔	2.5W7/1 開闊灰灰面で織。	内面一部キヨキヨ後、平 行ヘタキ。内面一面織面 で織。		
	269	To2-5	■■■■■	土頭器	甕	(15.3)	(2.1)	-	口縁部～瓶 部1/6	10W5/2 に5G5・褐色	良好	石英・長石をや多く、 且つ目立つ。小織を微量 含む。	内面は口縁部面とナフ。 細織キヨキヨ。		
	270	To4-4	■■■■■	土頭器	甕	-	(3.4)	(6.9)	銅部下端～ 底深1/2	2.5W4/2 灰黑色	良好	石英を多量、長石を少 量。高脱字・白色脱字・ 黑色脱字を微量含む。	内面一部ヘタキ。内面カ キ。		
	271	Tp5-3	■■■■■	土頭器 土器	小皿	-	(0.6)	(5.7)	底部1/9	10W5/3 浅褐色	良好	古有物感ぬでない。 微小な石英・微小な長 石・赤色脱字を微量含 む。	内外面面面ナフ。内面回 転ヘア切り。		
	272	Co1-1	■■■■■	粗底器	無台坪	(11.7)	2.9	(8.6)	1/4	5W6/1 灰黑色	聖潔	長石を多量、石英を少 量。小織を微量含む。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	273	Tp2-1	■■■■■	粗底器	甕	(10.6)	(2.7)	-	口縁部～体 部上半1/7	2.5W1/2 灰黑色	聖潔	2.5W7/1 明瞭灰面。	内面一部ヘタキ。		
	274	Tp2-1	■■■■■	粗底器	甕	(11.2)	(2.5)	-	口縁部～体 部上半1/8	2.5W5/1 灰黑色	聖潔	石英・長石を微量含む。	内外面面面ナフ。		
	275	Tp1-1	■■■■■	粗底器	甕	(12.0)	(2.9)	-	口縁部～体 部1/9	2.5W6/3 浅褐色	良好	石英をや多く。長石を少 量。赤色脱字・小織を微 観察。	内外面面面ナフ。		
	276	Tp1-3	■■■■■	粗底器	無台坪	-	(2.0)	(7.6)	体部下端～ 底深1/6	2.5W5/3 浅褐色	良好	石英をや多く。長石を少 量。赤色脱字・小織を微 観察。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	277	Tp5-2	■■■■■	粗底器	無台坪	-	(2.7)	(8.6)	体部下端～ 底深1/3	10W5/3 浅褐色	良好	石英をや多く。長石を少 量。赤色脱字含む。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	278	Tp1-1	■■■■■	粗底器	無台坪	-	(1.10)	(9.4)	体部下端～ 底深1/3	2.5W6/1 灰黑色	聖潔	石英・長石をや多く、と ても大粒が目立つ。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		
	279	Tp1-1	■■■■■	粗底器	無台坪	-	(1.1)	8.6	底部完全	10W5/3 浅褐色	良好	石英や多く。長石を少 量。赤色脱字含む。	内外面面面ナフ。追加回 転ヘア切り。		

辨認 番号	遺構 番号	遺構 グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm)			遺存度	色調	地成	粘土	調整日か	備考	
						口径	高さ	底径							
30	280	Epl-1	IIIb層	粗造器	磨台坪	-	(1.9) (0.6)	体部下半～ 底部1/7	L.DY7/1 灰白色	良好	無小石面・無小石 ・白色針状物・網織を 微量含む。	内外面凹凸ナギ。底部凹 凸へり切り。			
	281	Epl-2	IIIb層	粗造器	磨台坪	-	(0.7) (0.9)	体部下半～ 底部1/4	D.BW/1 灰白色	聖潔	石英・長石をやや多く含 む。	内外面凹凸ナギ。底部凹 凸へり切り。			
	282	Epl-1 Epl-2 Epl-3	IIIb層 e e	粗造器	磨台坪	-	(2.1)	8.4	体部下半～ 底部3/4	D.H/1 灰白色	聖潔	長石をやや多く。石英を 少々。小礫を微量含む。	内外面凹凸ナギ。底部凹 凸へり切り(左)。		
	283	Epl-3	IIIb層	粗造器	有台坪	-	(4.1) (7.2)	体部～底部 1/7	10.DY5/1 褐色	聖潔	画面はざらつく。石英・ 長石をやや多く含む。	内外面凹凸ナギ。底部1/7 付け。	内面7/3V/3 付キアーブ色 の自然縫。		
	284	Epl-2	IIIb層	粗造器	牙齒	(12.9)	2.3	-	8.8 2/5	N7/0 灰白色	聖潔	長石をやや多く。石英を 少々。小礫を微量含む。	内外面凹凸ナギ。上面は 上面に僅かな凹凸。 中間部がやや深い。		
	285	Epl-2	IIIb層	粗造器	甕	-	-	-	胸部1/2 D.H/0 灰白色	聖潔	7.DW7/1 褐灰色	内面平行タキシの痕。 底カキメ、内面同心円当 て直線。	内面平行タキシの後、 底カキメ、内面同心円當 て直線。		
31	286	Epl-1	IIIb層	粗造器	甕	-	-	-	胸部1/2 D.H/2/3 灰黄色	良好	石英・無小石を微量 含む。	内外面凹凸ナギ。			
	287	Epl-2	IIIb層	土師器	甕	(11.1)	(2.4)	-	口縁部～体 部上半1/8	D.W7/3 灰白色	良好	石英・無小石を微量 含む。	内面平行タキシの後、 底カキメ、内面同心円當 て直線。		
	288	Epl-1	IIIb層	土師器	甕	(13.4)	(2.9)	-	口縁部～体 部上半1/8	D.W7/3 灰白色	良好	無小石面・長石を少々。 網織を微量含む。	内外面凹凸ナギ。		
	289	Epl-1 Epl-2	IIIb層 e	土師器	甕	-	(5.9)	-	口縁部～體 部上半1/8	D.W8/2 灰白色	良好	石英・長石をやや多く。 黒雲母を少々。金雲母・ 小礫を微量含む。	内外面ともに凹凸ナギの 後。底部カキメ。	外面上ス。	
	290	Ypl-1	IIIb層	粗造器	磨台坪	(12.0)	3.4	8.5	3/8	10.YW6/1 褐色	聖潔	DW8/1灰白色。画面は ざらか。長石を多々。大 粒が立ちつ。石英を少 量。小礫を微量含む。	内外面凹凸ナギ。底部凹 凸へり切り(左)。		
	291	Ypl-2	IIIb層	粗造器	磨台坪	-	(8.4)	(9.2)	底部3/4	S7/0 灰白色	聖潔	長石を多量。石英をや や多く。小礫を微量含む。	内外面凹凸ナギ。底部凹 凸へり切り(右)。		
32	292	Ypl-1	IIIb層	粗造器	有台坪	-	(3.4)	7.0	体部～底部 1/3	W6/0 灰白色	聖潔	長石を多量。石英をや や多く。小礫を微量含む。	内外面凹凸ナギ。底部凹 凸へり切り付。		
	293	詳土	土師器	甕	-	(3.7)	(7.2)	側面下部～ 底部1/7	10.W7/3 灰白色	良好	石英・長石をやや多く。 黑色粒子・網織を微量含 む。	内面凹凸ナギ。内面凹凸 和外側凹凸。	外側凹凸。		
	294	Plp-2	IIb層	粗造器	磨台坪	-	-	-	底照片	S7/0 灰白色	聖潔	長石を多量。石英を少量 含む。	内外面凹凸ナギ。底部凹 凸へり切り。	底部外側に壓 痕「手」。	
	295	Plp-2	IIb層	粗造器	(底面 (背後))	-	-	-	天津照片	S5/0 灰白色	聖潔	無小石面をやや多く。 無小石英を微量含む。	内面平行タキシの痕。 底部外側に壓 痕「手」。	内面に壓痕。	
	296	Qpl-3 Rp-2	IIb層 e	粗造器	有台坪	-	(1.5)	(7.4)	体部下端～ 底部1/3	S6/0 灰白色	聖潔	石英・長石をやや多く。 小礫を微量含む。	内外面凹凸ナギ。底部外 側へり切り。	底部外側に壓 痕「手」。	
	297	Rpl-2 Spl-2	IIb層 e	粗造器	磨台坪	-	(3.0)	(8.2)	体部下半～ 底部1/3	S6/0 灰白色	聖潔	画面はざらか。長石をや や多く。長石を微量含 む。	内外面凹凸ナギ。底部外 側へり切りの後。一部へ リナギ。	底部外側に壓 痕「手」。	
33	298	Rpl-2	IIb層	粗造器	甕	-	-	-	底部1/2	10.YW6/1 褐色	聖潔	長石を多量。無小石 をやや多く。網織を微量 含む。	内外面凹凸ナギ。底部凹 凸へり切り。	底部外側に壓 痕「手」。	
	299	Tpl-2 Epl-2	IIb層 e	粗造器	磨台坪	-	(0.9)	(7.6)	体部下端～ 底部3/4	D.W7/1 灰白色	聖潔	石英・長石をや多く。と もに大粒がやや目立つ。	内外面凹凸ナギ。底部外 側へり切り。	底部外側に壓 痕「手」。	

墨書き器

辨認 番号	遺構 番号	遺構 グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm)			遺存度	色調	地成	粘土	調整日か	備考	
						口径	高さ	底径							
32	294	Plp-2	IIb層	粗造器	磨台坪	-	-	-	底照片	S7/0 灰白色	聖潔	長石を多量。石英を少量 含む。	内外面凹凸ナギ。底部凹 凸へり切り。	底部外側に壓 痕「手」。	
	295	Plp-2	IIb層	粗造器	(底面 (背後))	-	-	-	天津照片	S5/0 灰白色	聖潔	無小石面をやや多く。 無小石英を微量含む。	内面平行タキシの痕。 底部外側に壓 痕「手」。	内面に壓痕。	
	296	Qpl-3 Rp-2	IIb層 e	粗造器	有台坪	-	(1.5)	(7.4)	体部下端～ 底部1/3	S6/0 灰白色	聖潔	石英・長石をやや多く。 小礫を微量含む。	内外面凹凸ナギ。底部外 側へり切り。	底部外側に壓 痕「手」。	
	297	Rpl-2 Spl-2	IIb層 e	粗造器	磨台坪	-	(3.0)	(8.2)	体部下半～ 底部1/3	S6/0 灰白色	聖潔	画面はざらか。長石をや や多く。長石を微量含 む。	内外面凹凸ナギ。底部外 側へり切りの後。一部へ リナギ。	底部外側に壓 痕「手」。	
	298	Rpl-2	IIb層	粗造器	甕	-	-	-	底部1/2	10.YW6/1 褐色	聖潔	長石を多量。無小石 をやや多く。網織を微量 含む。	内外面凹凸ナギ。底部凹 凸へり切り。	底部外側に壓 痕「手」。	
	299	Tpl-2 Epl-2	IIb層 e	粗造器	磨台坪	-	(0.9)	(7.6)	体部下端～ 底部3/4	D.W7/1 灰白色	聖潔	石英・長石をや多く。と もに大粒がやや目立つ。	内外面凹凸ナギ。底部外 側へり切り。	底部外側に壓 痕「手」。	

その他の遺物

辨認 番号	遺構 番号	遺構 グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm)			遺存度	色調	地成	粘土	調整日か	備考	
						口径	幅	厚さ							
33	300	2号土柱	Spl-2	1層	木製品	漆板	33.5	(16.4)	0.25	表面：スギ / 木取り：楓				骨孔1箇所。	
	301	Plp-5	IIb層	土製品	円筒形 土製品	-	-	-	底照片	S7/0 灰白色	良好	内面平行タキシ。内面圓 形不明。底部外側底付压 痕。			
	302	Op	IIb層	企画製品	漆板	長さ (4.4)	幅 3.3	厚さ 1.6	重量: 9.8g					器により小範 囲付。	
	303	Plp-2	IIb層	石製品	砾石	長さ 6.7	幅 3.1	厚さ 1.6	重量: 51.0 g / 材質：砾石					内面裏面に壓 痕「手」。	中柱。
	304	Spl-2	漆板層	石製品	砾石	長さ (14.40)	幅 2.1	厚さ (5.45)	重量: 929.0 g / 材質：砾石					内面裏面に壓 痕「手」。	中柱。



調査区遠景（南から）



調査区近景（北西から）



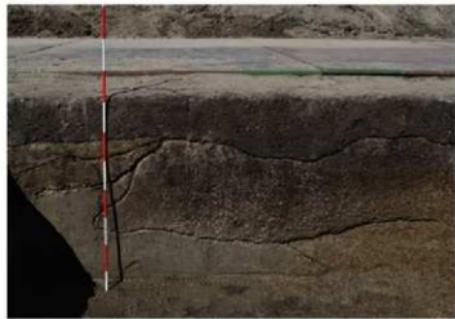
調査区全景（南西から）



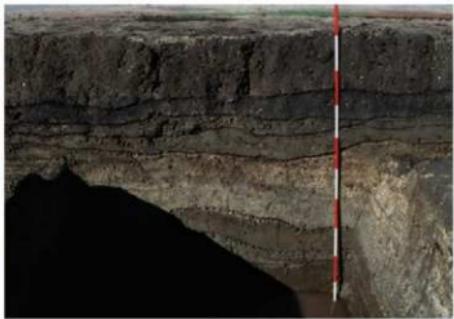
基本土層①（南西から）



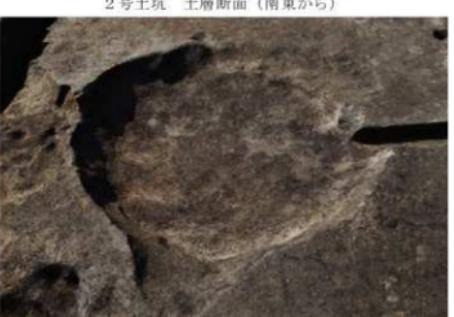
基本土層②（南西から）



基本土層③（南西から）



基本土層④（南西から）





4号土坑 土層断面（南東から）



4号土坑（北東から）



5号土坑 土層断面（南西から）



5号土坑（北東から）



6号土坑 土層断面（南西から）



6号土坑（南西から）



7号土坑 土層断面（南西から）



7号土坑（南から）



8号土坑 土層断面（東から）



8号土坑（東から）



9号土坑 土層断面（北西から）



9号土坑 遺物出土状態（北西から）



10号土坑 土層断面（南東から）



10号土坑（南西から）



1～4号溝（北から）



1～4号溝（東から）

図版6 1～4号溝、2・33号ピット



1号溝 土層断面（南東から）



1号溝（北西から）



2・3号溝（西から）



3号溝 遺物出土状態（西から）



4号溝 土層断面（東から）



4号溝（西から）



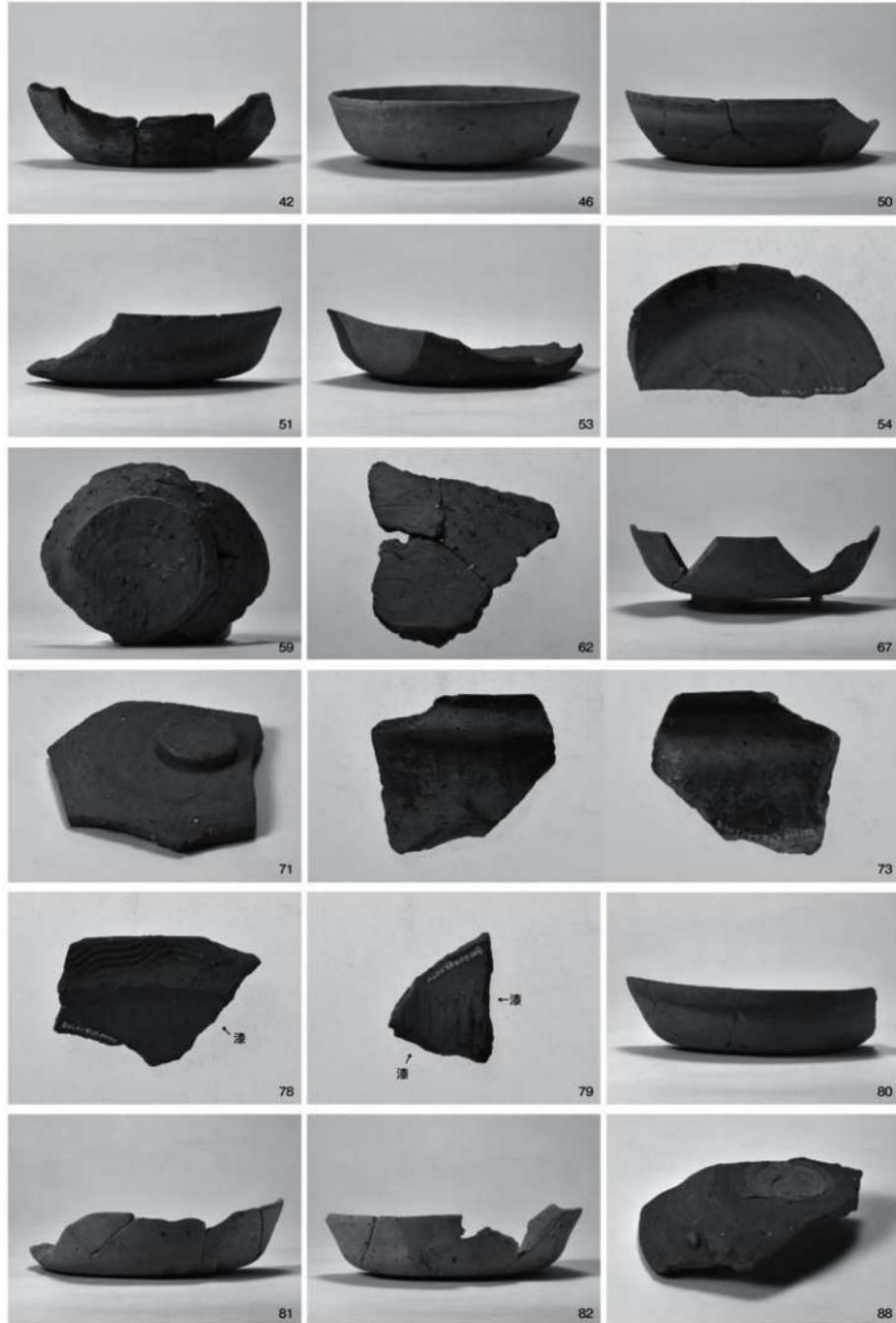
2号ピット 土層断面（南西から）

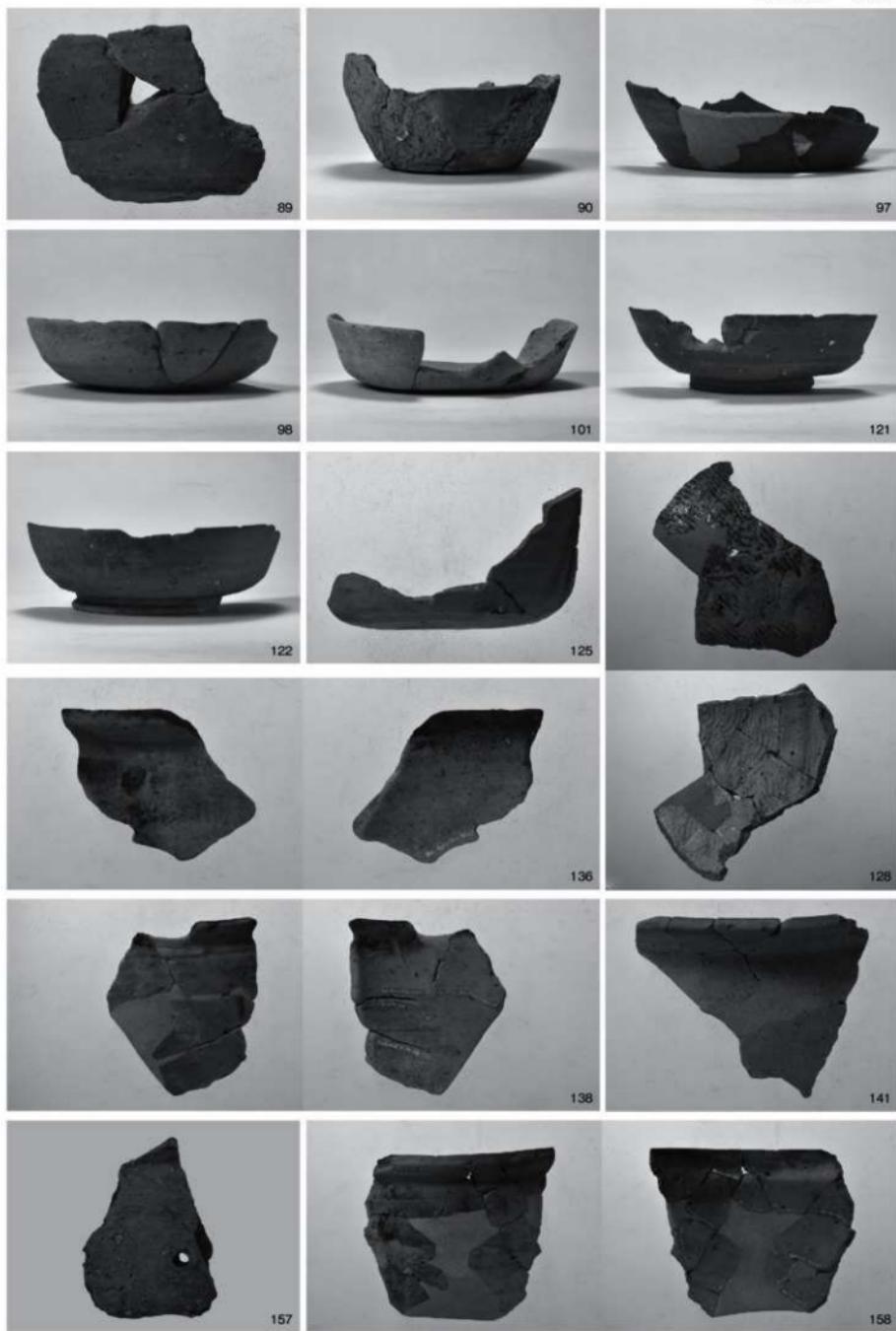


33号ピット 土層断面（東から）

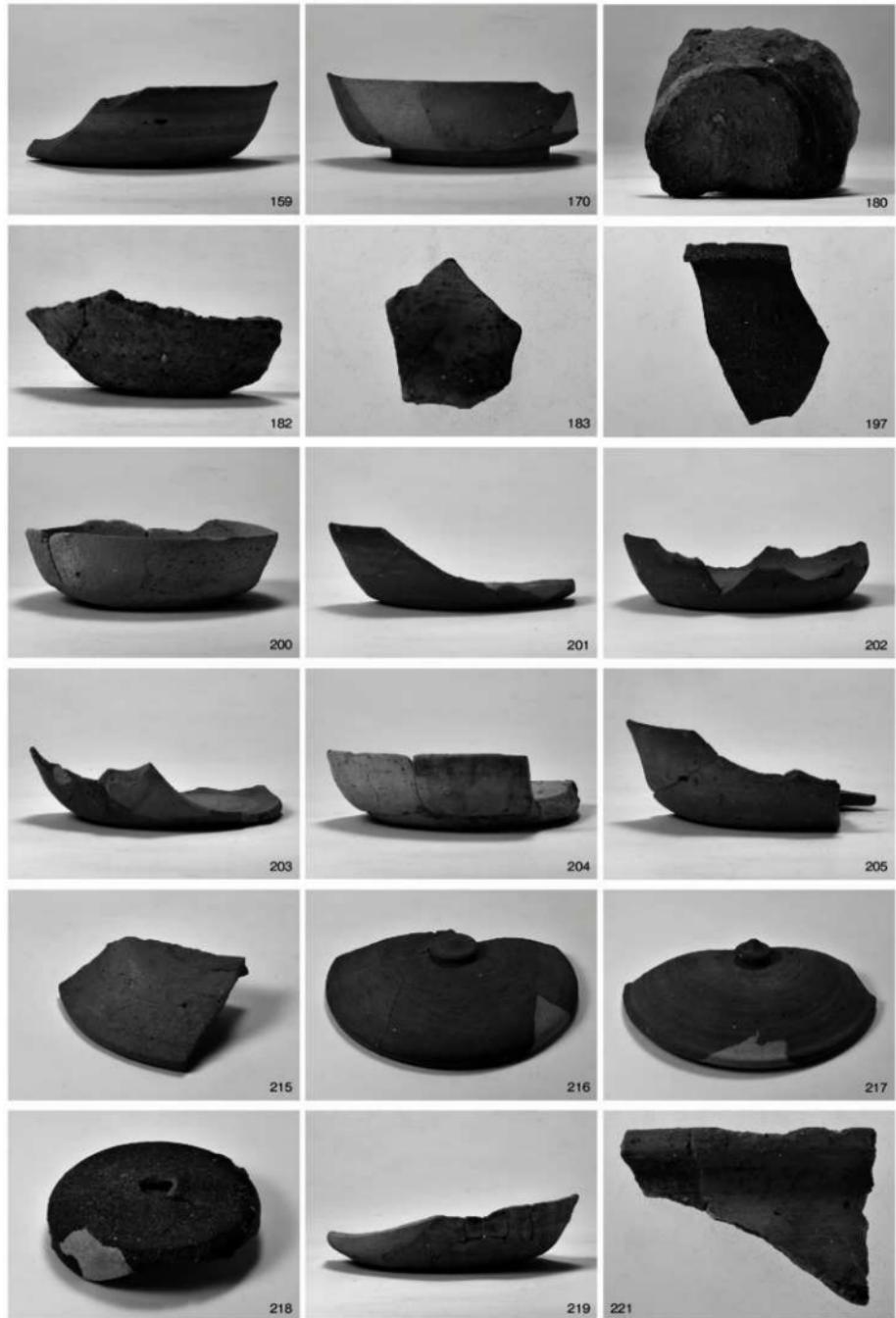


図版8 土器（2）



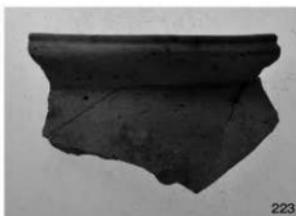


図版10 土器（4）





222



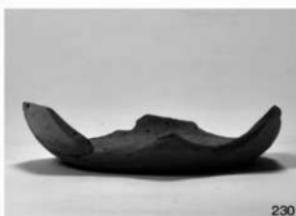
223



224



228



230



231



232



242



243



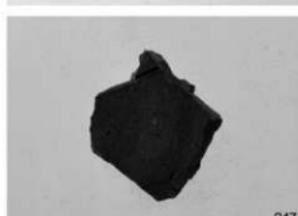
244



245



246



247



249



254



258

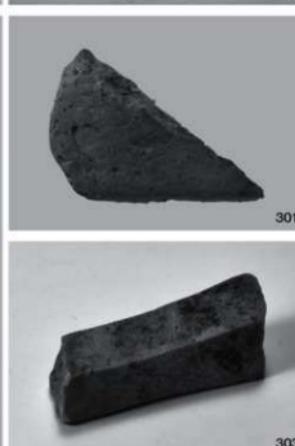


264



265

図版12 土器（6）、墨書き土器、その他の遺物



報告書抄録

菅田遺跡 発掘調査報告書Ⅱ

経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

発行 令和4（2022）年3月24日

新発田市教育委員会

新潟県新発田市乙次 281 番地 2

印刷 島津印刷株式会社
